

登米市男女共同参画に関する 市民アンケート結果

**令和7年1月
登米市市民生活部**

目 次

1	調査概要	(頁)
(1)	調査目的	4
(2)	調査方法	4
(3)	回収結果	4
(4)	結果報告書の見方	5
(5)	第4次男女共同参画基本計画に掲げる数値目標	5
2	調査結果	(頁)
1	男女平等や性別による役割分担意識について	
【問1】	あなたは、「男女共同参画社会」について知っていますか	6
【問2】	あなたは、次のような項目について男女の地位は平等になっていると思いますか	
①	家庭の中で	8
②	職場の中で	10
③	地域の中で	12
④	しきたりや慣習で	14
⑤	法律や制度の上で	16
⑥	政治の場で	18
⑦	教育の場で	20
⑧	社会全体として	22
【問3】	「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか	24
【問4】	あなたは、女性が仕事を持つことについてどう思いますか	26
【問5】	あなたの家事、育児、介護にかかわる時間は、1日当たりどのくらいですか	
①	家事	28
②	育児	30
③	介護	32
【問6】	あなたは、あなた自身が介護が必要になった時、身の回りの世話は次のどの形を希望しますか	34
【問7】	働きたい女性が、出産・子育て・介護などにより就業を中断することなく、意欲を持って仕事を継続していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか	36
【問8】	男性が育児休業や介護休業を取得することについて、どう思いますか	
①	育児休業	38
②	介護休業	40
【問9】	男性が育児休業や介護休業を取得できない、または取得しない理由をどう考えますか	42
【問10】	コミュニティや行政区などの地域活動の方針決定の場に、女性の参画が少ないのはなぜだと思いますか	44
【問11】	地域において男女共同参画を進めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか	46
【問12】	地域において、役員などの女性の割合をあらかじめ一定数に定め、積極的に起用する制度（クオータ制）を導入することは必要だと思いますか	48

2 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

【問13】あなたは、ワーク・ライフ・バランスについて知っていますか	50
【問14】生活の中での、仕事・家事（育児、介護）・プライベートな時間（趣味など）の優先度についてお答えください	
①現状	52
②理想	54
【問15】あなたは、管理職に昇進できるのであれば、昇進したいと思いますか	56
【問16】問15で、「3. どちらかといえば昇進したくない」または「4. 昇進したくない」と回答した方に伺います。どのような状況になれば昇進したいと思いますか	58
【問17】仕事と家庭を両立していくためには、どのようなことが必要だと思いますか	60
【問18】ワーク・ライフ・バランスの推進により、考えられる効果はどれですか	62

3 人権について

【問19】あなたは、性的マイノリティの総称の1つとして使用されているLGBTQ+（プラス）について知っていますか	66
【問20】多様な性のあり方や性的マイノリティに関する相談窓口があることを知っていますか	68
【問21】性的マイノリティの方を支援していくためにどのようなことが必要だと思いますか	70
【問22】DVの被害を受けたり、身近で見聞きしたことがありますか	72
【問23】DV相談の窓口が、国、県、市、警察にそれぞれあることを知っていますか	74
【問24】DVを防ぎ、被害を受けた方を支援していくためにどのようなことが必要だと思いますか	76
【問25】児童虐待を受けたと思われる児童を発見した場合、それを児童相談所または福祉事務所に通告する義務があることを知っていますか	80
【問26】児童虐待をなくすためにどのようなことが必要だと思いますか	82

4 男女共同参画社会の実現に向けた市の取組について

【問27】男女共同参画社会の実現に向けて、市がすべきことはどのようなことだと思いますか	84
---	----

5 あなたご自身について

【問28】あなたの性別についてお答えください	87
【問29】あなたの年齢はいくつですか	87
【問30】あなたの職業は次のうち、どれにあたりますか	88
【問31】あなたは結婚していますか	90
【問32】あなたの世帯は次のどれにあてはまりますか	92

3 自由意見

（頁）

【問33】男女共同参画社会の実現に向けたまちづくりについて、ご意見、ご要望、あなたが経験されたこと、感じていることなど、ご自由に記入してください	94
--	----

4 アンケート調査表

登米市男女共同参画に関する市民アンケート

1 調査概要

(1) 調査目的

本調査は、市民の男女共同参画に関する意識や現状、ニーズを把握し、「第5次登米市男女共同参画基本計画・行動計画」を策定するための基礎資料とすることを目的に実施したものの。

(2) 調査方法等

調査方法	行政区長による配布、郵送回収又はWEBによる回答
調査対象	18歳以上の登米市民3,000人（住民基本台帳から無作為抽出）
調査期間	令和6年9月19日～令和6年10月4日
調査内容の項目	(1) 男女平等と性別による役割分担意識について (2) 仕事と生活について (3) 人権について (4) 行政がすべきことについて (5) 回答者の属性について (6) 自由記載意見

(3) 回収結果

【性別】

性 別	配布数	回収数	回収率	構成比
男 性	1,500	370	24.7%	37.7%
女 性	1,500	521	34.7%	53.1%
記載なし	-	91	-	9.2%
計	3,000	982	32.7%	100.0%

【年代別】

町域別	配布数	回収数	回収率	構成比
18～29歳	600	105	17.5%	10.7%
30～39歳	600	154	25.7%	15.7%
40～49歳	600	189	31.5%	19.2%
50～59歳	600	191	31.8%	19.5%
60歳以上	600	324	54.0%	33.0%
記載なし	-	19	-	1.9%
計	3,000	982	32.7%	100.0%

(4) アンケート結果の見方

- ・アンケートの回答は、「単一回答（１つだけを選択する回答）」と「複数回答（該当する項目を選択する回答）」とがあり、複数回答の場合は「複数回答」と表記している。
- ・複数回答の項目ごとの構成比は、対象回答者数に対して回答数の割合を示しているため、構成比の合計が100%を超える場合がある。
- ・調査結果の数値は、原則として構成比（％）で表記しており、値の母数は、その設問項目の集計対象総数であり、「総計＝N」と表記している。
- ・構成比（％）は、小数点以下第２位を四捨五入し、小数点以下第１位までを表記しているため、個々の比率の合計と全体の示す数値とが一致しない場合がある。
- ・クロス集計の結果を示す図表においては、該当者のない分類項目及び「その他」「無回答」は省略しているものがある。
- ・性別の欄においては、性別の記載を希望しない方を考慮し「無回答」を設けており、その場合には「記載なし」と表記している。

(5) 第４次男女共同参画基本計画に掲げる数値目標

	項目	今回調査値 R6. 10	前回調査値 H30. 11	前回との 比 較	目標値
1	「男女共同参画」の具体的な内容の認知度	72. 7%	67. 6%	5. 1 %	100. 0%
2	「男は仕事、女は家庭」などの性別による固定的な役割分担意識をもたない人の割合	75. 9%	66. 1%	9. 8 %	90. 0%
3	D V（配偶者やパートナーからの暴力）の相談窓口の認知度	75. 9%	72. 4%	3. 5 %	100. 0%
4	家庭生活で男女の地位が平等だと思う人の割合	32. 4%	28. 7%	3. 7 %	50. 0%
5	職場で男女の地位が平等だと思う人の割合	28. 2%	22. 9%	5. 3 %	50. 0%
6	地域社会の中で男女の地位が平等だと思う人の割合	26. 2%	26. 4%	△ 0. 2 %	50. 0%
7	社会通念、習慣、しきたりなどで男女の地位が平等だと思う人の割合	13. 3%	13. 3%	0. 0 %	50. 0%
8	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の具体的な内容の認知度	54. 1%	47. 1%	7. 0 %	50. 0%
9	女性委員がいる審議会等の割合	76. 5% (R6. 4. 1)	72. 9% (H30. 4. 1)	3. 6 %	100. 0%
10	審議会等における女性委員の登用割合	22. 8% (R6. 4. 1)	27. 5% (H30. 4. 1)	△ 4. 7 %	40. 0%

2 調査結果

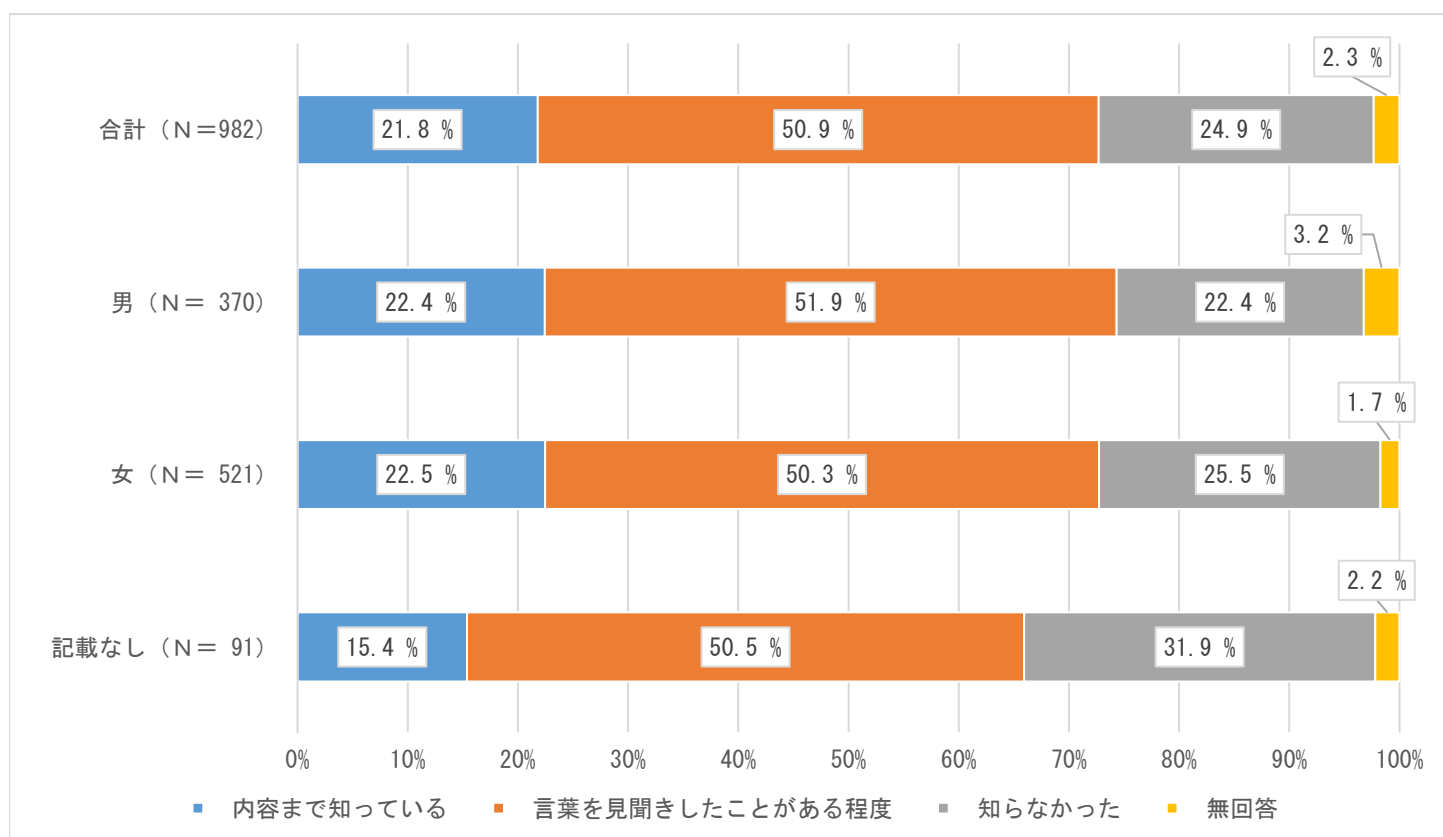
1 男女平等や性別による役割分担意識についておたずねします（問1～問12）

【問1】 あなたは、「男女共同参画社会」について知っていますか。

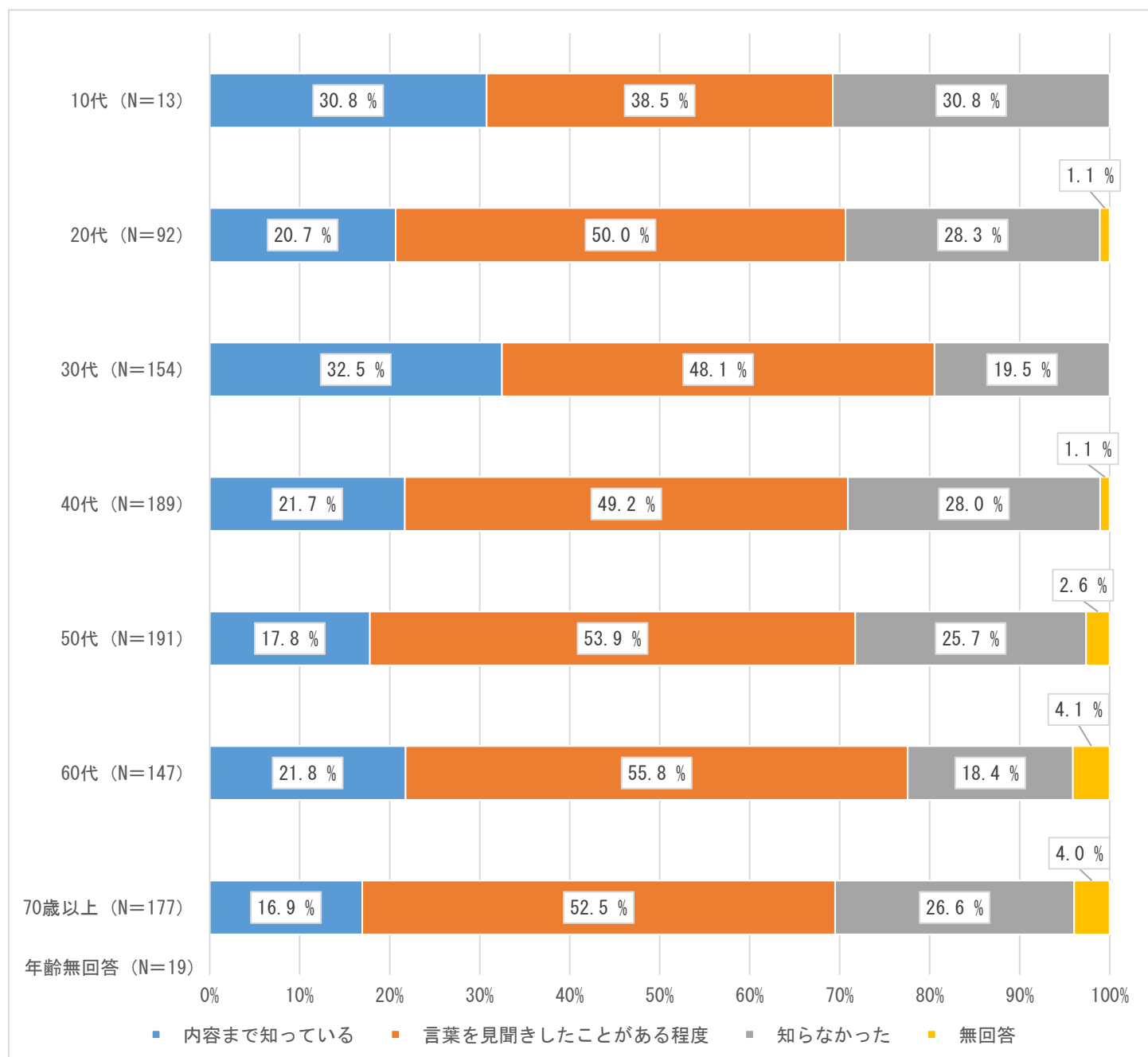
全体でみると、「言葉を見聞きしたことがある程度」が男性では51.9%、女性では50.3%となり、最も多くなった。「内容まで知っている」は前回調査と比較して男性で0.2ポイント増、女性で5.3ポイント増となった一方、「知らなかった」は男性で5.6ポイント減、女性で4.9ポイント減となった。

年代別にみると、「知らなかった」が10代、20代で30%前後と高くなったが、60代が18.4%と最も低くなった。

[全体]



[年代別]



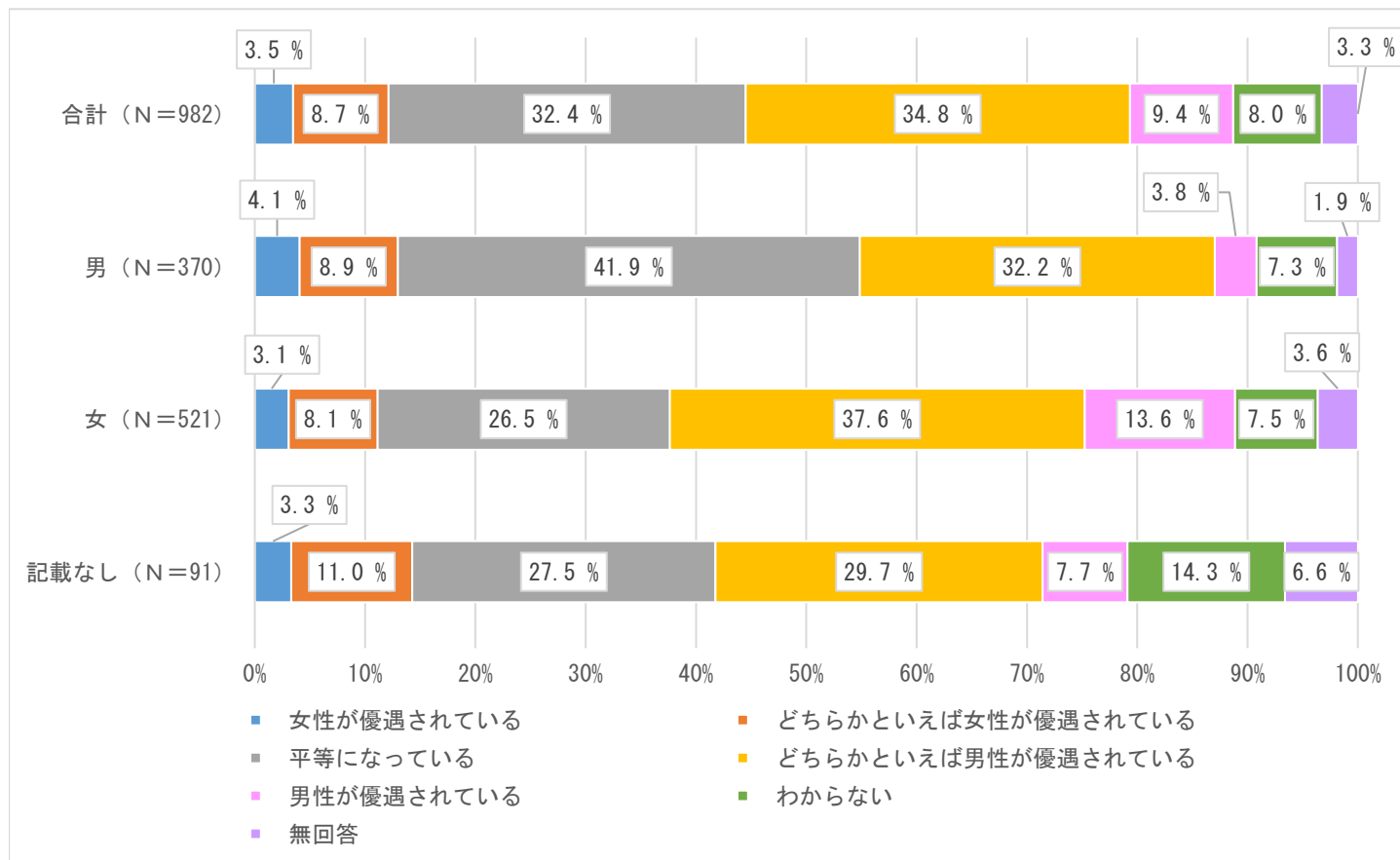
【問2】あなたは、次のような項目について男女の地位は平等になっていると思いますか。

①家庭の中で

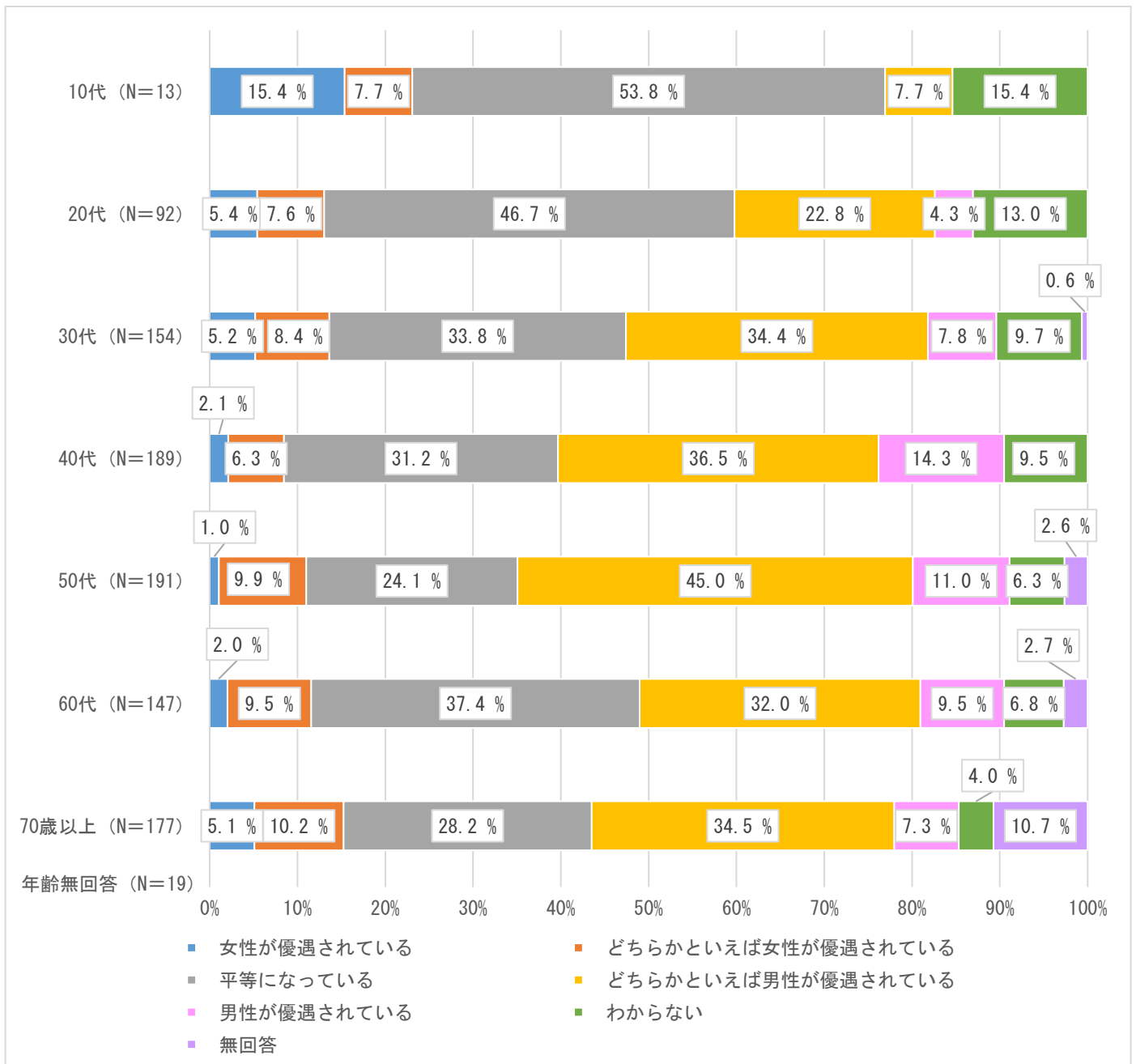
全体でみると、「平等になっている」が男性では41.9%と最も多くなっているが、女性では26.5%となり、男女の意識には15.4ポイントの差があった。女性では「どちらかといえば男性が優遇されている」が37.6%となり、最も多くなった。「平等になっている」は、前回調査と比較して男性が9.2ポイント増、女性が1.0ポイント増となった。

年代別にみると、「平等になっている」が、10代で53.8%となり、最も多くなった。

[全体]



[年代別]

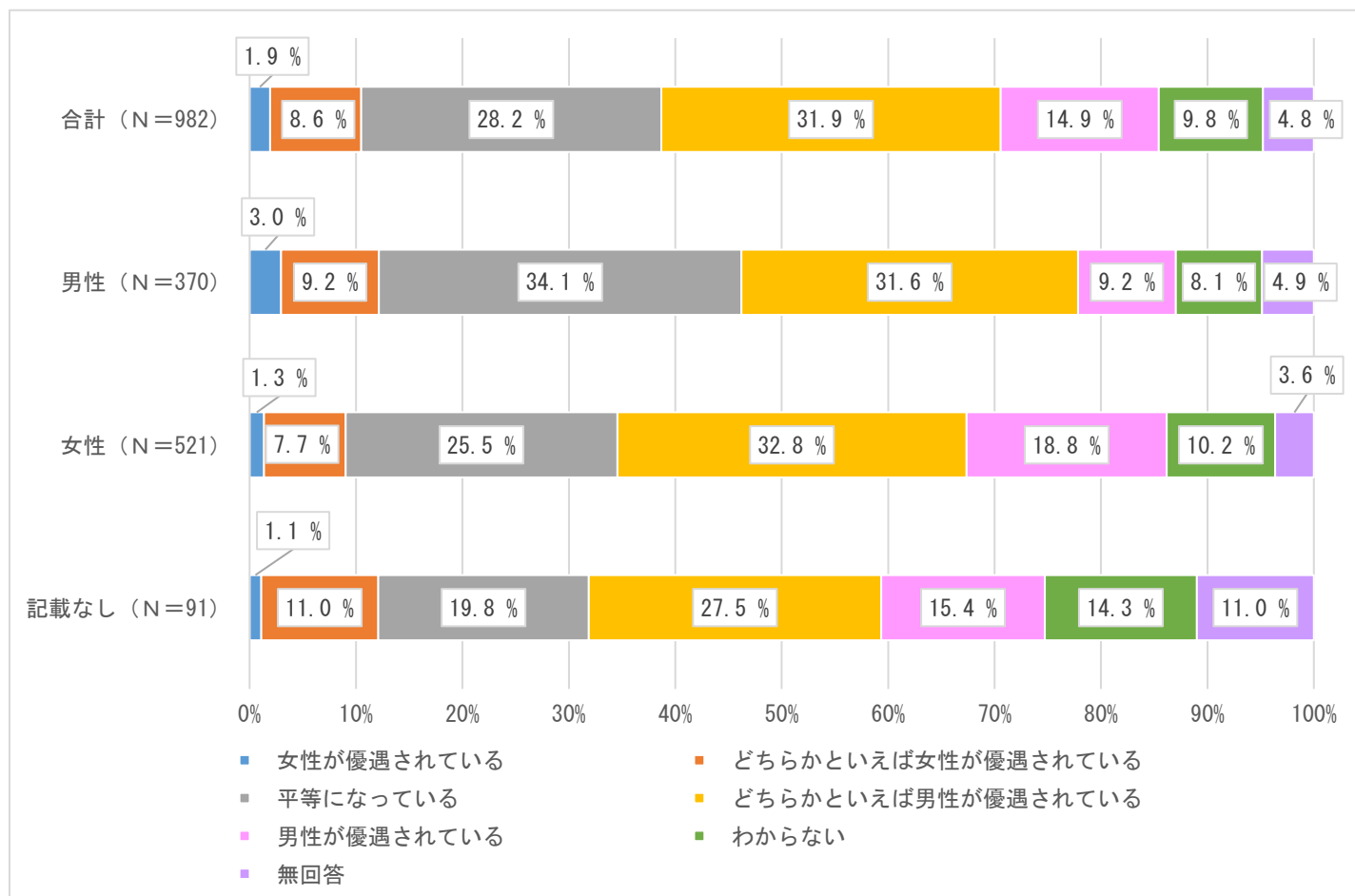


②職場の中で

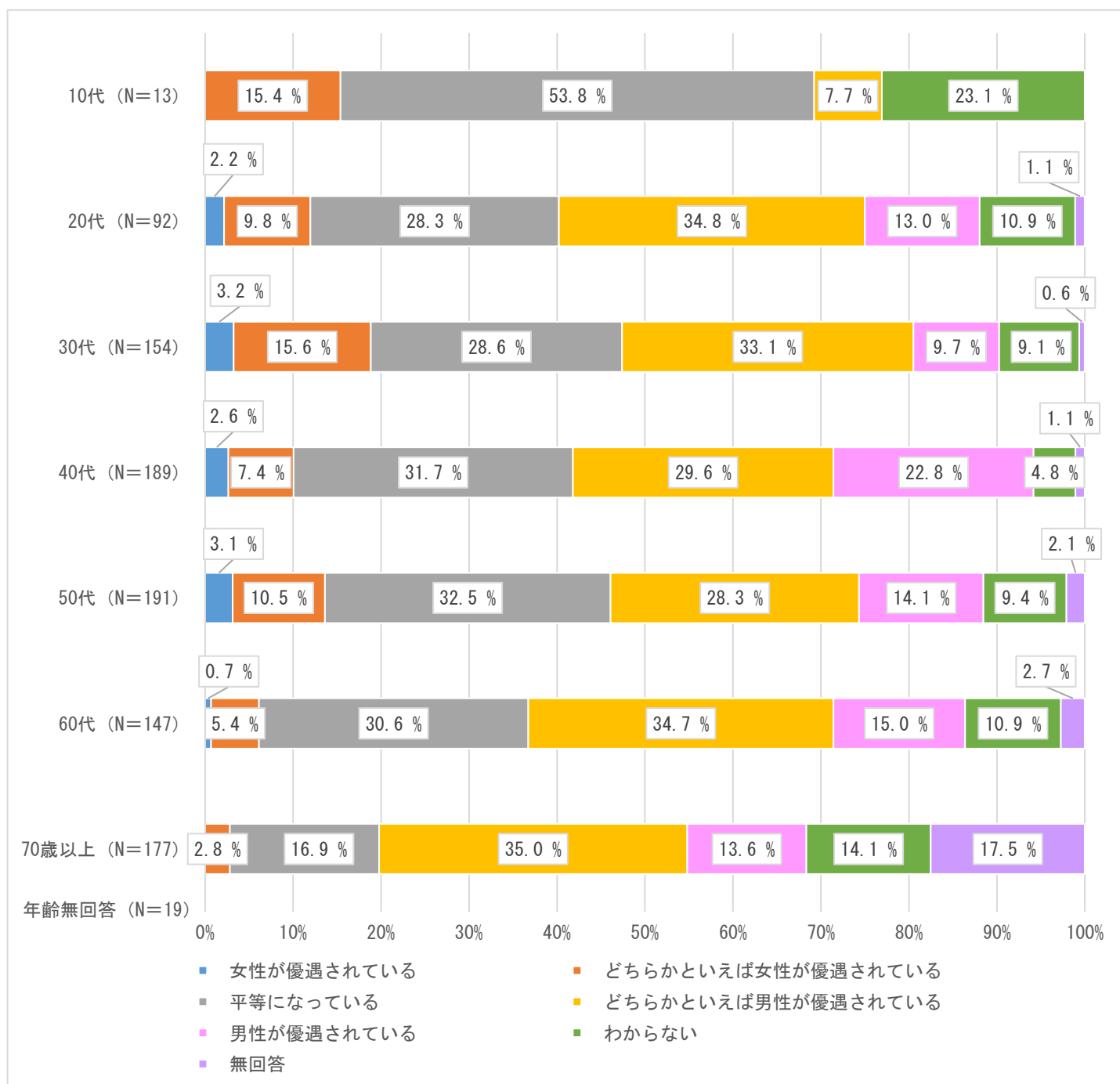
全体でみると、男性では「平等になっている」が34.1%、女性では「どちらかといえば男性が優遇されている」が32.8%となり、最も多くなった。「平等になっている」は、前回調査と比較して男性が9.8ポイント増、女性が3.6ポイント増となった。

年代別にみると、「平等になっている」が、10代で53.8%となり、最も多くなった。

[全体]



[年代別]

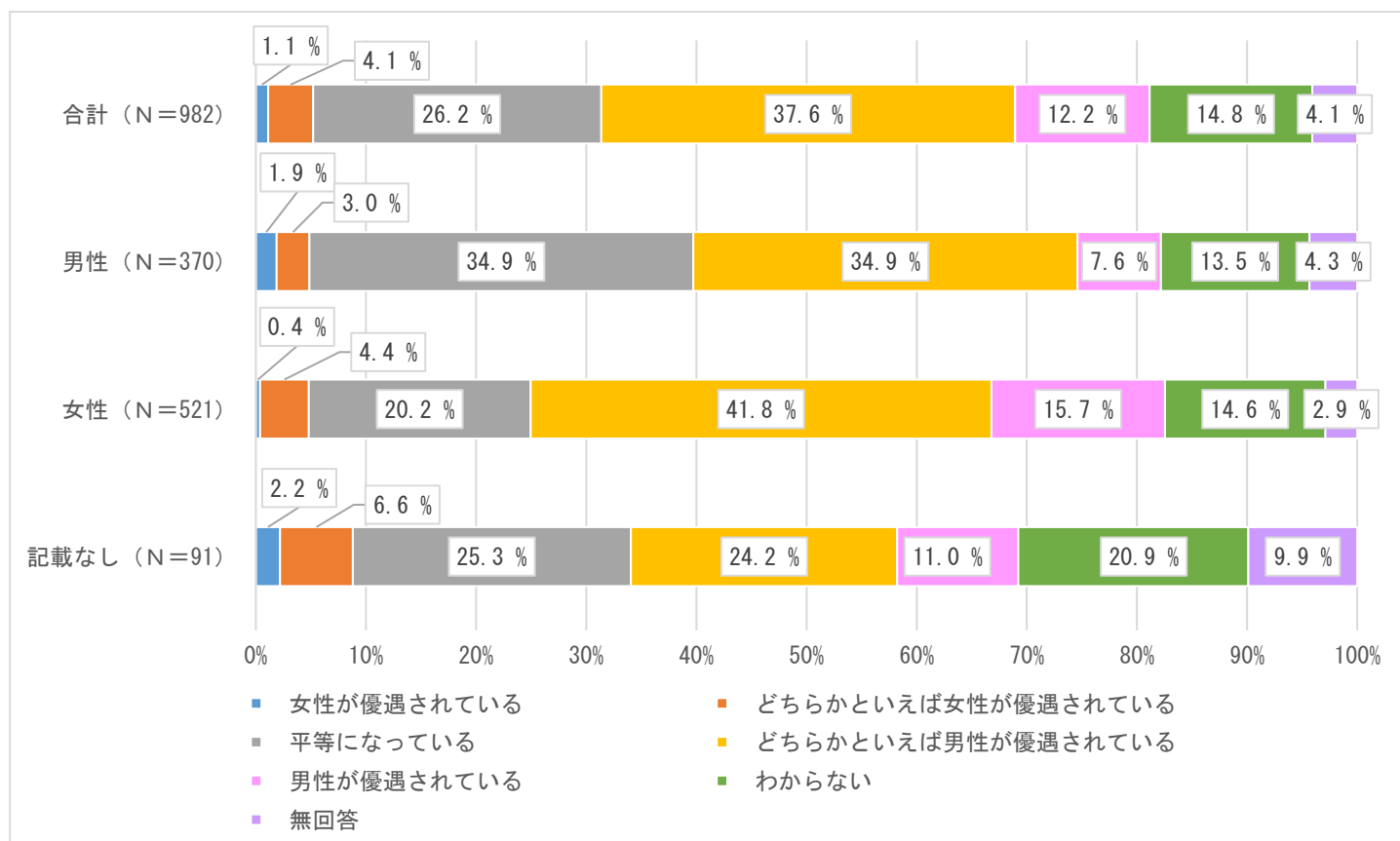


③地域の中で

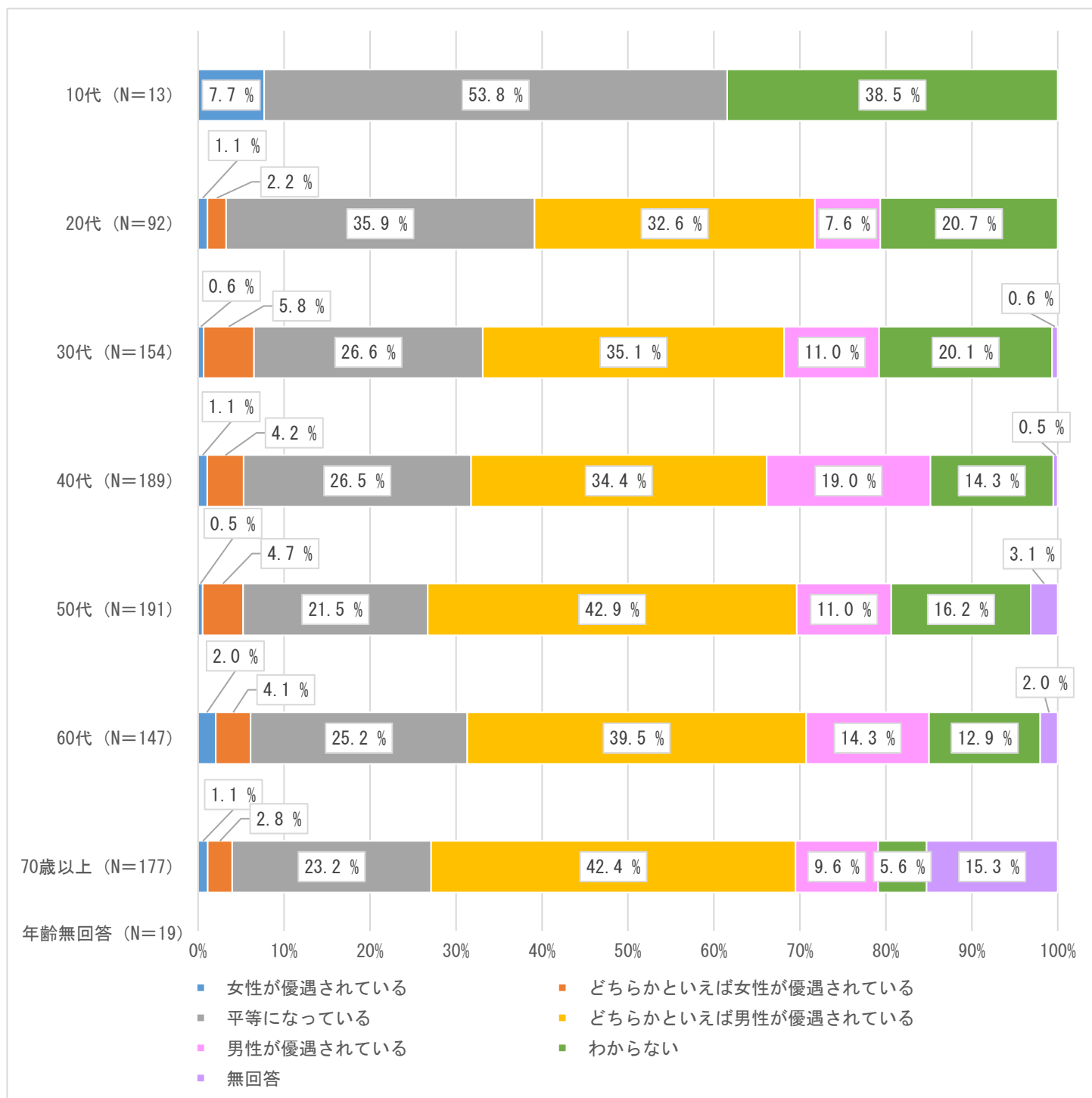
全体でみると、男性では「平等になっている」及び「どちらかといえば男性が優遇されている」が34.9%、女性では「どちらかといえば男性が優遇されている」が41.8%となり、最も多くなった。「平等になっている」は、前回調査と比較して男性で5.9ポイント増、女性で3.4ポイント減となった。

年代別にみると、「平等になっている」が、10代が53.8%となり、最も多くなった。

[全体]



[年代別]



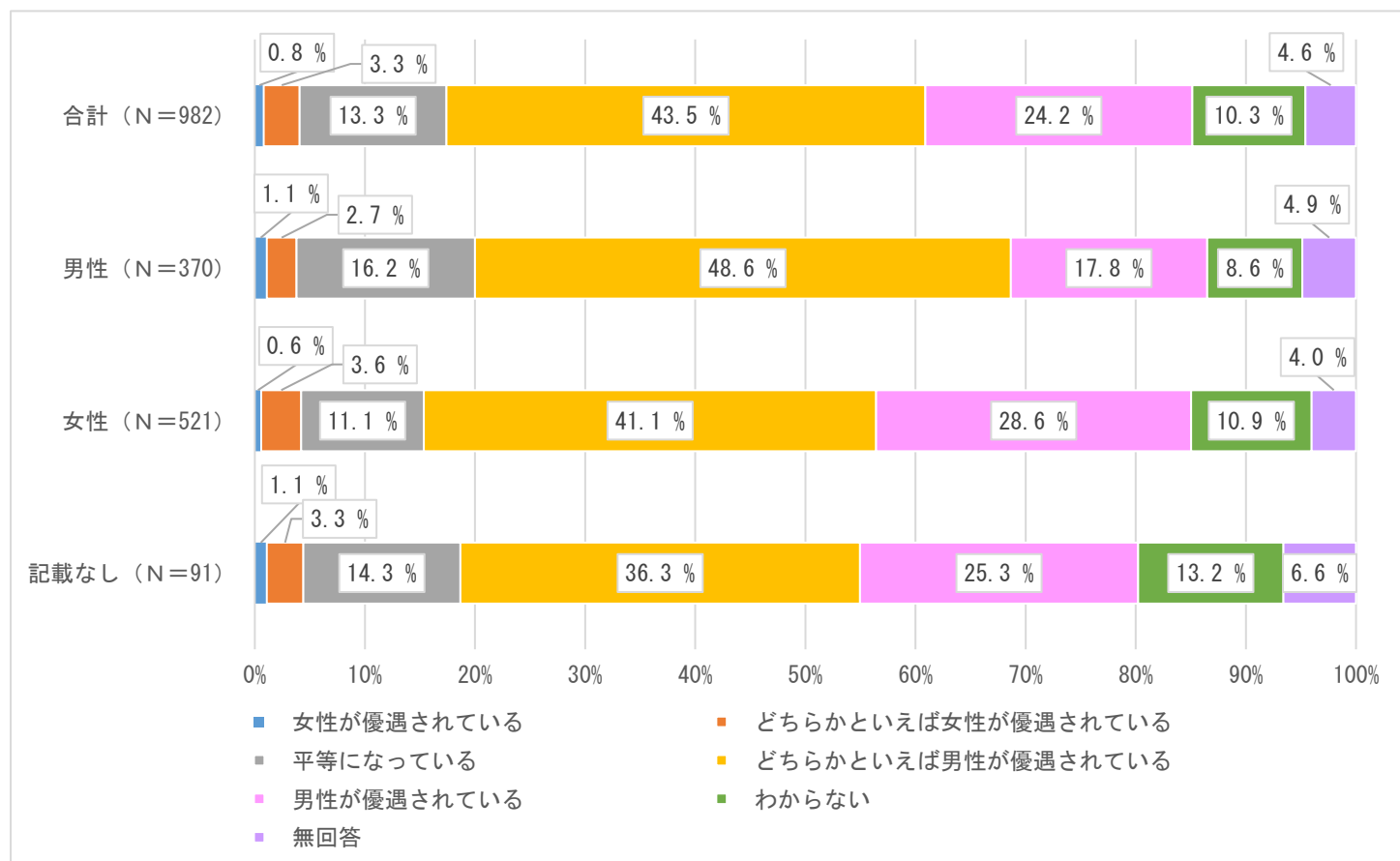
④しきたりや習慣で

全体でみると、「どちらかといえば男性が優遇されている」が男性では48.6%、女性では41.1%となり、最も多くなった。「平等になっている」は、前回調査と比較して男性が0.9ポイント増、女性が0.7ポイント減となった。

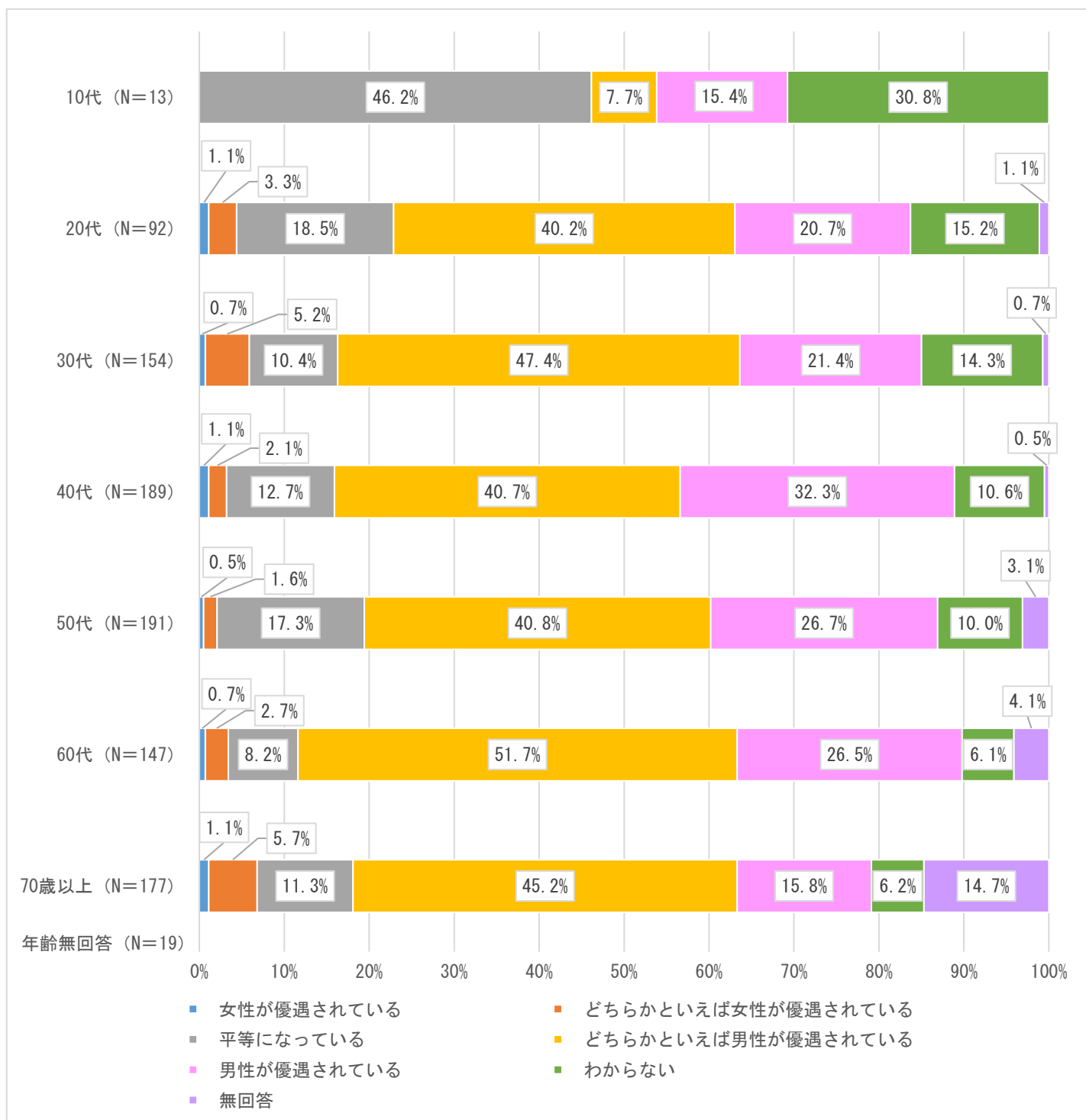
男女の意識の差では、「男性が優遇されている」が、女性で28.6%であるのに対し、男性が17.8%となり、10.8ポイントの差があった。

年代別にみると、「平等になっている」が、10代で46.2%となり、最も多くなった。

[全体]



[年代別]



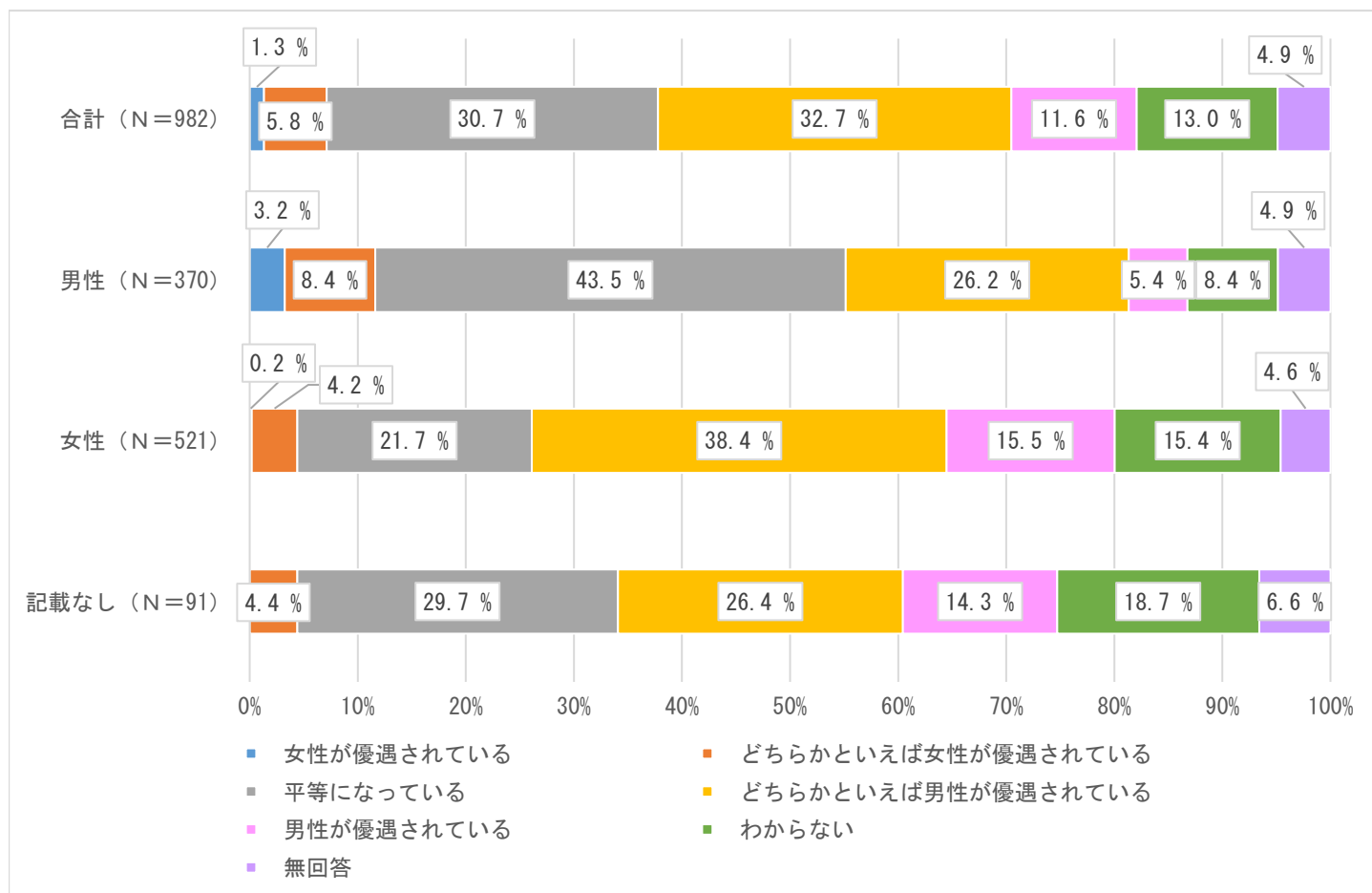
⑤法律や制度の上で

全体でみると、男性では「平等になっている」が43.5%となり、最も多くなった。女性では「どちらかといえば男性が優遇されている」が38.4%と最も多くなり、前回調査と比較すると7.5ポイント増となった。「平等になっている」は、前回調査と比較して男性が4.1ポイント増、女性が0.5ポイント減となった。

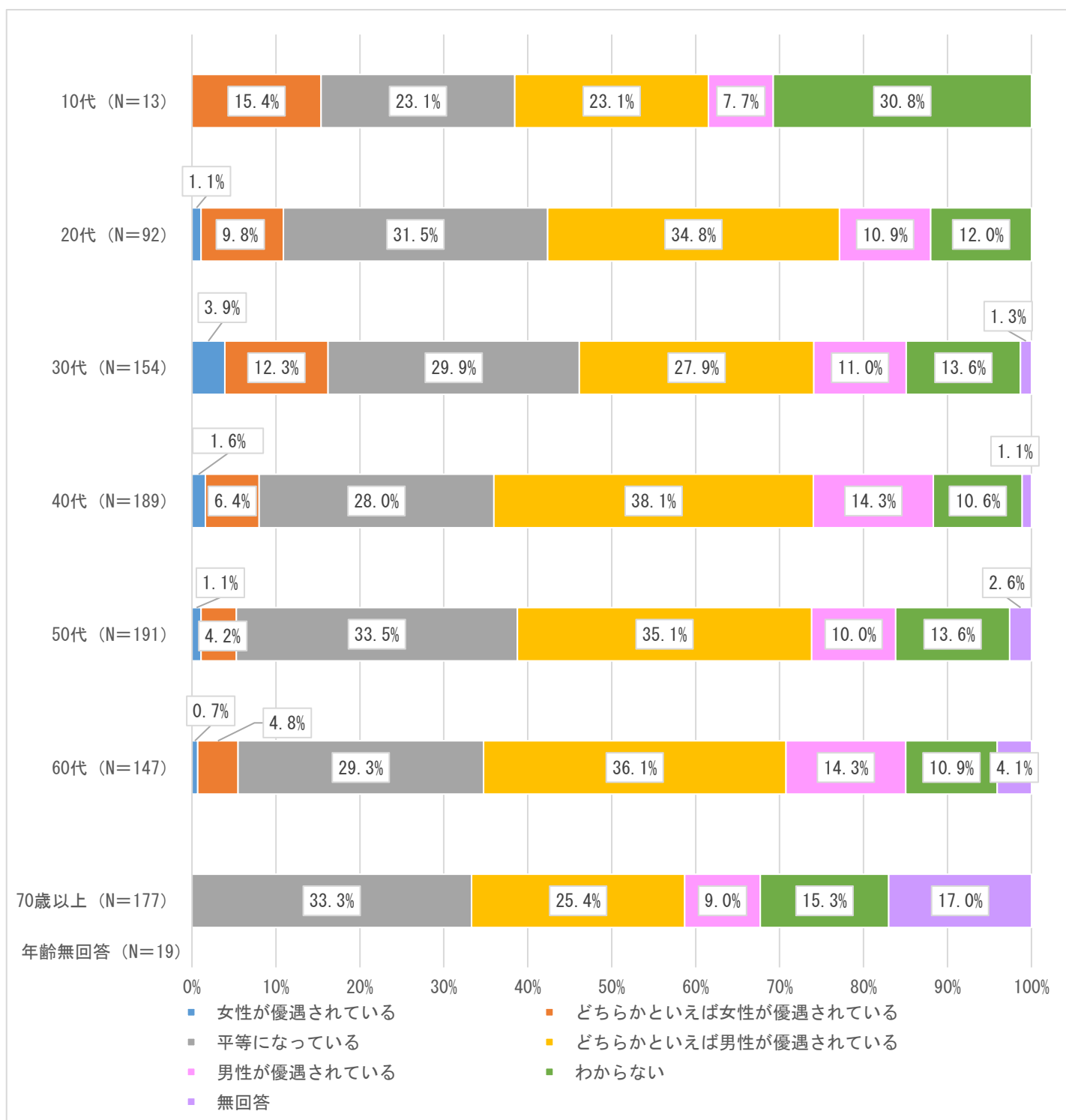
男女の意識の差では、「平等になっている」が男性で43.5%であるのに対し、女性が21.7%となり、21.8ポイントの差があった。

年代別にみると、「平等になっている」が、50代で33.5%となり、最も多くなった。

[全体]



[年代別]



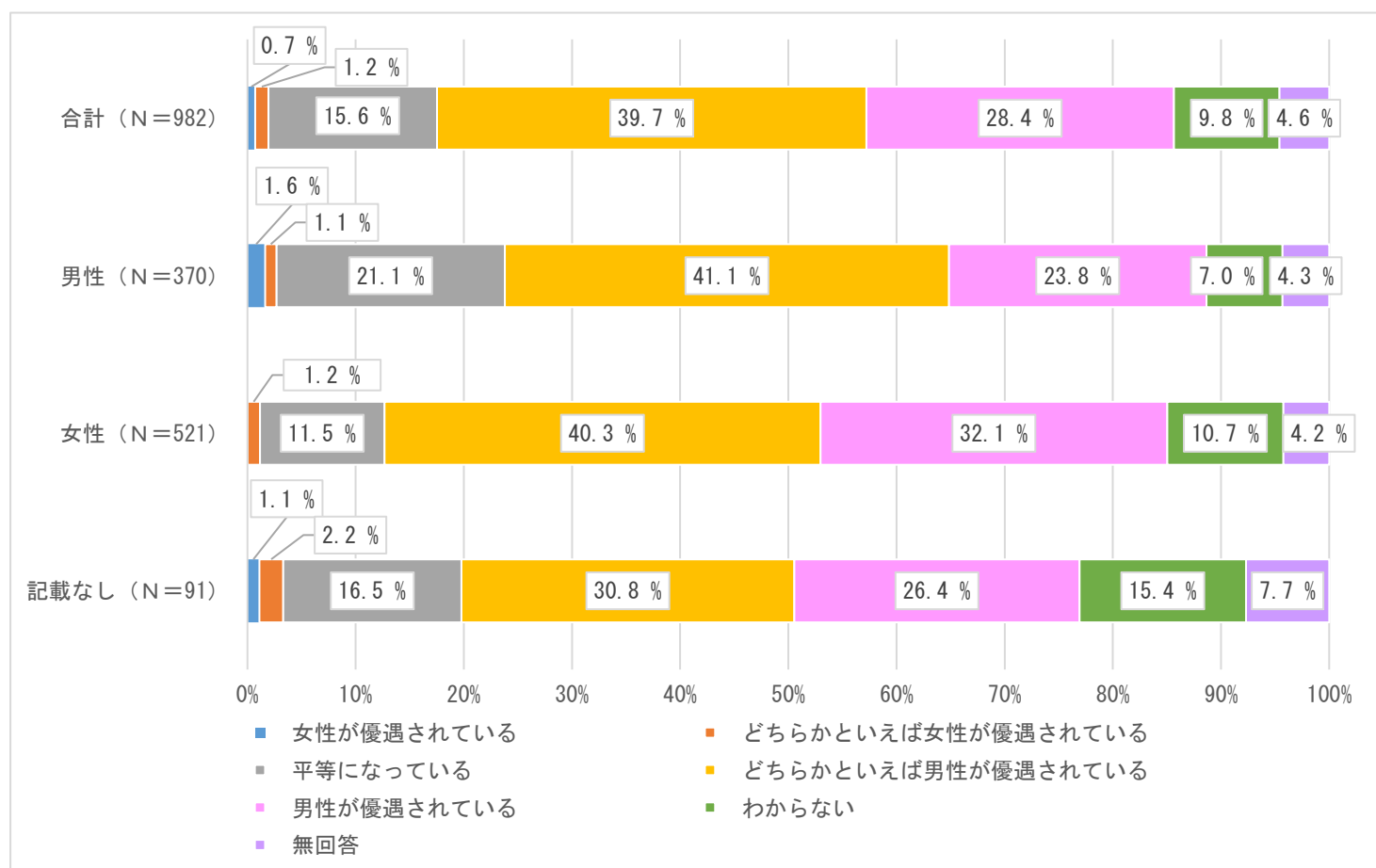
⑥政治の場で

全体でみると、「どちらかといえば男性が優遇されている」が男性では41.1%、女性では40.3%となり、最も多くなった。「平等になっている」は、前回調査と比較して男性が2.5ポイント増、女性が3.8ポイント増となった。

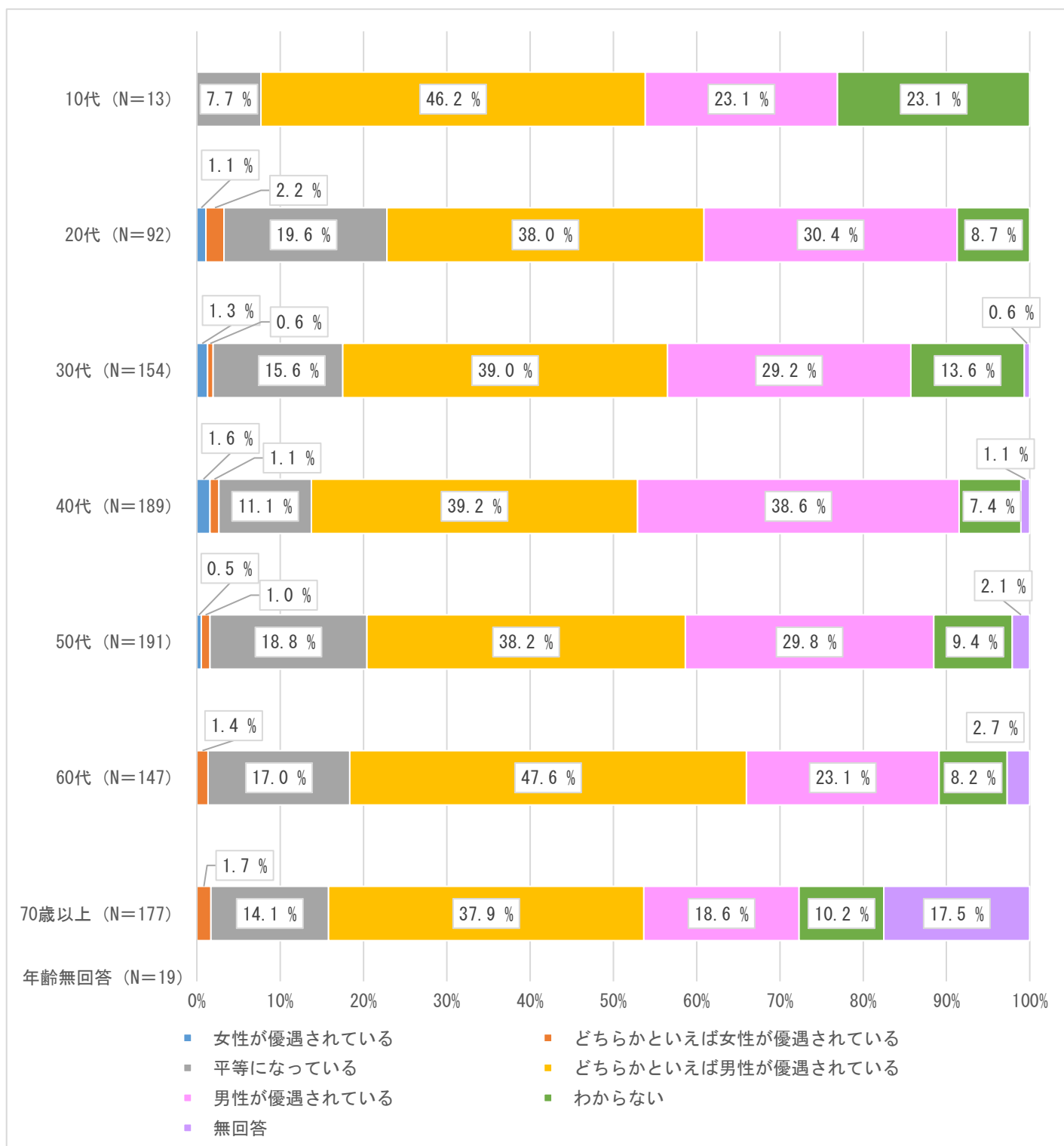
男女の意識の差では、「平等になっている」が男性で21.1%であるのに対し、女性が11.5%となり、9.6ポイントの差があった。

年代別にみると、「平等になっている」が、20代で19.6%となり、最も多くなった。

[全体]



[年代別]

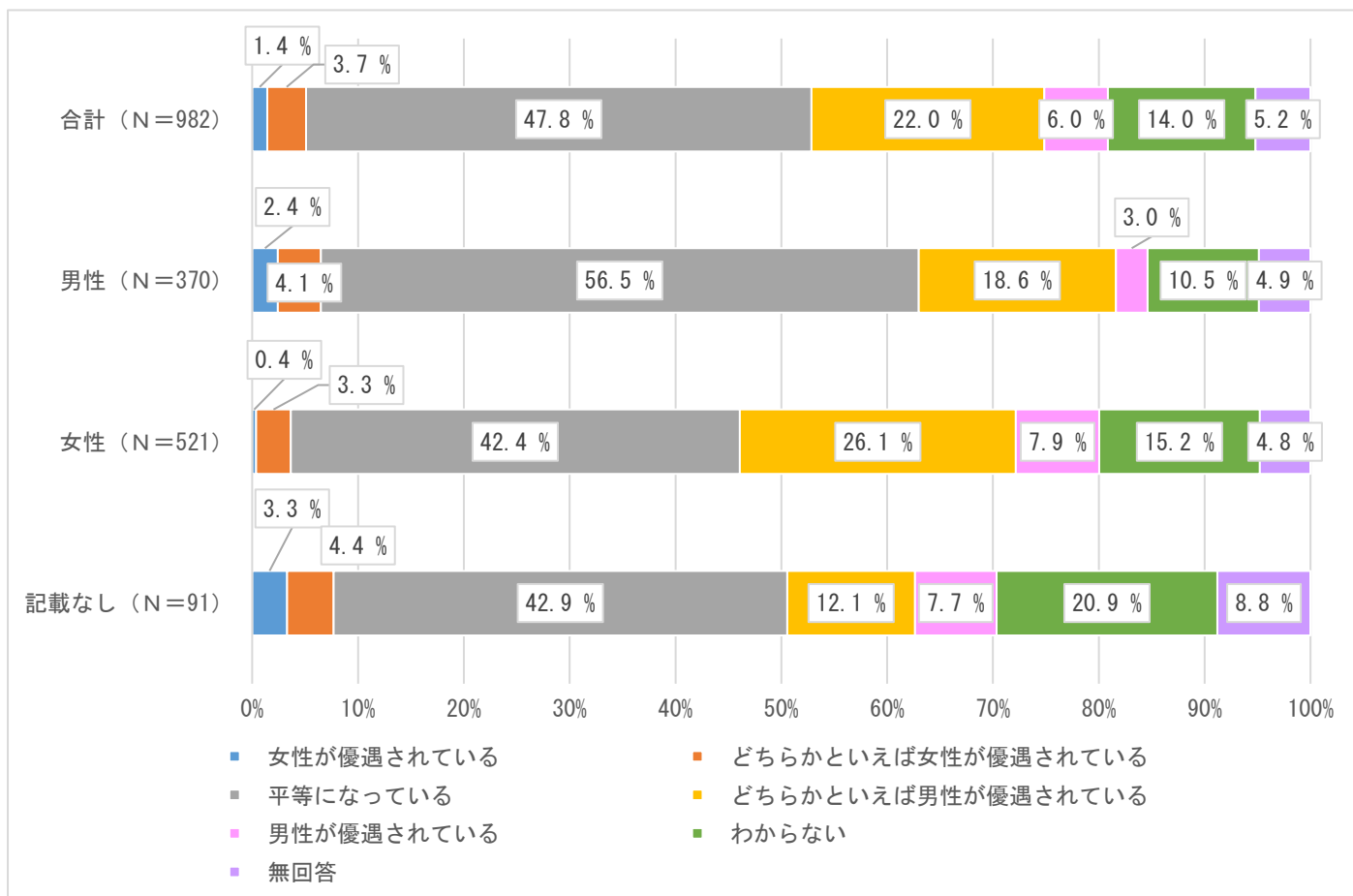


⑦教育の場で

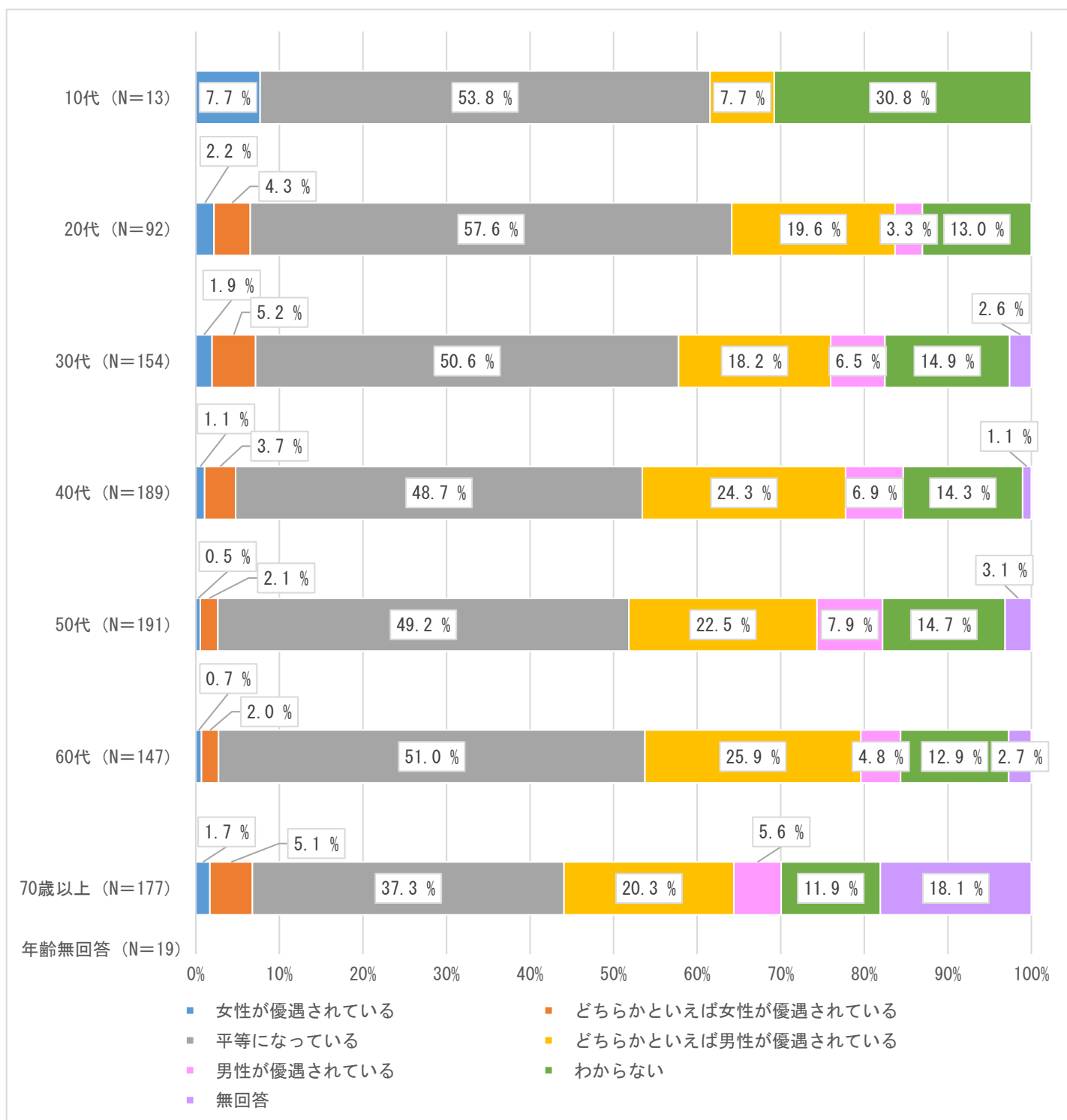
全体でみると、「平等になっている」が男性では56.5%、女性では42.4%と最も多く、前回調査と比較して男性が7.7ポイント増、女性が1.5ポイント増となった。

年代別にみると、70歳以上を除くすべての年代で「平等になっている」が40%を超え、中でも20代が57.6%となり、最も多くなった。

[全体]



[年代別]

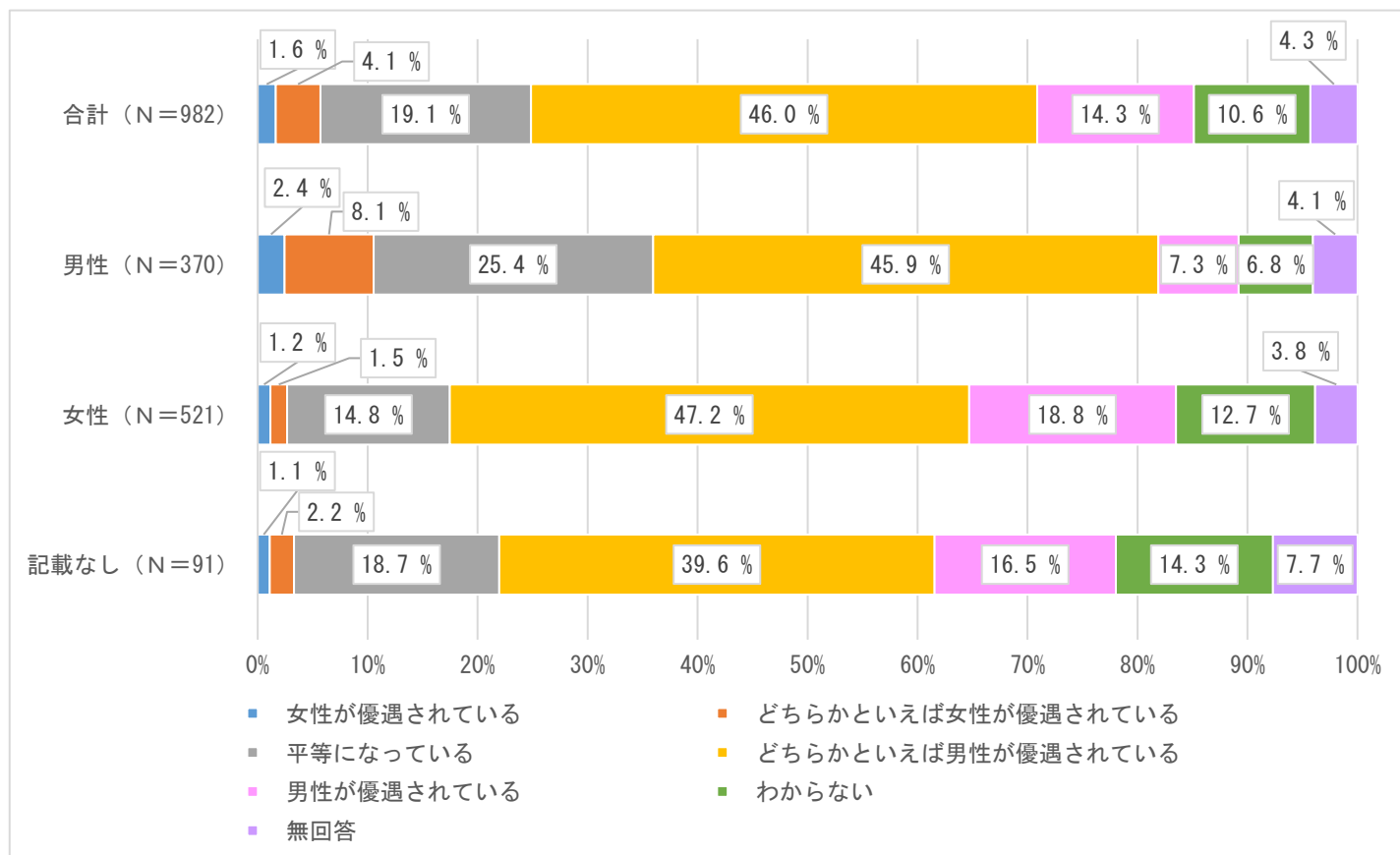


⑧社会全体として

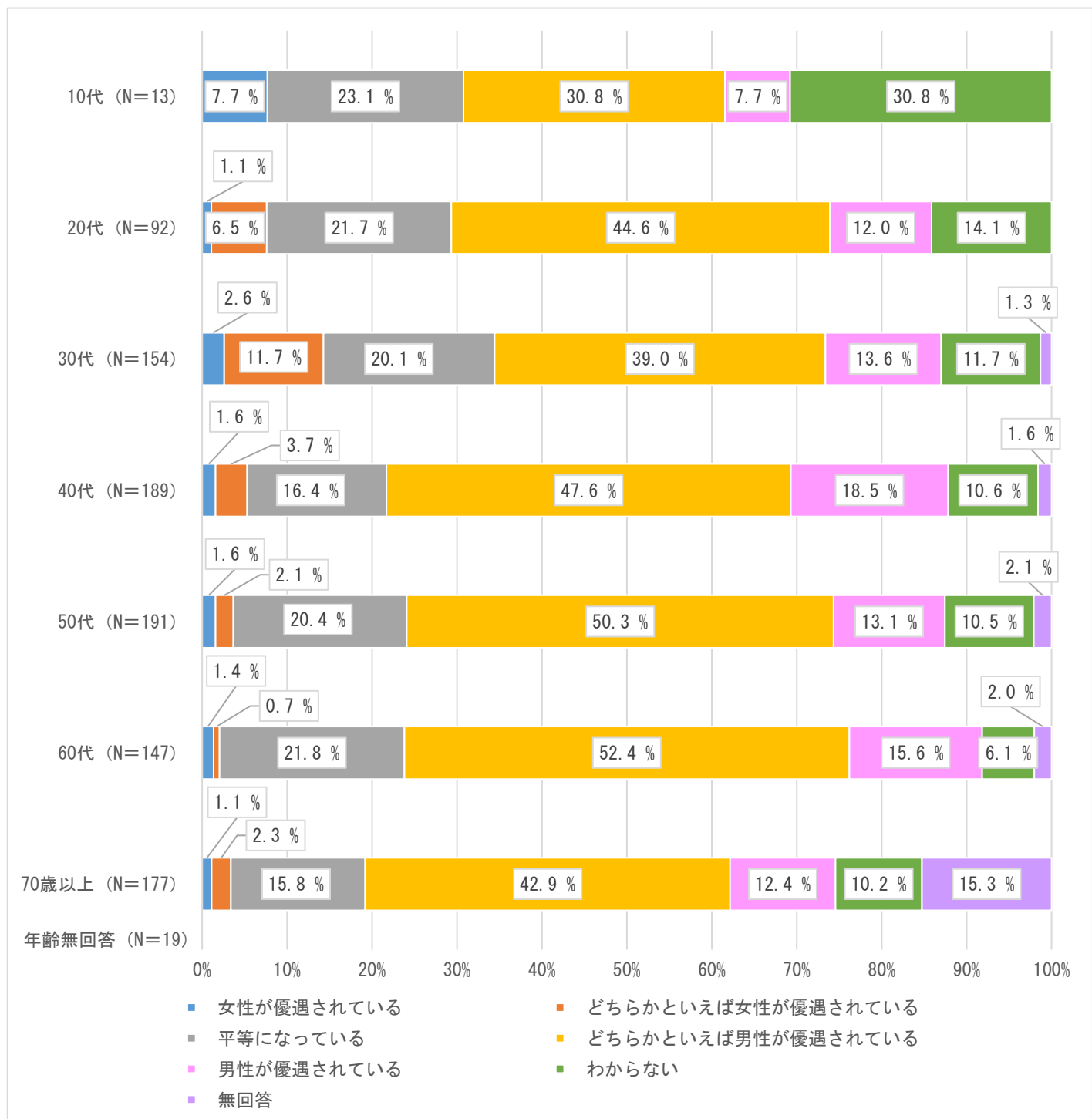
全体でみると、「どちらかといえば男性が優遇されている」が男性では45.9%、女性では47.2%となり、最も多くなった。「平等になっている」は、前回調査と比較して、男性が6.2ポイント増、女性で3.3ポイント増となり、男女の意識の差では、男性が25.4%であるのに対し、女性が14.8%で、10.6ポイントの差となった。

年代別にみると、「平等になっている」は、前回調査で60代が最も多かったのに対し、今回調査では10代が23.1%となり、最も多くなった。

[全体]



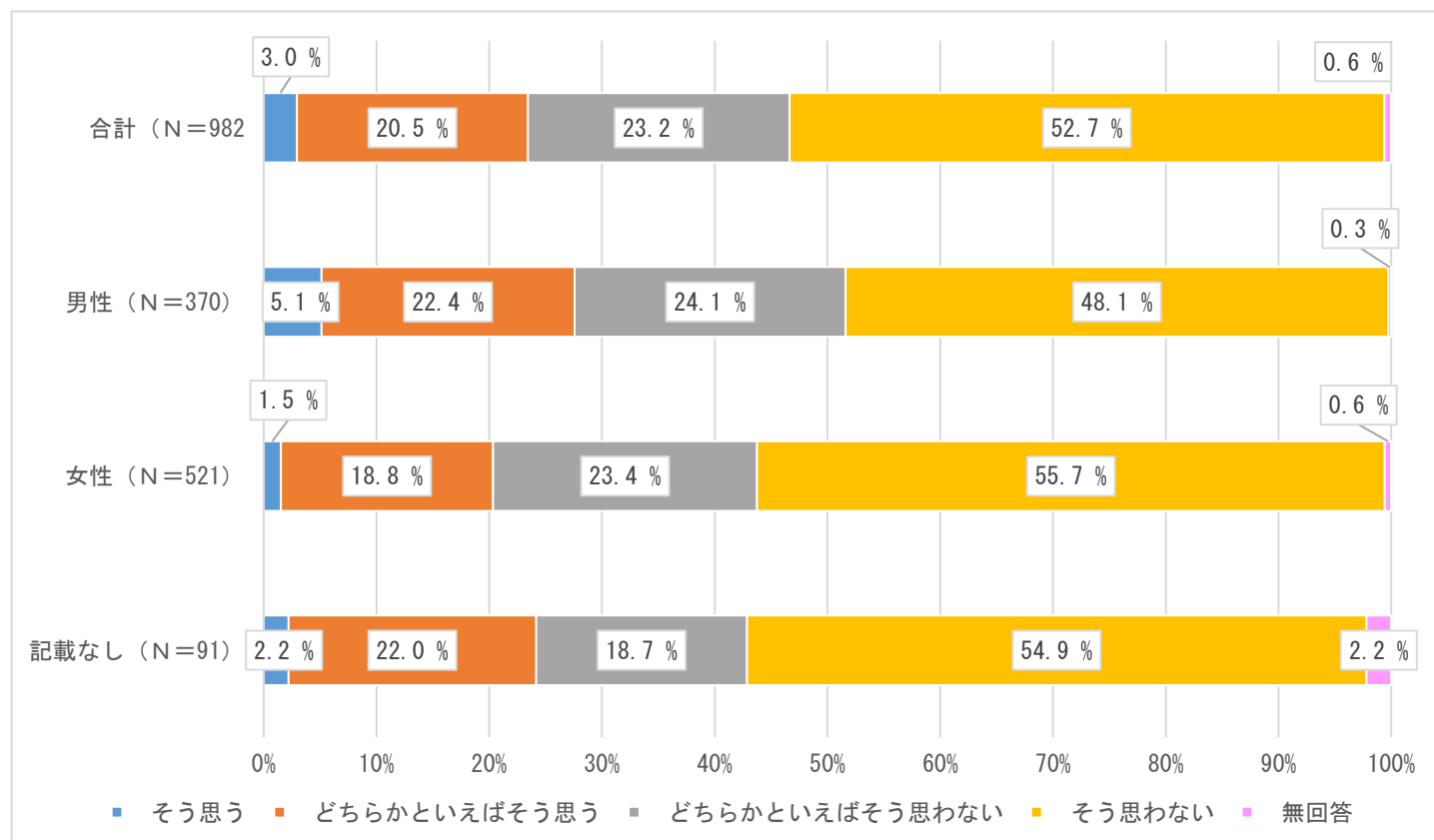
[年代別]



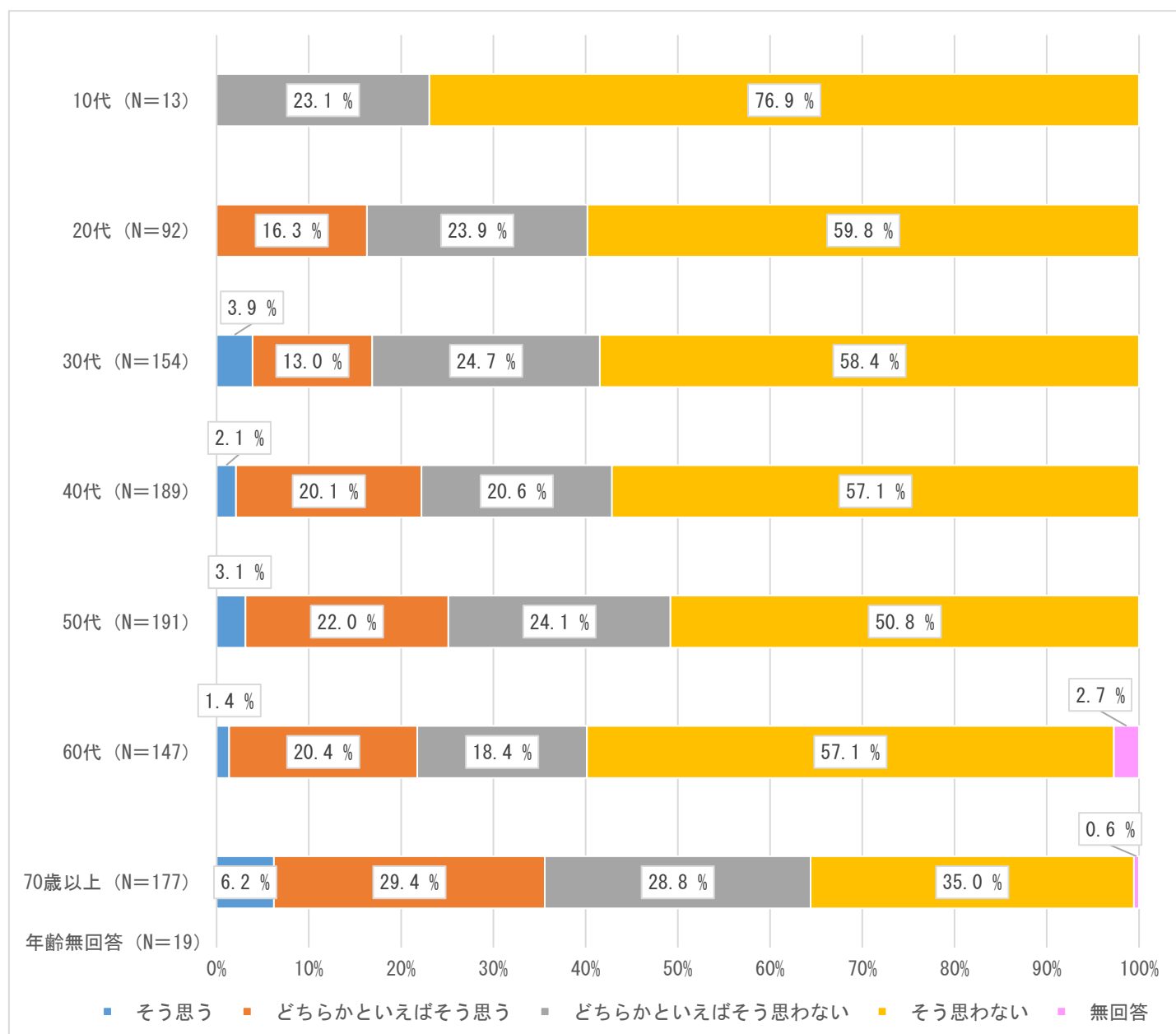
【問 3】「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。

全体でみると「そう思わない」が男性では48.1%、女性では55.7%となり、最も多くなった。「そう思わない」は、前回調査と比較して、男性が5.4ポイント増、女性が7.5ポイント増となった。
年代別にみると、「そう思わない」が、10代で76.9%となり、最も多くなった。

【全体】



[年代別]

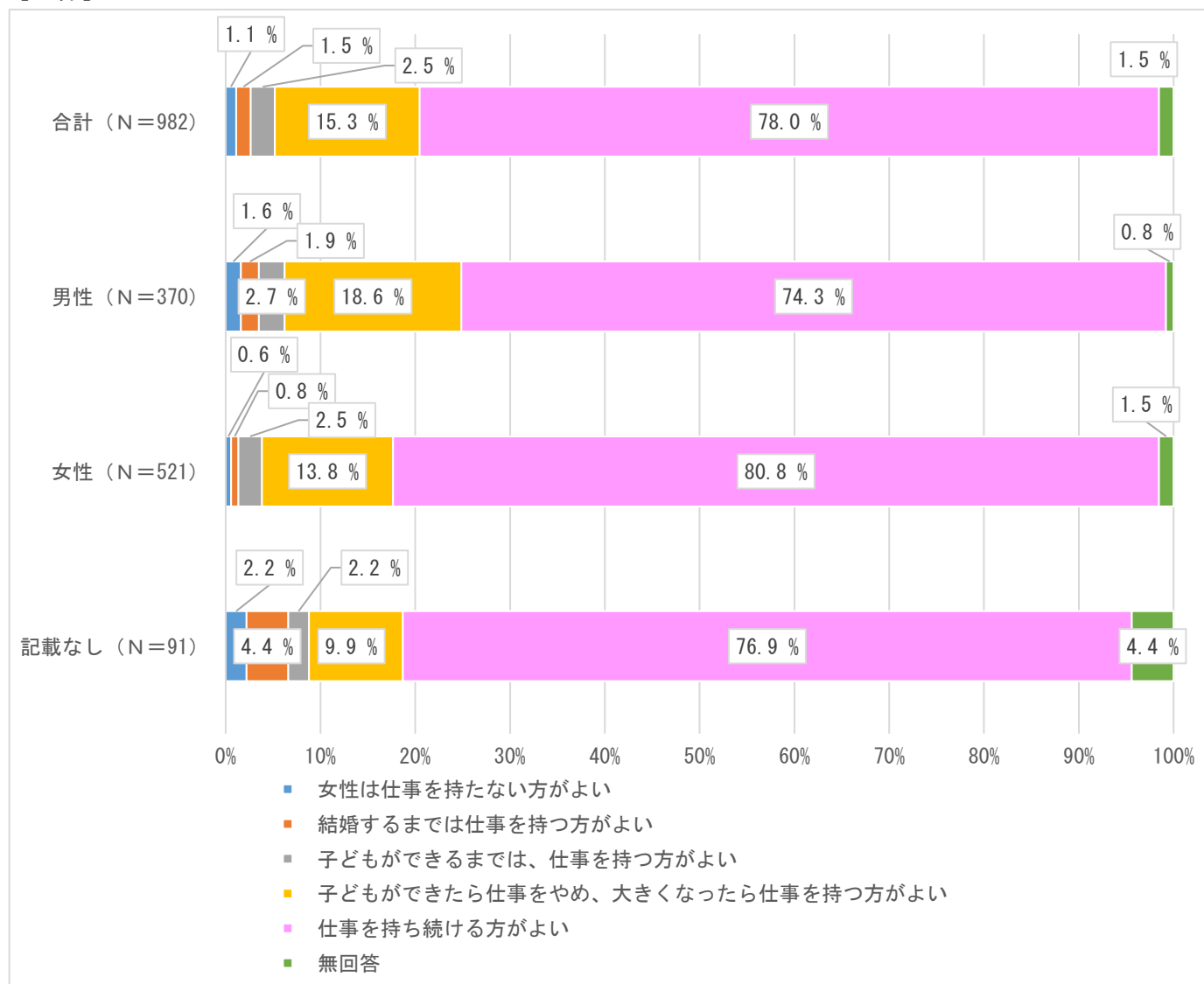


【問4】あなたは、女性が仕事を持つことについてどう思いますか。

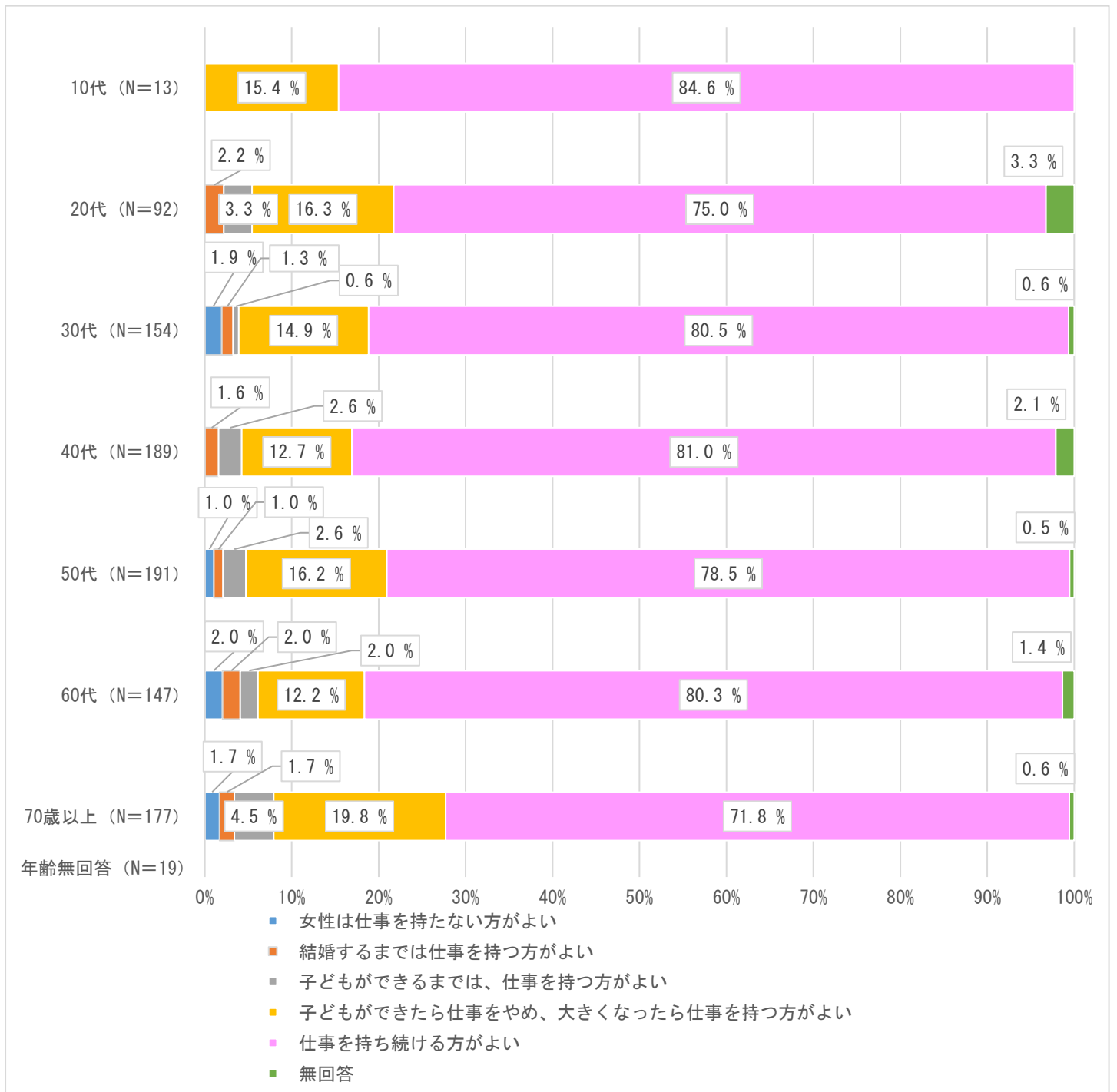
全体でみると、「仕事を持ち続ける方がよい」が男性では74.3%、女性では80.8%となり、最も多くなった。「仕事を持ち続ける方がよい」は、前回調査と比較して、男性が10.8ポイント増、女性が11.0ポイント増となった。

年代別にみると、「仕事を持ち続ける方がよい」が10代では84.6%となり、最も多くなった。10代、20代及び40代では、「女性は仕事を持たない方がよい」との回答はなかった。

〔全体〕



[年代別]



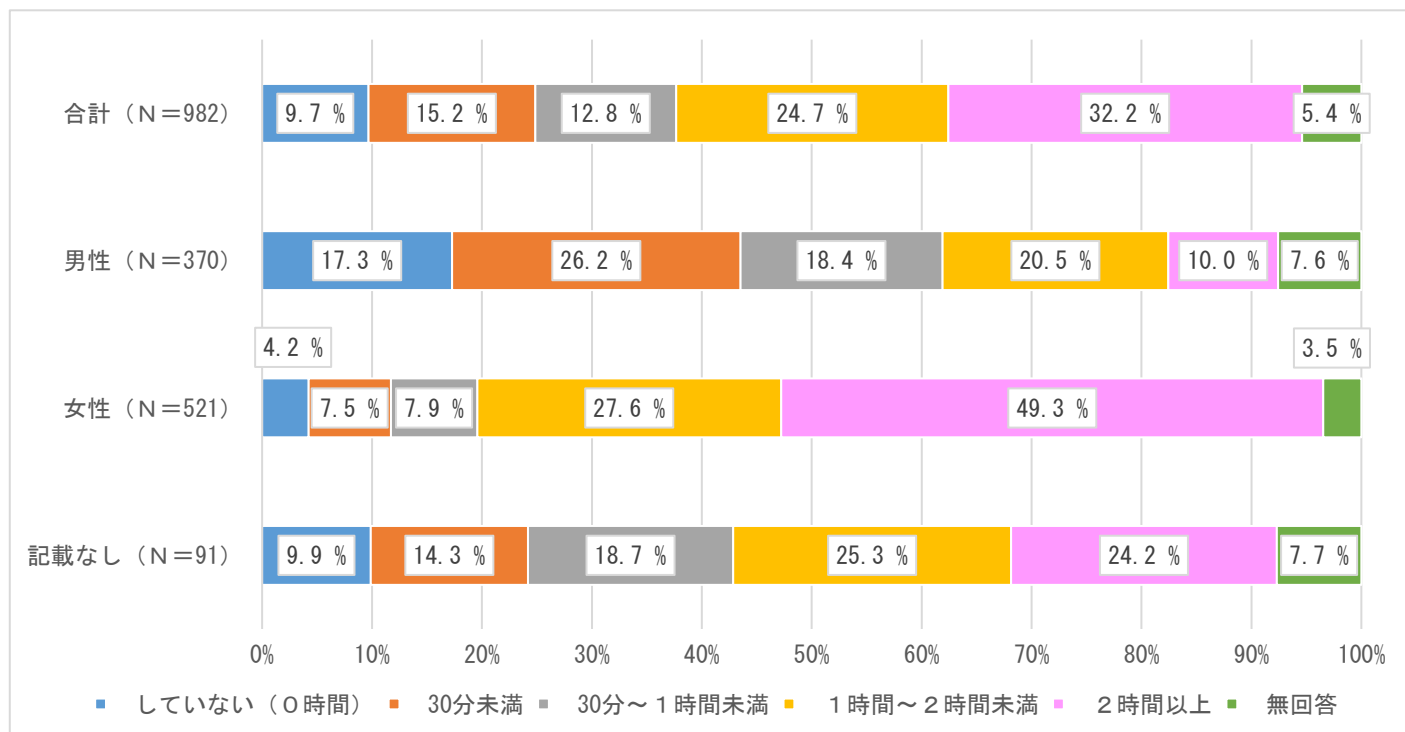
【問5】あなたの家事、育児、介護にかかわる時間は、1日当たりどのくらいですか。

①家事

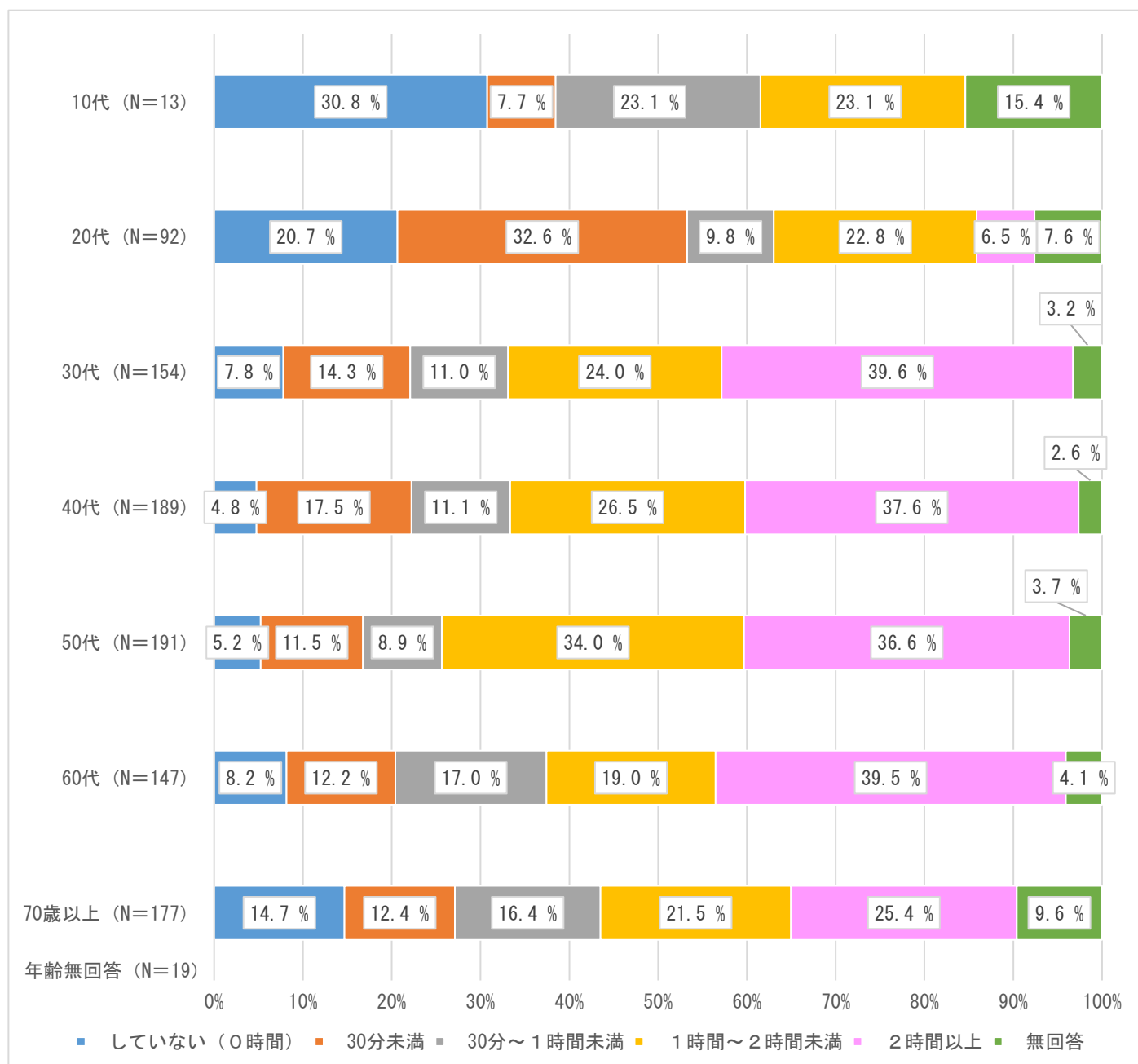
全体でみると、男性では「30分未満」が26.2%、女性では「2時間以上」が49.3%となり、最も多くなった。前回調査と比較すると、男性では「していない」が10.7ポイント減少し、「1時間～2時間未満」が10.9ポイント増となった。

年代別にみると、「2時間以上」家事にかかわっているのは、30代が39.6%となり、最も多くなった。

【全体】



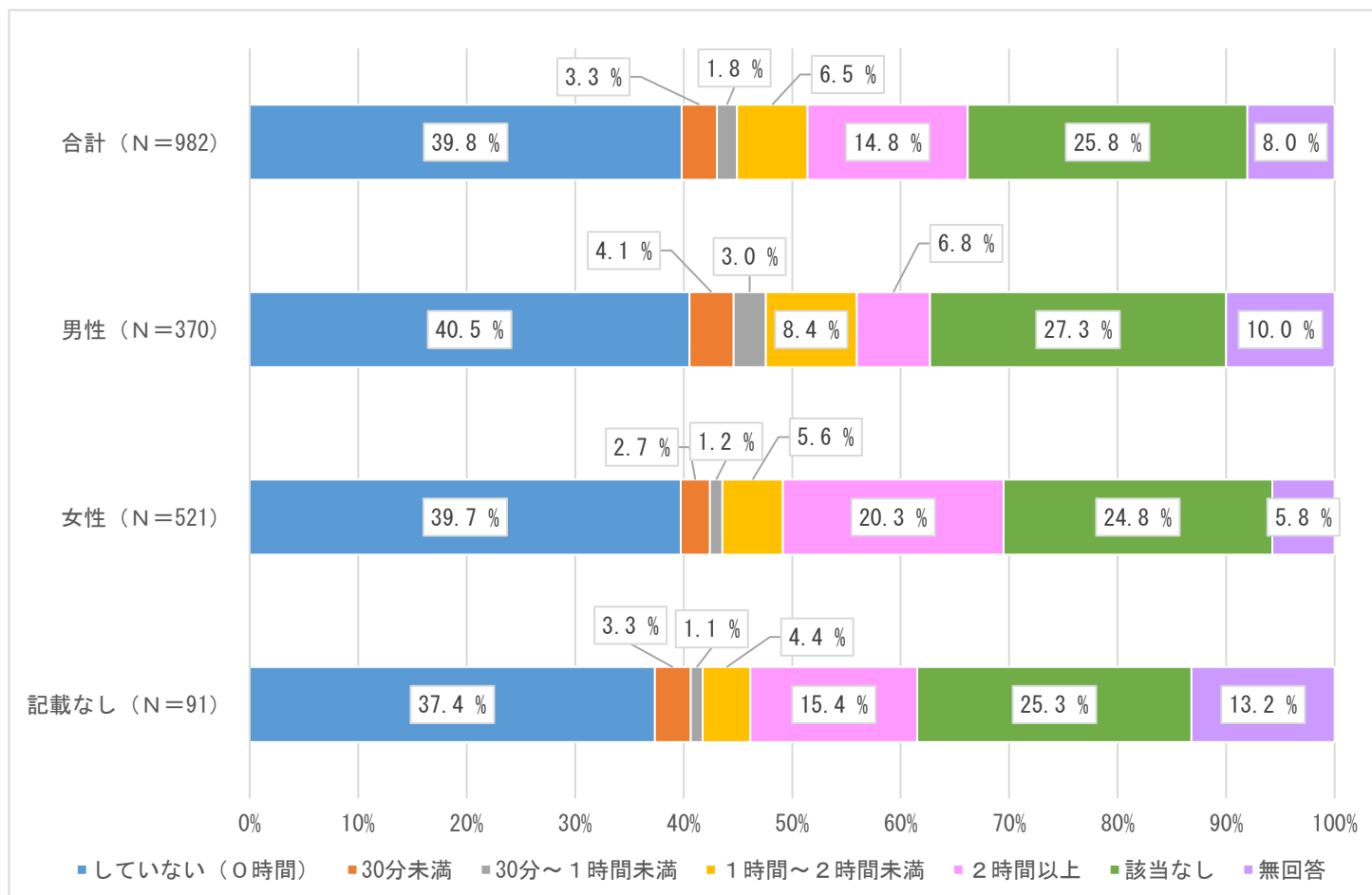
[年代別]



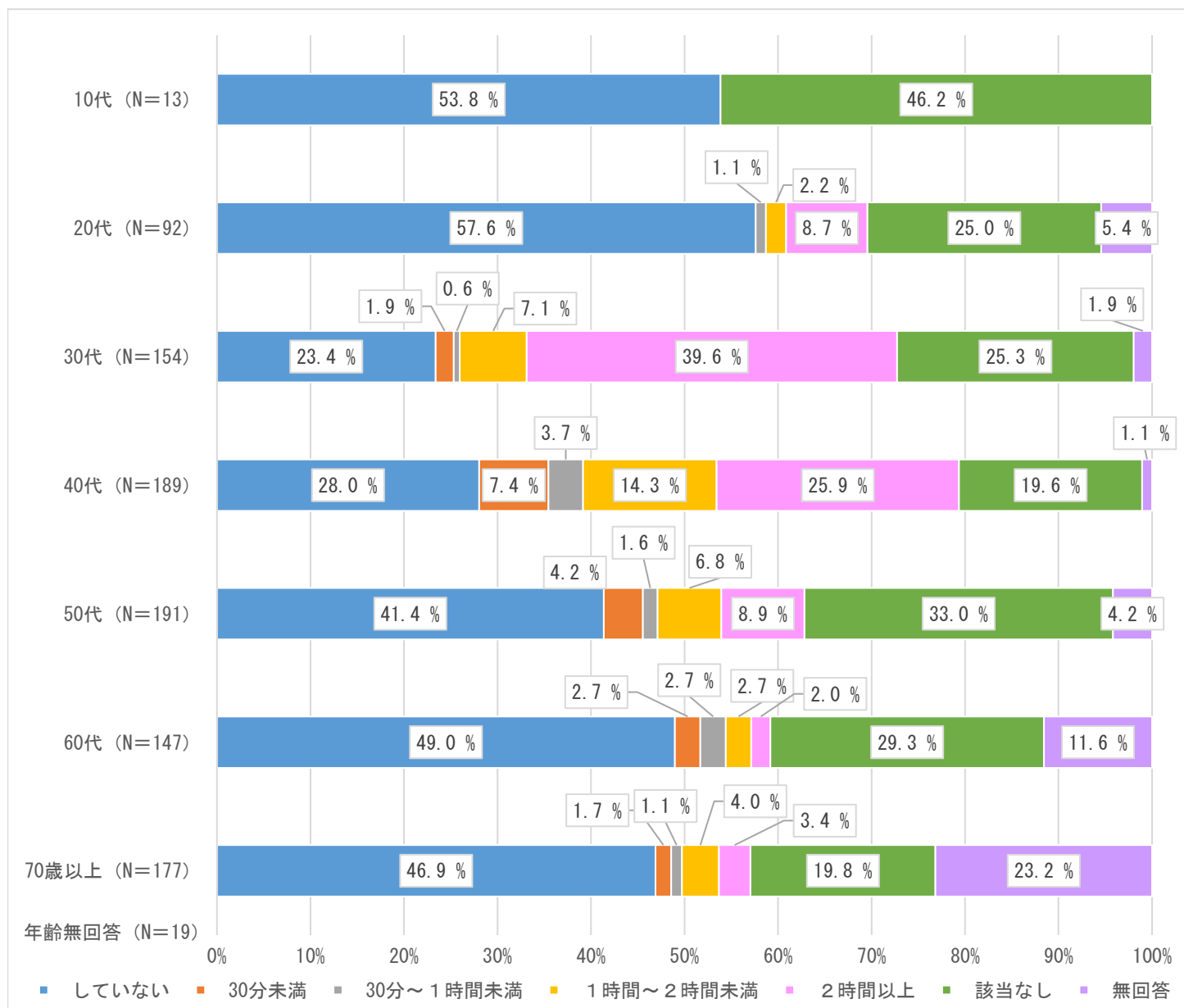
②育児

全体でみると「していない(0時間)」が男性では40.5%、女性では39.7%となり、最も多くなった。
 男女の差では、「2時間以上」が女性で20.3%であるのに対し、男性が6.8%となり、13.5ポイントの差があった。
 年代別にみると、「2時間以上」が30代で39.6%となり、最も多くなった。

[全体]



[年代別]

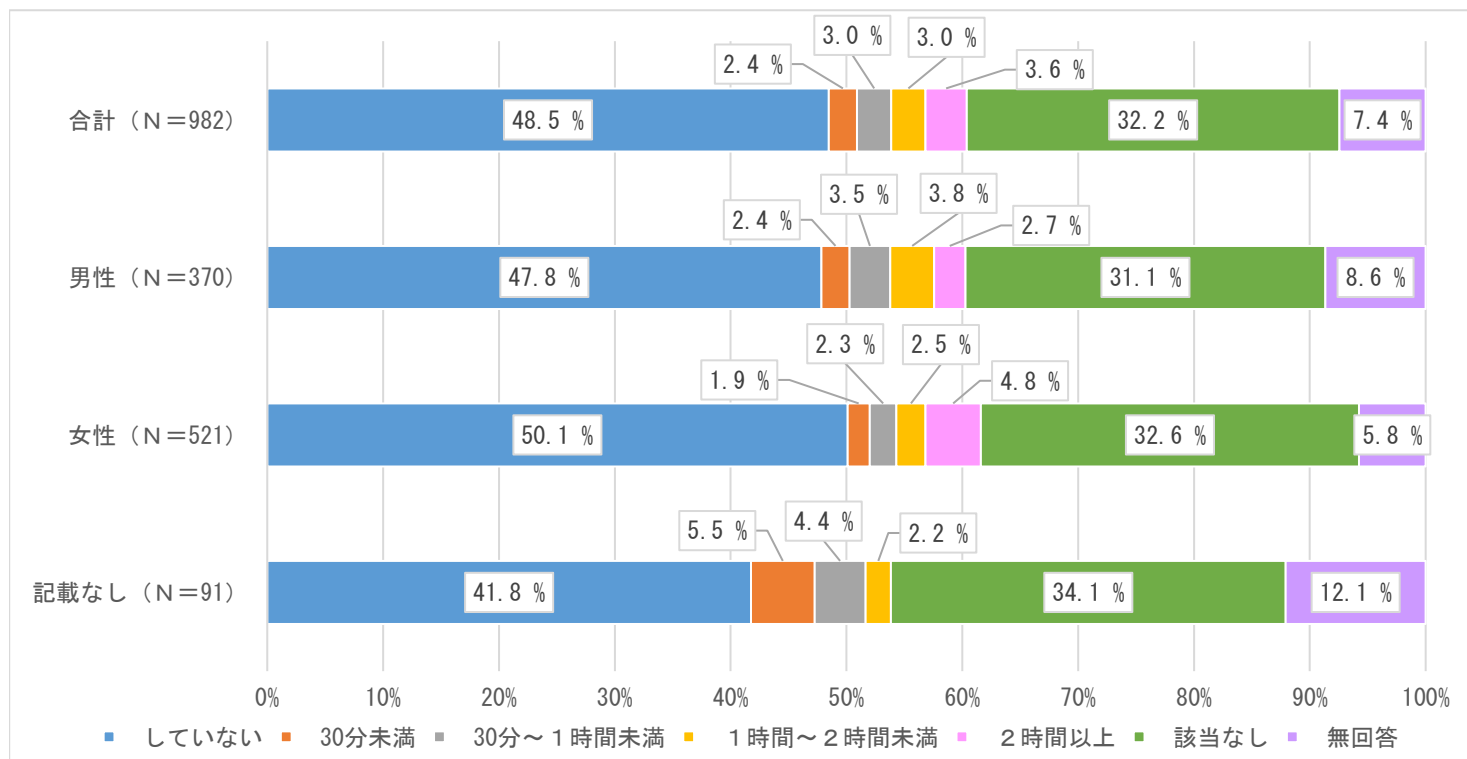


③介護

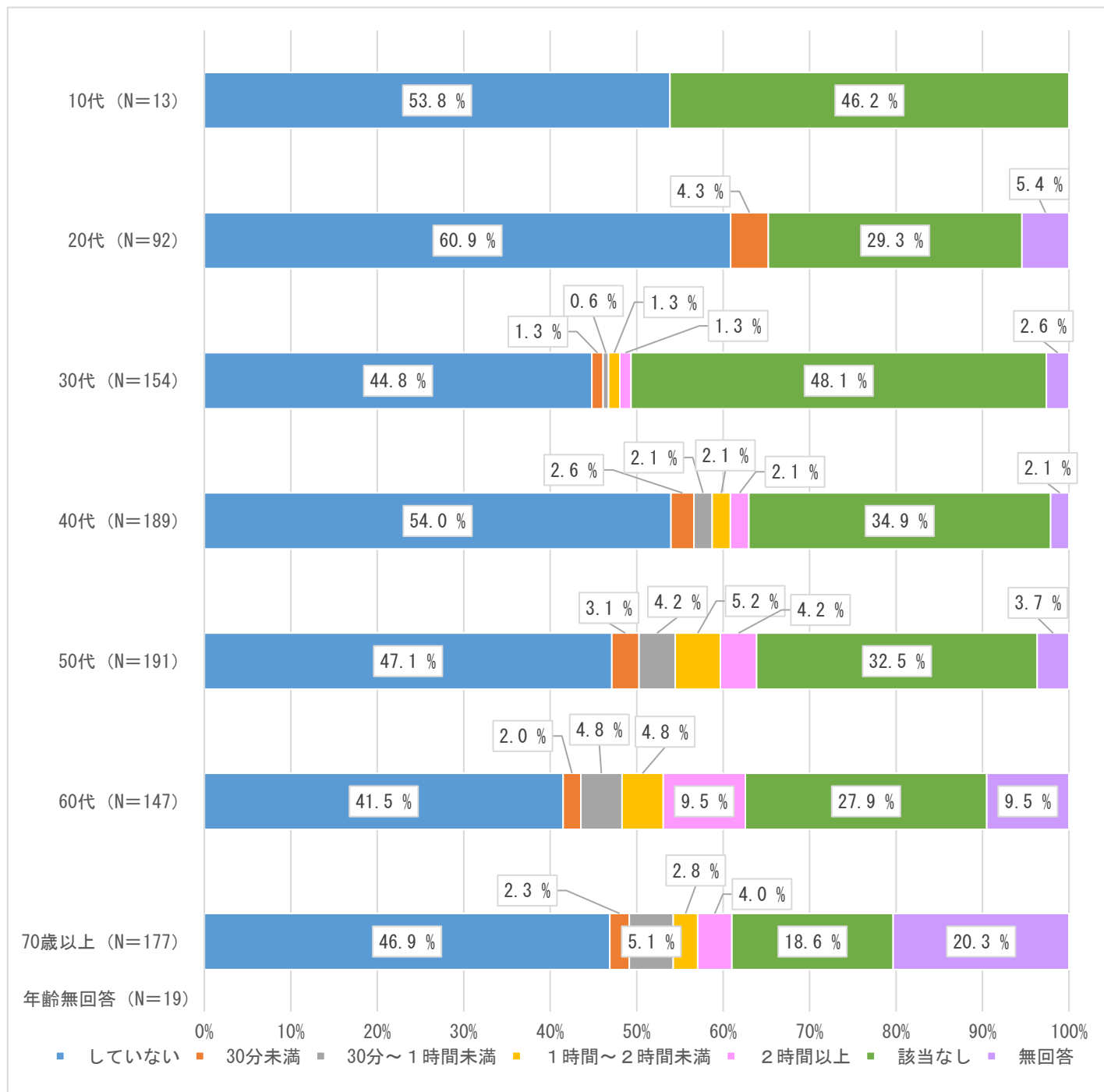
全体でみると「していない（0時間）」が男性では47.8%、女性では50.1%となり、最も多くなった。男女の差では、「2時間以上」が女性で4.8%であるのに対し、男性が2.7%となり、2.1ポイントの差があった。

年代別にみると、「2時間以上」が60代で9.5%となり、最も多くなった。

[全体]



[年代別]



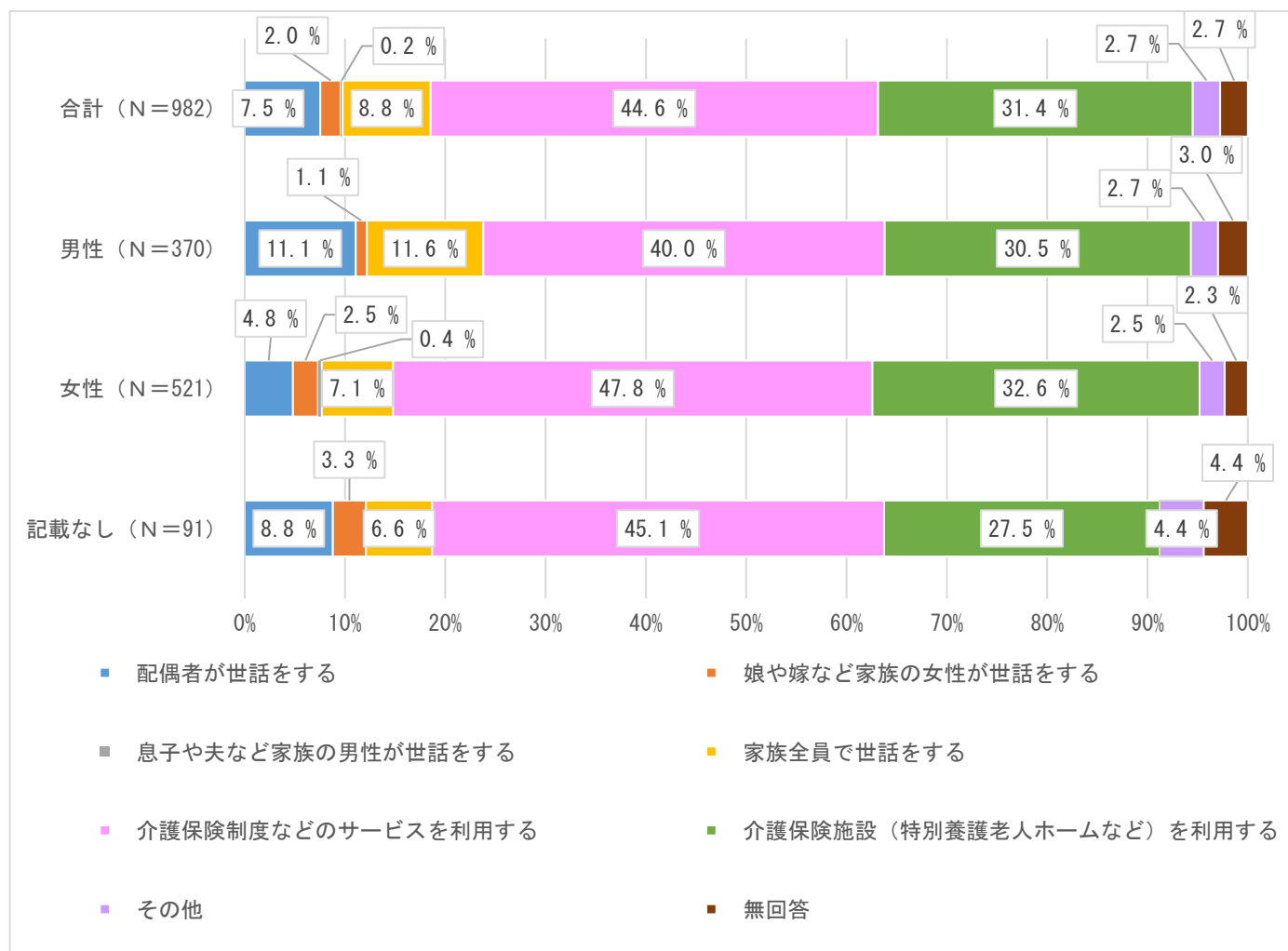
【問6】あなたは、あなた自身が介護が必要になった時、身の回りの世話は次のどの形を希望しますか。
 （現在介護を受けている方は、現状をお答えください。）

全体でみると、「介護保険制度などのサービスを利用する」が男性では40.0%、女性では47.8%となり、最も多くなった。

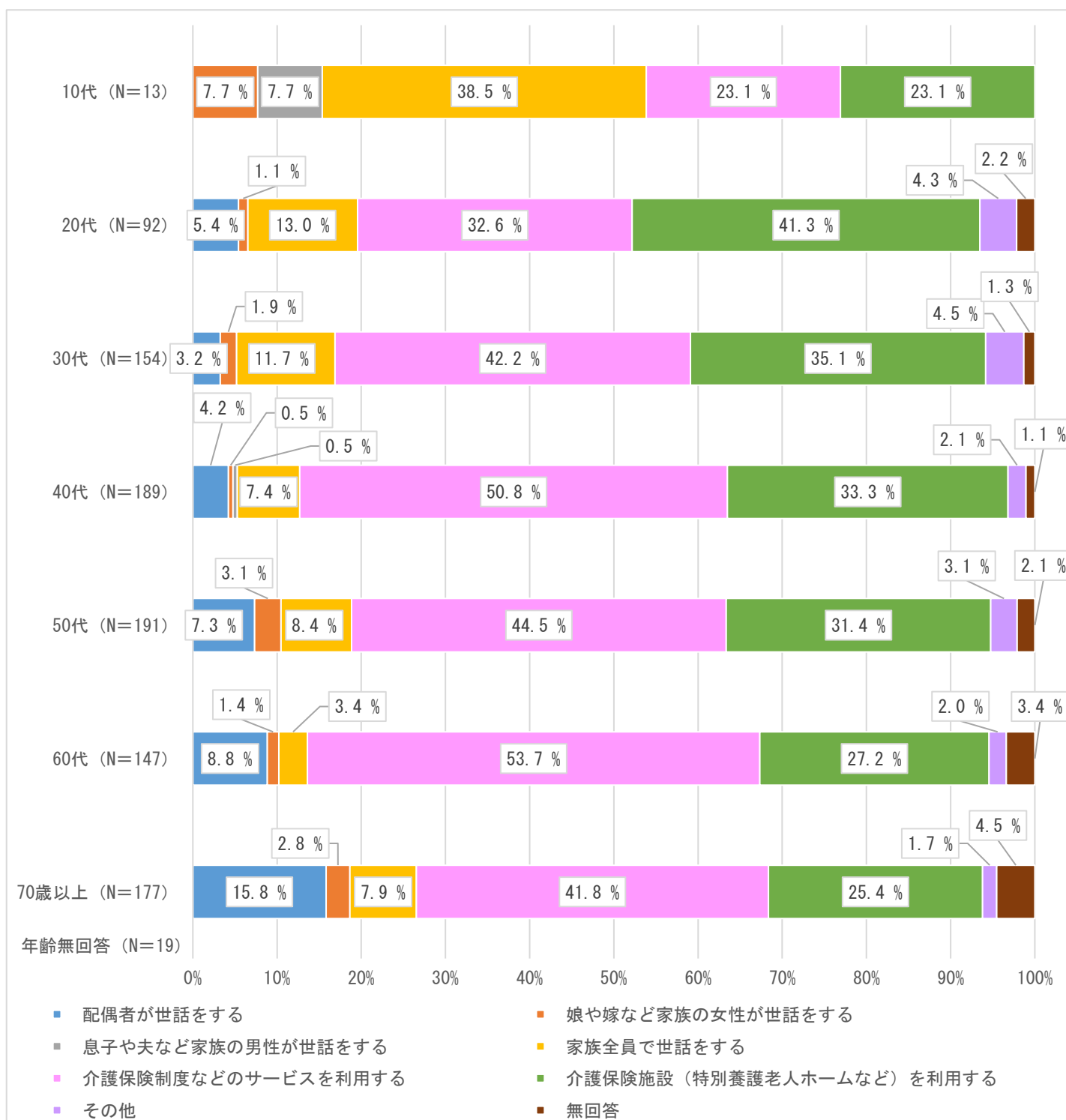
男女の意識の差では、「配偶者が世話をする」が、男性で11.1%であるのに対し、女性が4.8%となり、6.3ポイントの差があった。

年代別にみると、「介護保険制度などのサービスを利用する」が30代以上のすべての年代で、40%を超えた。

[全体]



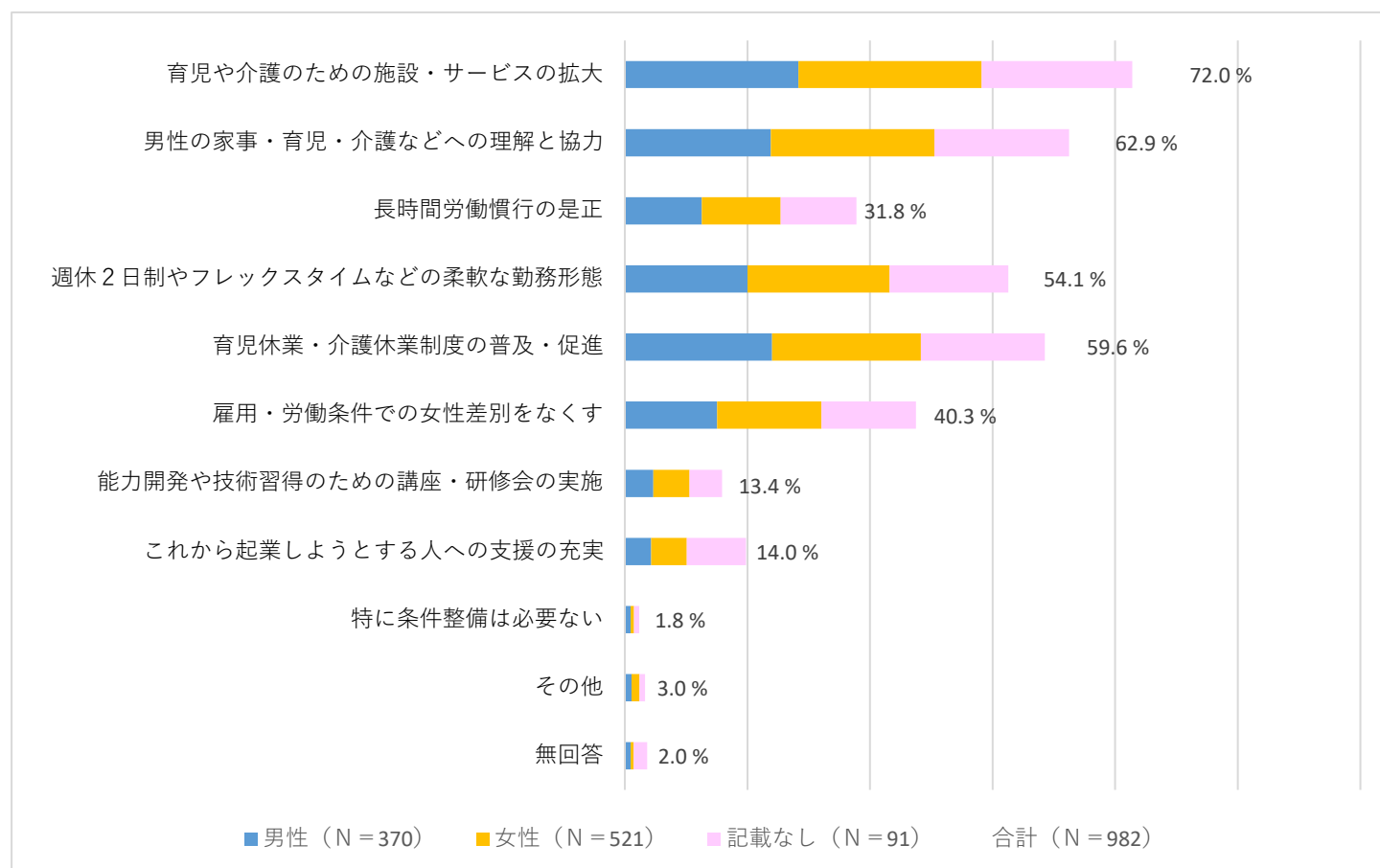
[年代別]



【問 7】働きたい女性が、出産・子育て・介護などにより就業を中断することなく意欲を持って仕事を継続していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。（複数回答）

全体でみると、「育児や介護のための施設・サービスの拡大」が男性では70.8%、女性では74.7%となり、最も多くなった。次いで「男性の家事・育児・介護などへの理解と協力」が男性では59.5%、女性では66.8%となった。

年代別にみると、「育児や介護のための施設・サービスの拡大」が、30代で77.9%となり、最も多くなった。



[全体]

	合計		男性		女性		性別記載なし	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
育児や介護のための施設・サービスの拡大	707	72.0 %	262	70.8 %	389	74.7 %	56	61.5 %
男性の家事・育児・介護などへの理解と協力	618	62.9 %	220	59.5 %	348	66.8 %	50	54.9 %
長時間労働慣行の是正	312	31.8 %	116	31.4 %	168	32.2 %	28	30.8 %
週休2日制やフレックスタイムなどの柔軟な勤務形態	531	54.1 %	185	50.0 %	302	58.0 %	44	48.4 %
育児休業・介護休業制度の普及・促進	585	59.6 %	222	60.0 %	317	60.8 %	46	50.5 %
雇用・労働条件での女性差別をなくす	396	40.3 %	139	37.6 %	222	42.6 %	35	38.5 %
能力開発や技術習得のための講座・研修会の実施	132	13.4 %	43	11.6 %	77	14.8 %	12	13.2 %
これから起業しようとする人への支援の充実	137	14.0 %	40	10.8 %	75	14.4 %	22	24.2 %
特に条件整備は必要ない	18	1.8 %	9	2.4 %	7	1.3 %	2	2.2 %
その他	29	3.0 %	10	2.7 %	17	3.3 %	2	2.2 %
無回答	20	2.0 %	9	2.4 %	6	1.2 %	5	5.5 %
	3,485		1,255		1,928		302	

[年代別]

	合計		10代		20代		30代	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
育児や介護のための施設・サービスの拡大	707	72.0 %	9	69.2 %	62	67.4 %	120	77.9 %
男性の家事・育児・介護などへの理解と協力	618	62.9 %	8	61.5 %	65	70.7 %	107	69.5 %
長時間労働慣行の是正	312	31.8 %	6	46.2 %	38	41.3 %	68	44.2 %
週休2日制やフレックスタイムなどの柔軟な勤務形態	531	54.1 %	7	53.8 %	62	67.4 %	100	64.9 %
育児休業・介護休業制度の普及・促進	585	59.6 %	8	61.5 %	62	67.4 %	104	67.5 %
雇用・労働条件での女性差別をなくす	396	40.3 %	5	38.5 %	34	37.0 %	73	47.4 %
能力開発や技術習得のための講座・研修会の実施	132	13.4 %	1	7.7 %	11	12.0 %	27	17.5 %
これから起業しようとする人への支援の充実	137	14.0 %	2	15.4 %	16	17.4 %	24	15.6 %
特に条件整備は必要ない	18	1.8 %	1	7.7 %	0	0.0 %	3	1.9 %
その他	29	3.0 %	0	0.0 %	3	3.3 %	7	4.5 %
無回答	20	2.0 %	1	7.7 %	0	0.0 %	0	0.0 %
	3,485	—	48	—	353	—	633	—
	40代		50代		60代		70歳以上	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
育児や介護のための施設・サービスの拡大	135	71.4 %	146	76.4 %	109	74.1 %	113	63.8 %
男性の家事・育児・介護などへの理解と協力	122	64.6 %	119	62.3 %	93	63.3 %	95	53.7 %
長時間労働慣行の是正	66	34.9 %	52	27.2 %	41	27.9 %	39	22.0 %
週休2日制やフレックスタイムなどの柔軟な勤務形態	110	58.2 %	111	58.1 %	78	53.1 %	53	29.9 %
育児休業・介護休業制度の普及・促進	115	60.8 %	109	57.1 %	96	65.3 %	82	46.3 %
雇用・労働条件での女性差別をなくす	81	42.9 %	74	38.7 %	66	44.9 %	59	33.3 %
能力開発や技術習得のための講座・研修会の実施	26	13.8 %	19	9.9 %	24	16.3 %	19	10.7 %
これから起業しようとする人への支援の充実	33	17.5 %	22	11.5 %	21	14.3 %	18	10.2 %
特に条件整備は必要ない	3	1.6 %	2	1.0 %	4	2.7 %	5	2.8 %
その他	12	6.3 %	6	3.1 %	1	0.7 %	0	0.0 %
無回答	1	0.5 %	1	0.5 %	3	2.0 %	11	6.2 %
	704	—	661	—	536	—	494	—

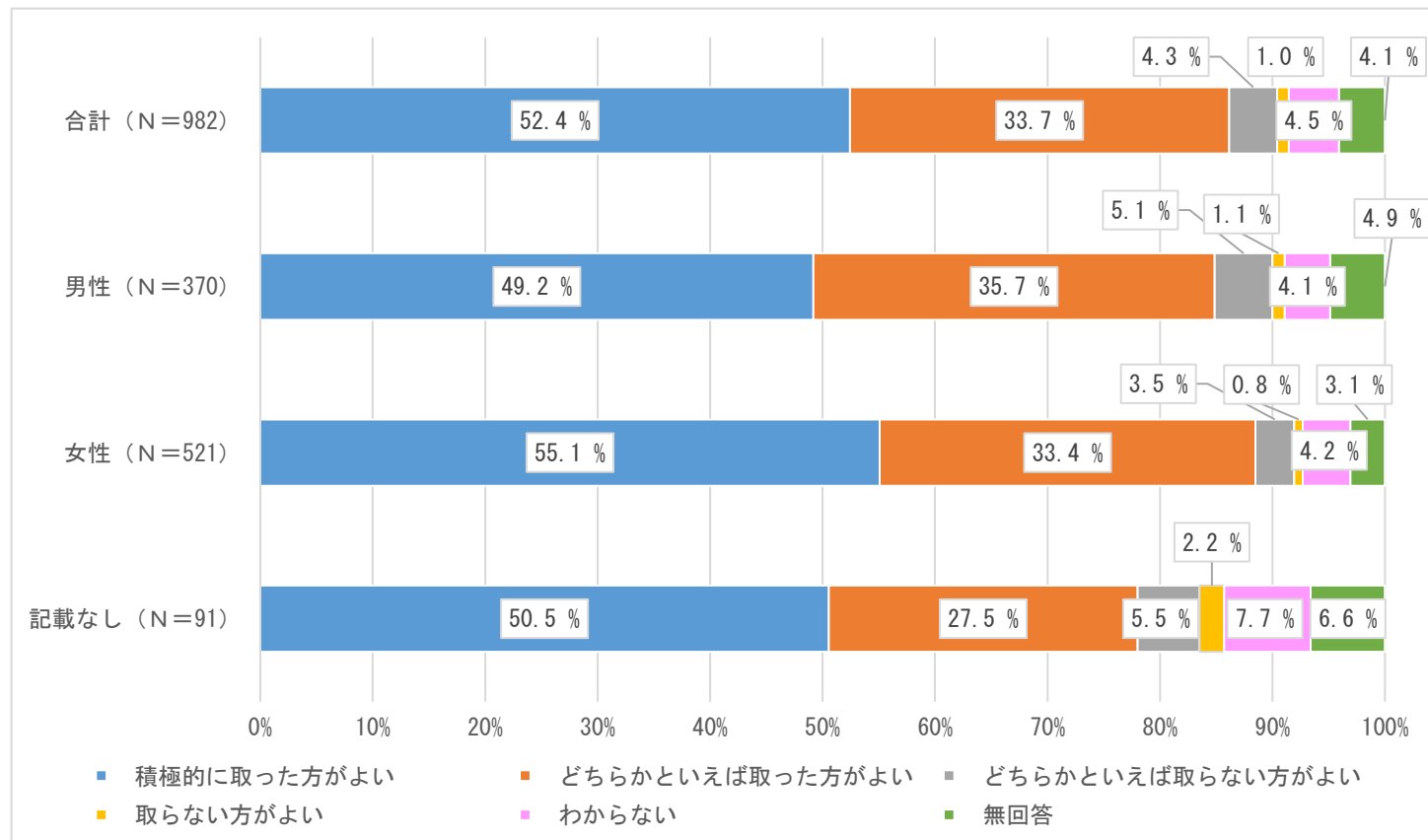
【問8】男性が育児休業や介護休業を取得することについて、どう思いますか。

①育児休業

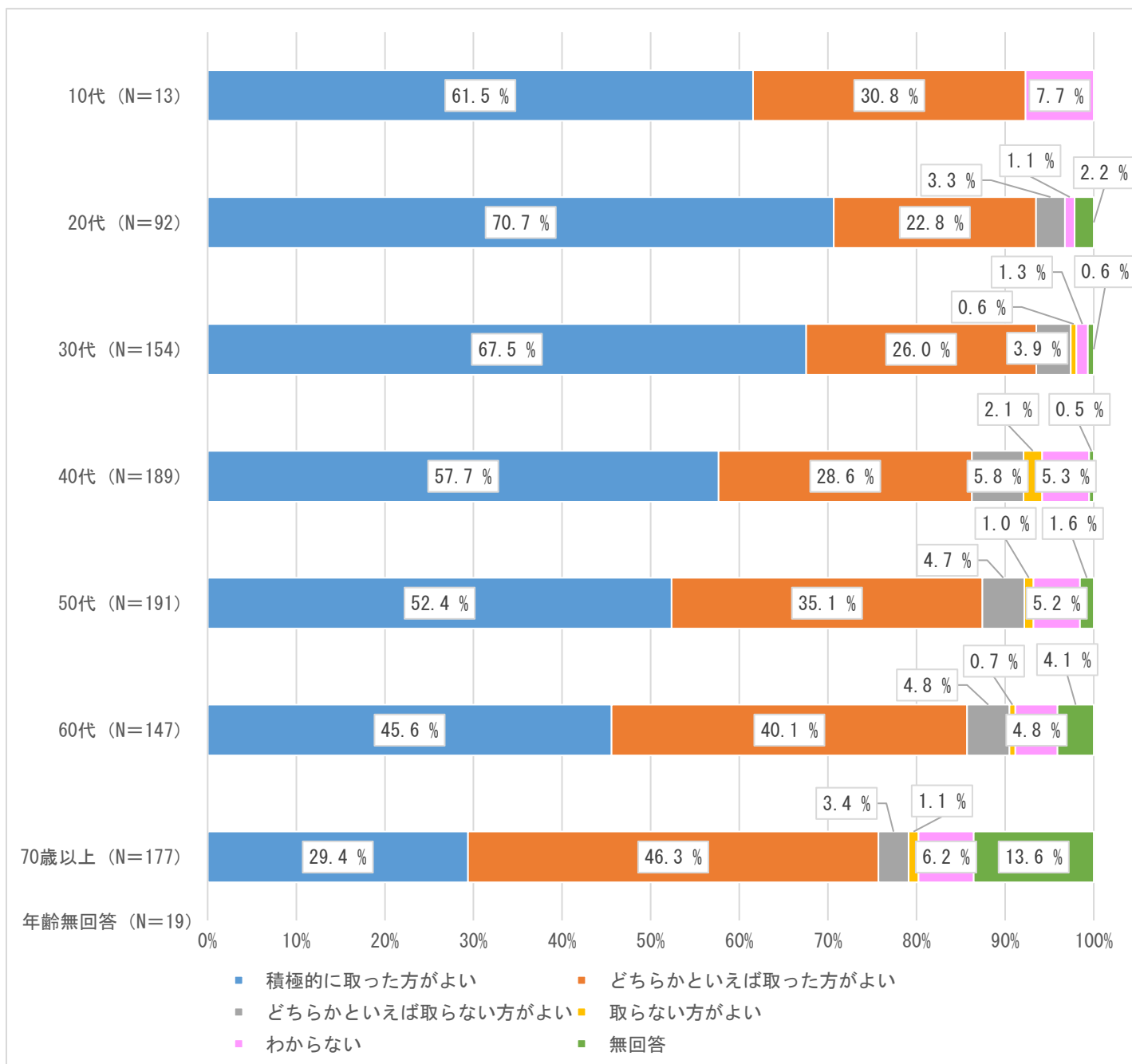
全体でみると、「積極的に取った方がよい」が男性では49.2%、女性では55.1%となり、最も多くなった。「積極的に取った方がよい」は、前回調査と比較して、男性が16.7ポイント増、女性が18.2ポイント増となった。

年代別にみると、「積極的に取った方がよい」が20代で70.7%となり、最も多くなった。

[全体]



[年代別]

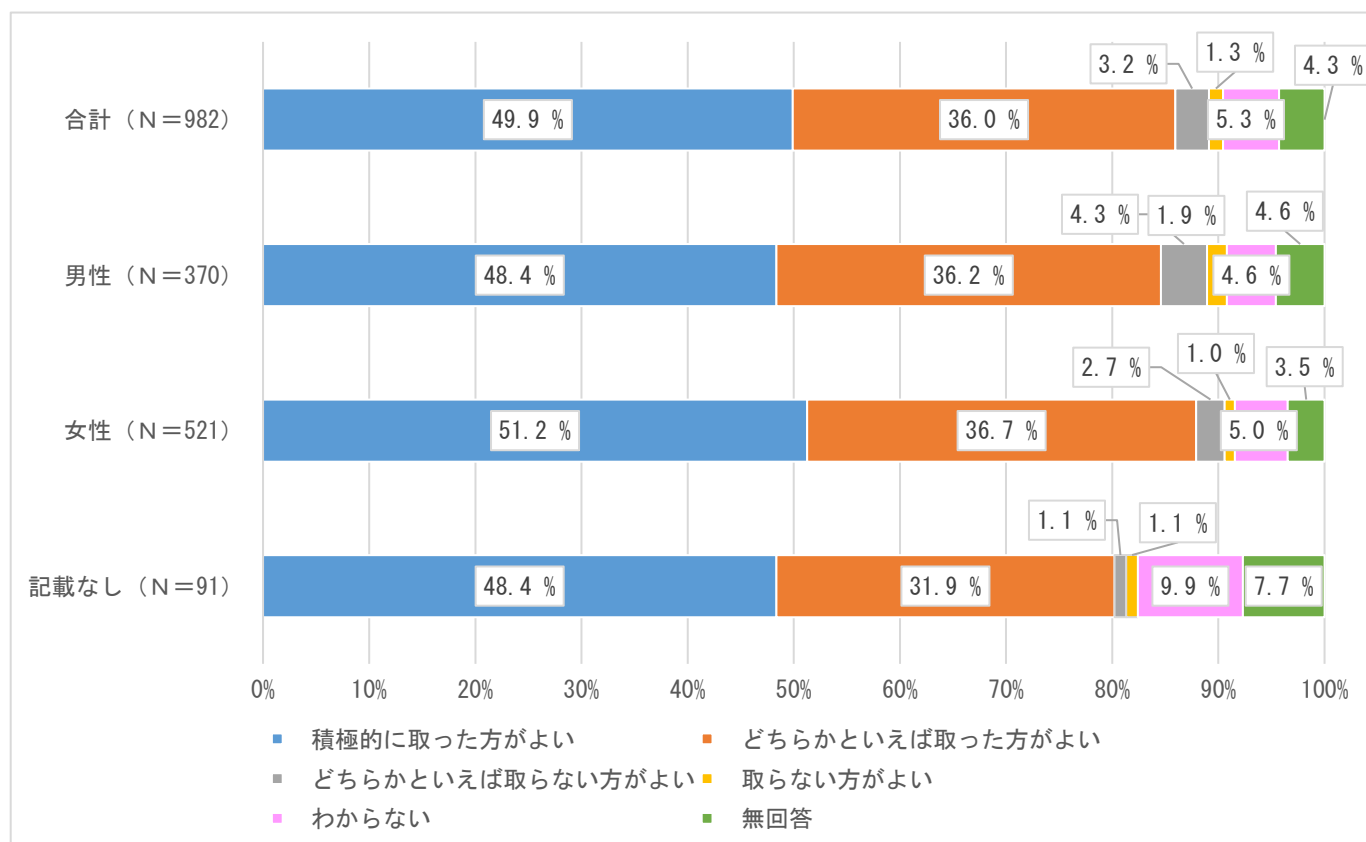


②介護休業

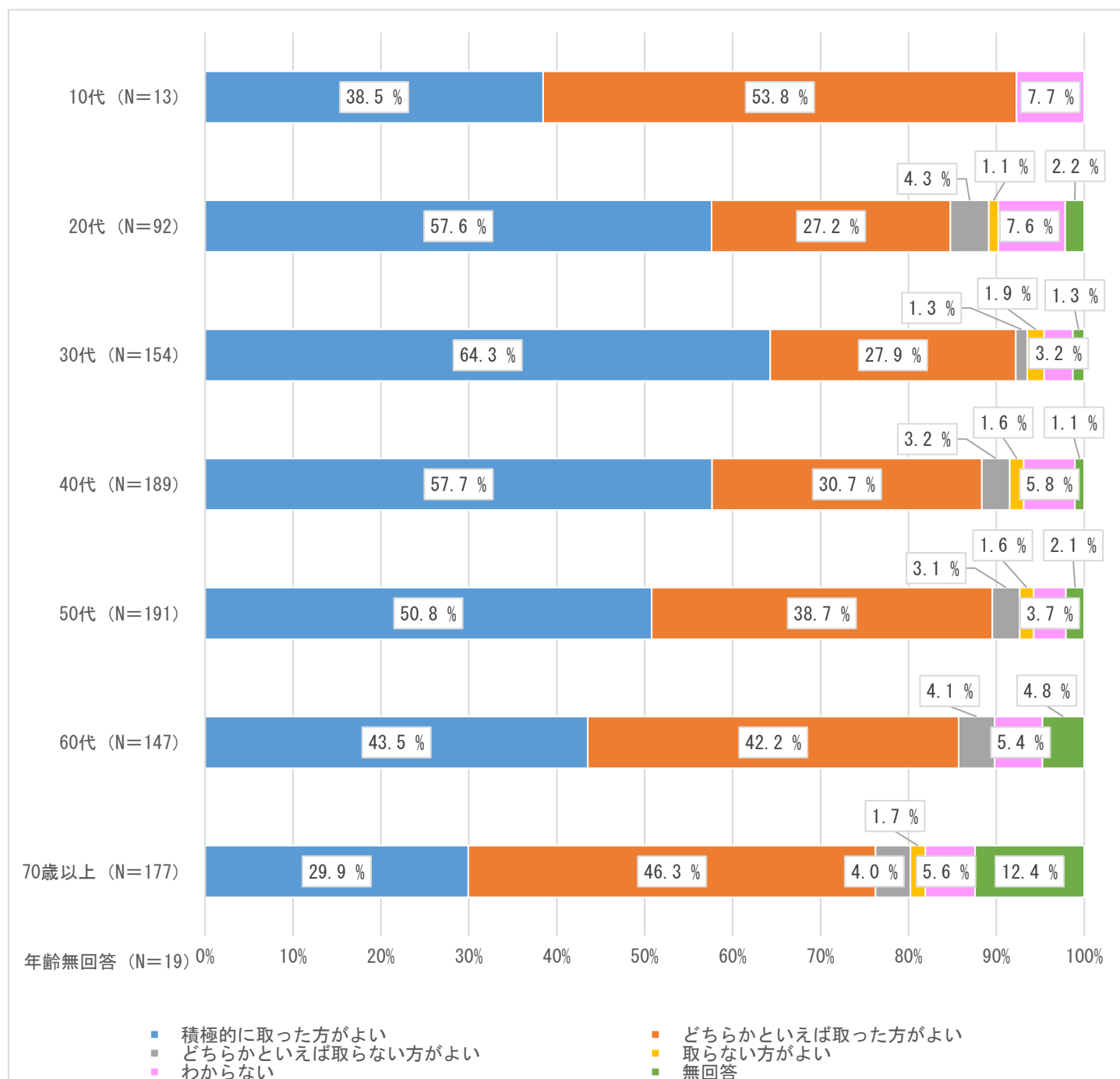
全体でみると、「積極的に取った方がよい」が男性では48.4%、女性では51.2%となり、最も多くなった。「積極的に取った方がよい」は、前回調査と比較して、男性が13.9ポイント増、女性が10.3ポイント増となった。

年代別にみると、「積極的に取った方がよい」が30代で64.3%となり、最も多くなった。

[全体]



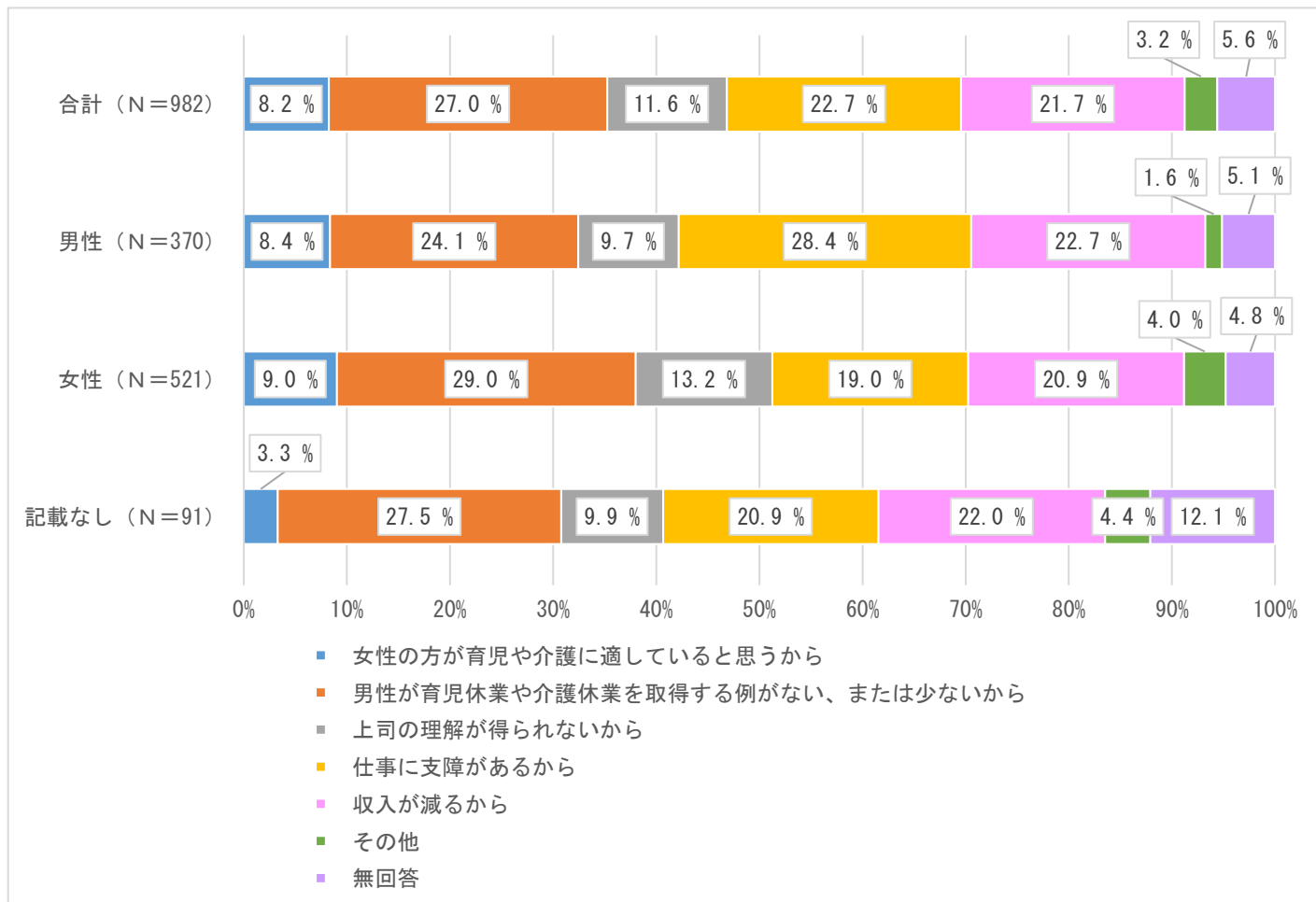
[年代別]



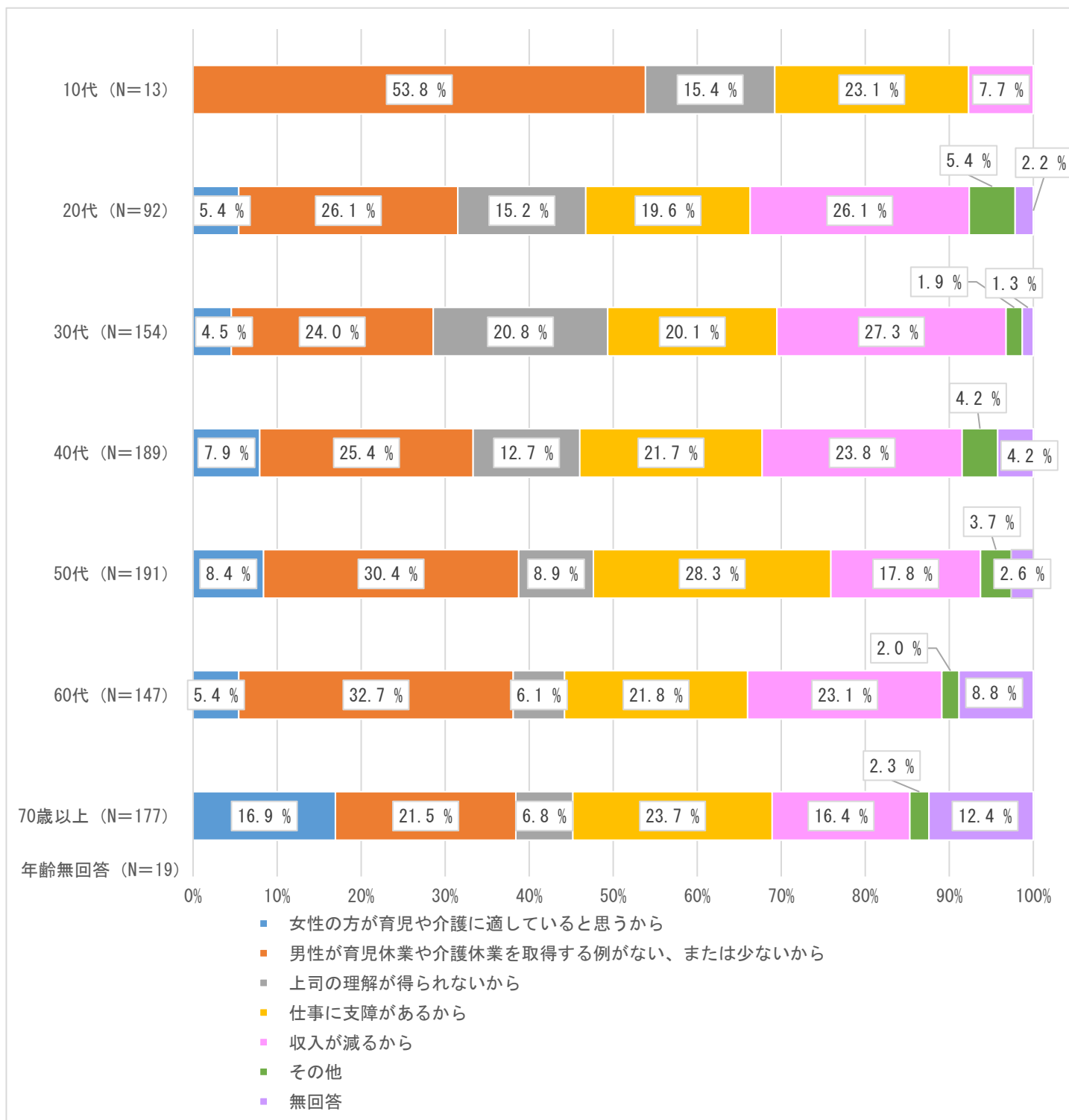
【問 9】男性が育児休業や介護休業を取得できない、または取得しない理由をどう考えますか。

全体でみると、男性では「仕事に支障があるから」が28.4%、女性では「男性が育児休業や介護休業を取得する例がない、または少ないから」が29.0%となり、最も多くなった。
年代別にみると、「仕事に支障があるから」が50代で28.3%となり、最も多くなった。

[全体]

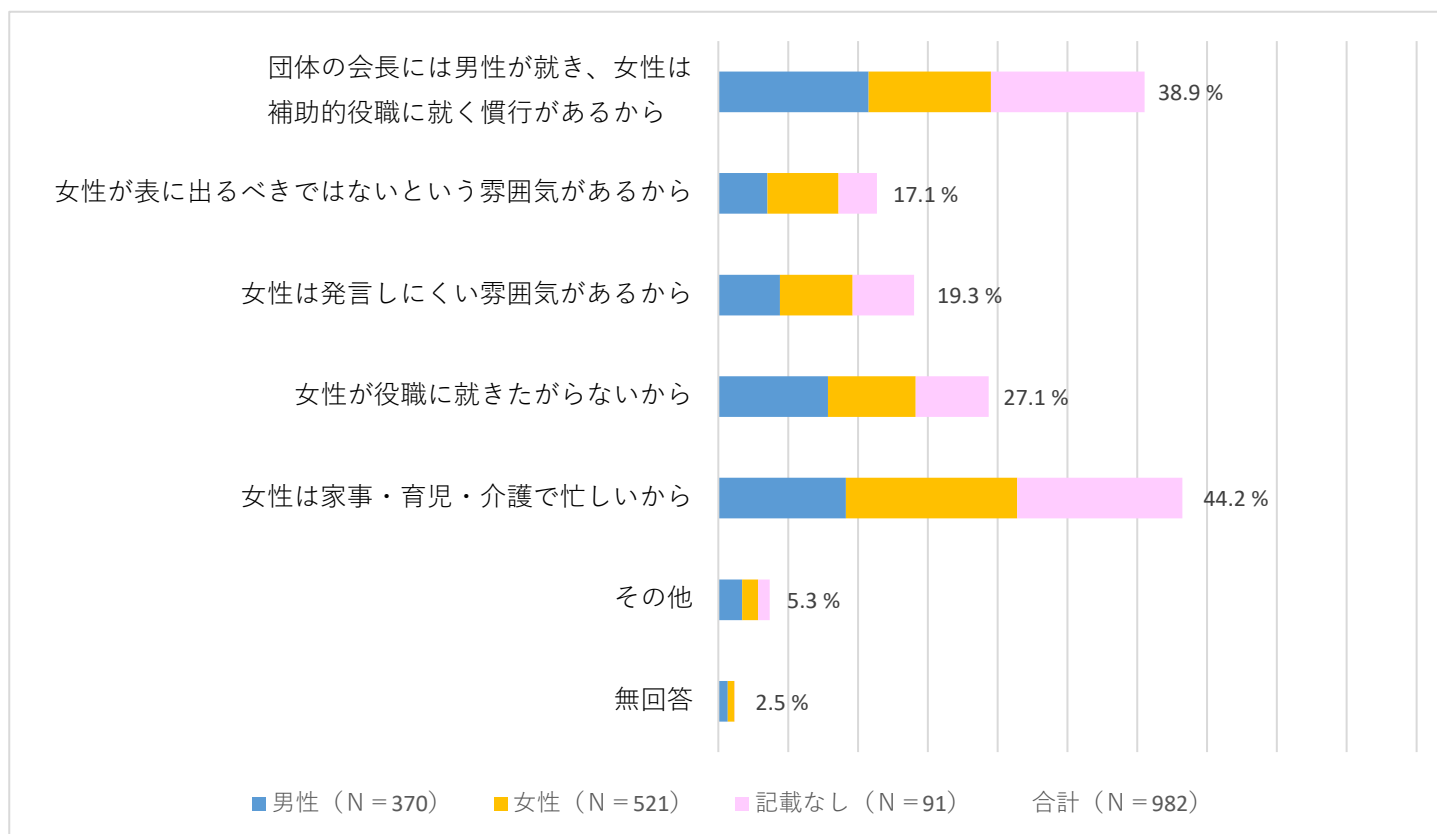


[年代別]



【問10】コミュニティや行政区などの地域活動の方針決定の場に、女性の参画が少ないのはなぜだと思いますか。(複数回答)

全体でみると、男性では「団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行があるから」が43.0%、女性では「女性は家事・育児・介護で忙しいから」が49.1%となり、最も多くなった。
 男女の意識の差では、「女性は家事・育児・介護で忙しいから」が女性で49.1%であるのに対し、男性が36.5%となり、12.6ポイントの差があった。
 年代別にみると、「女性は家事・育児・介護で忙しいから」が50代で48.7%となり、最も多くなった。



[全体]

	合計		男性		女性		性別記載なし	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行があるから	382	38.9 %	159	43.0 %	183	35.1 %	40	44.0 %
女性が表に出るべきではないという雰囲気があるから	168	17.1 %	52	14.1 %	106	20.3 %	10	11.0 %
女性は発言しにくい雰囲気があるから	190	19.3 %	65	17.6 %	109	20.9 %	16	17.6 %
女性が役職に就きたがらないから	266	27.1 %	116	31.4 %	131	25.1 %	19	20.9 %
女性は家事・育児・介護で忙しいから	434	44.2 %	135	36.5 %	256	49.1 %	43	47.3 %
その他	52	5.3 %	25	6.8 %	24	4.6 %	3	3.3 %
無回答	25	2.5 %	10	2.7 %	10	1.9 %	5	5.5 %
	1,517	—	562	—	819	—	136	—

[年代別]

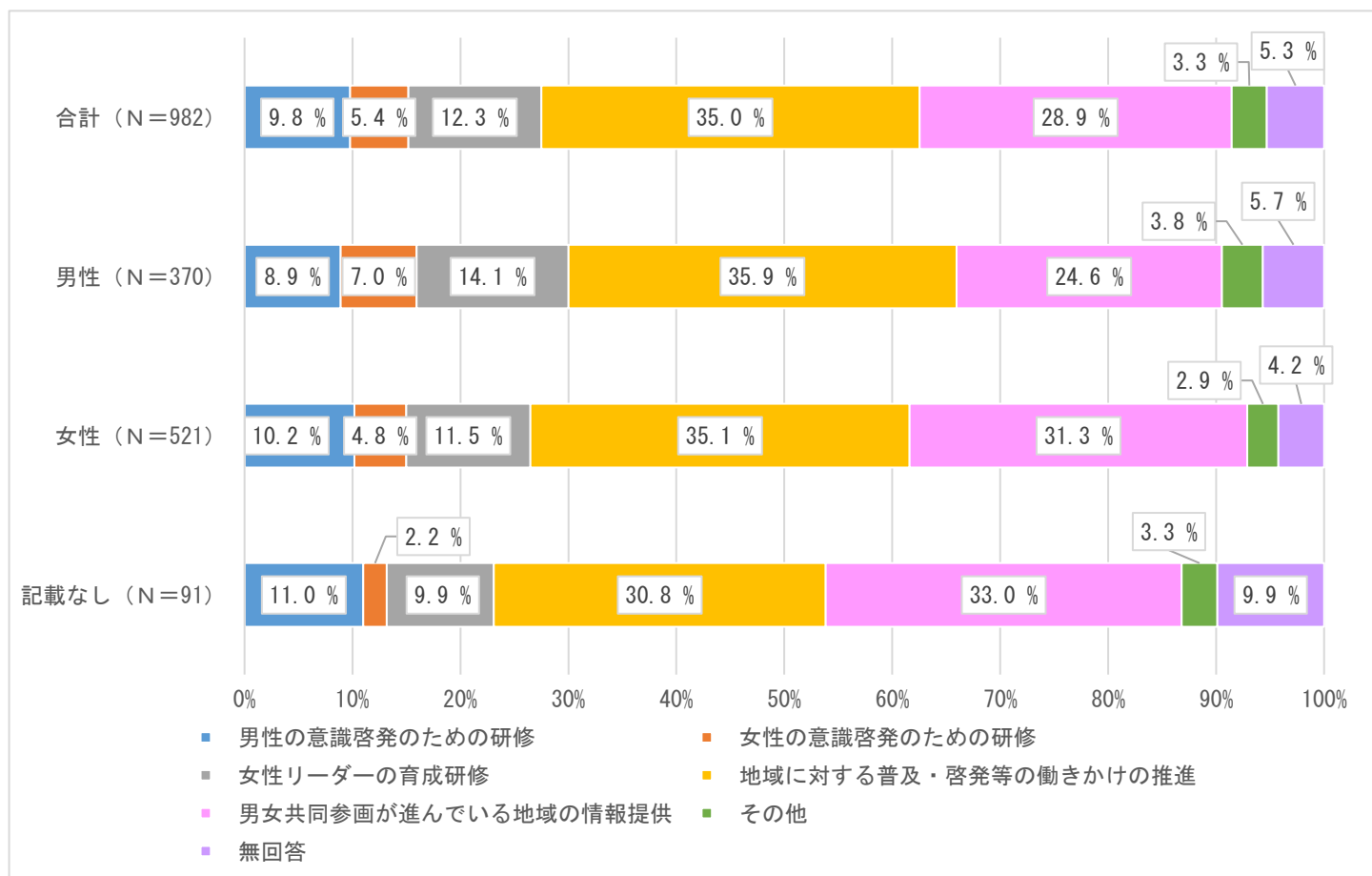
	合計		10代		20代		30代	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行があるから	382	38.9 %	5	38.5 %	33	35.9 %	56	36.4 %
女性が表に出るべきではないという雰囲気があるから	168	17.1 %	4	30.8 %	18	19.6 %	32	20.8 %
女性は発言しにくい雰囲気があるから	190	19.3 %	4	30.8 %	25	27.2 %	35	22.7 %
女性が役職に就きたがらないから	266	27.1 %	2	15.4 %	16	17.4 %	36	23.4 %
女性は家事・育児・介護で忙しいから	434	44.2 %	3	23.1 %	29	31.5 %	70	45.5 %
その他	52	5.3 %	1	7.7 %	7	7.6 %	14	9.1 %
無回答	25	2.5 %	0	0.0 %	2	2.2 %	1	0.6 %
	1,517	—	19	—	130	—	244	—
	40代		50代		60代		70歳以上	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行があるから	75	39.7 %	69	36.1 %	64	43.5 %	71	40.1 %
女性が表に出るべきではないという雰囲気があるから	26	13.8 %	32	16.8 %	31	21.1 %	24	13.6 %
女性は発言しにくい雰囲気があるから	38	20.1 %	31	16.2 %	29	19.7 %	25	14.1 %
女性が役職に就きたがらないから	54	28.6 %	55	28.8 %	44	29.9 %	54	30.5 %
女性は家事・育児・介護で忙しいから	89	47.1 %	93	48.7 %	64	43.5 %	79	44.6 %
その他	10	5.3 %	12	6.3 %	6	4.1 %	2	1.1 %
無回答	3	1.6 %	2	1.0 %	5	3.4 %	10	5.6 %
	295	—	294	—	243	—	265	—

【問11】 地域において男女共同参画を進めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

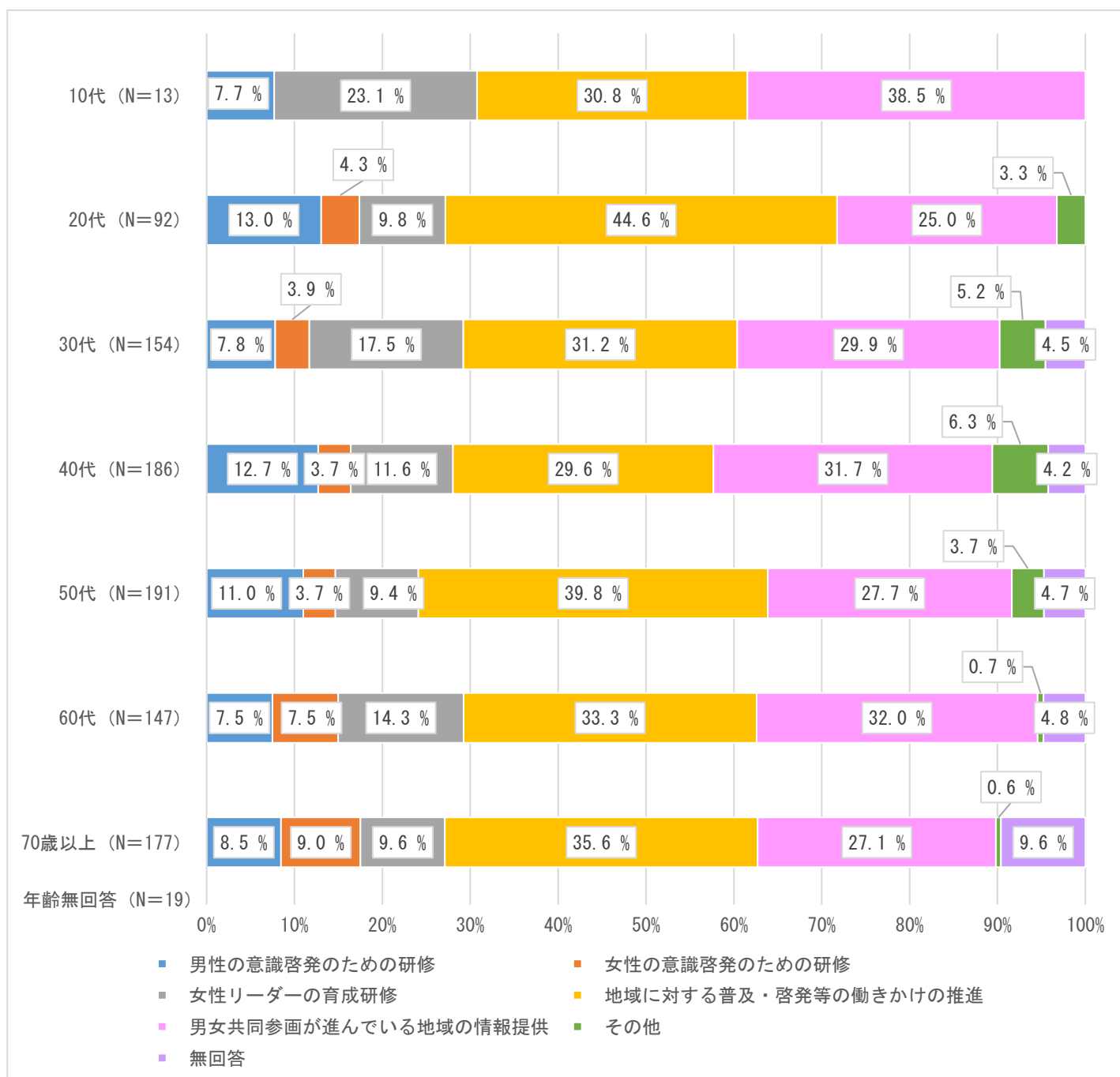
全体でみると、「地域に対する普及・啓発等の働きかけの推進」が男性では35.9%、女性では35.1%となり、最も多くなった。

年代別にみると、「地域に対する普及・啓発等の働きかけの推進」が、20代では44.6%となり、最も多くなった。

[全体]



[年代別]

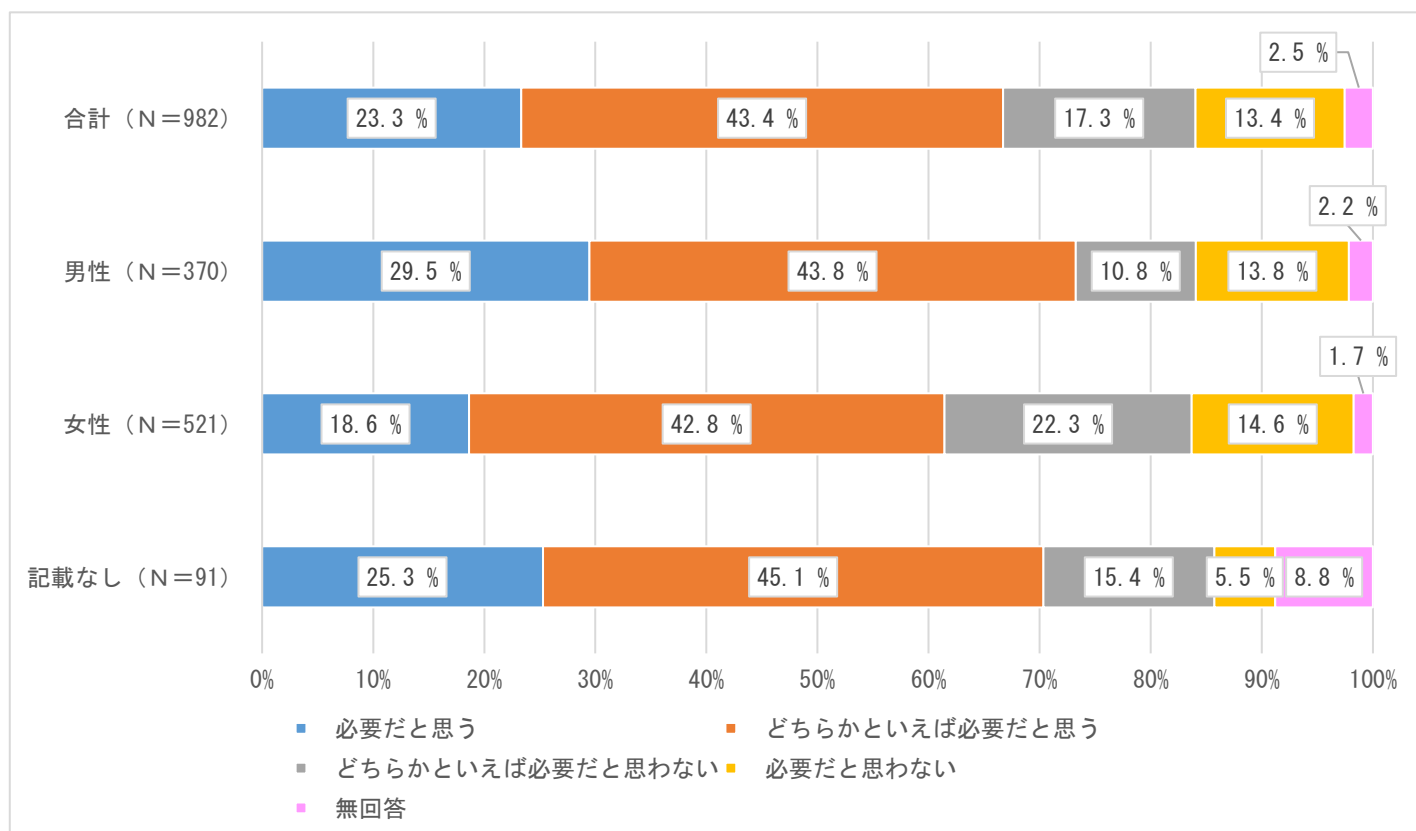


【問12】地域において、役員などの女性の割合をあらかじめ一定数に定め、積極的に起用する制度（クオータ制）を導入することは必要だと思いますか。

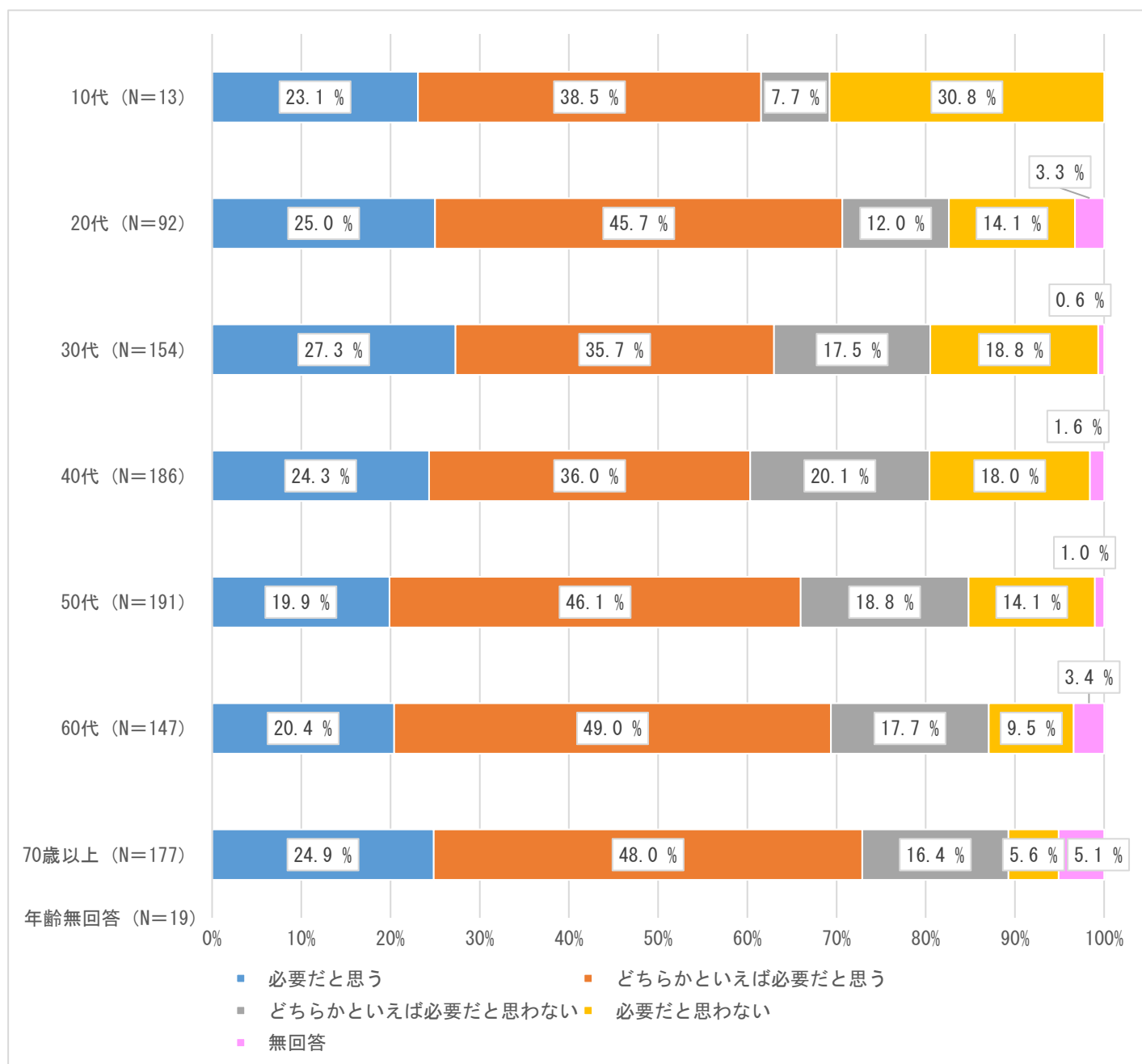
全体でみると、「どちらかといえば必要だと思う」が男性では43.8%、女性では42.8%となり、最も多くなった。「必要だと思う」と合わせると、男性では73.3%、女性では61.4%が必要性を感じているという結果となった。

年代別にみると、「必要だと思う」が30代で27.3%となり、最も多くなった。

【全体】



[年代別]



2 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）についておたずねします（問13～問18）

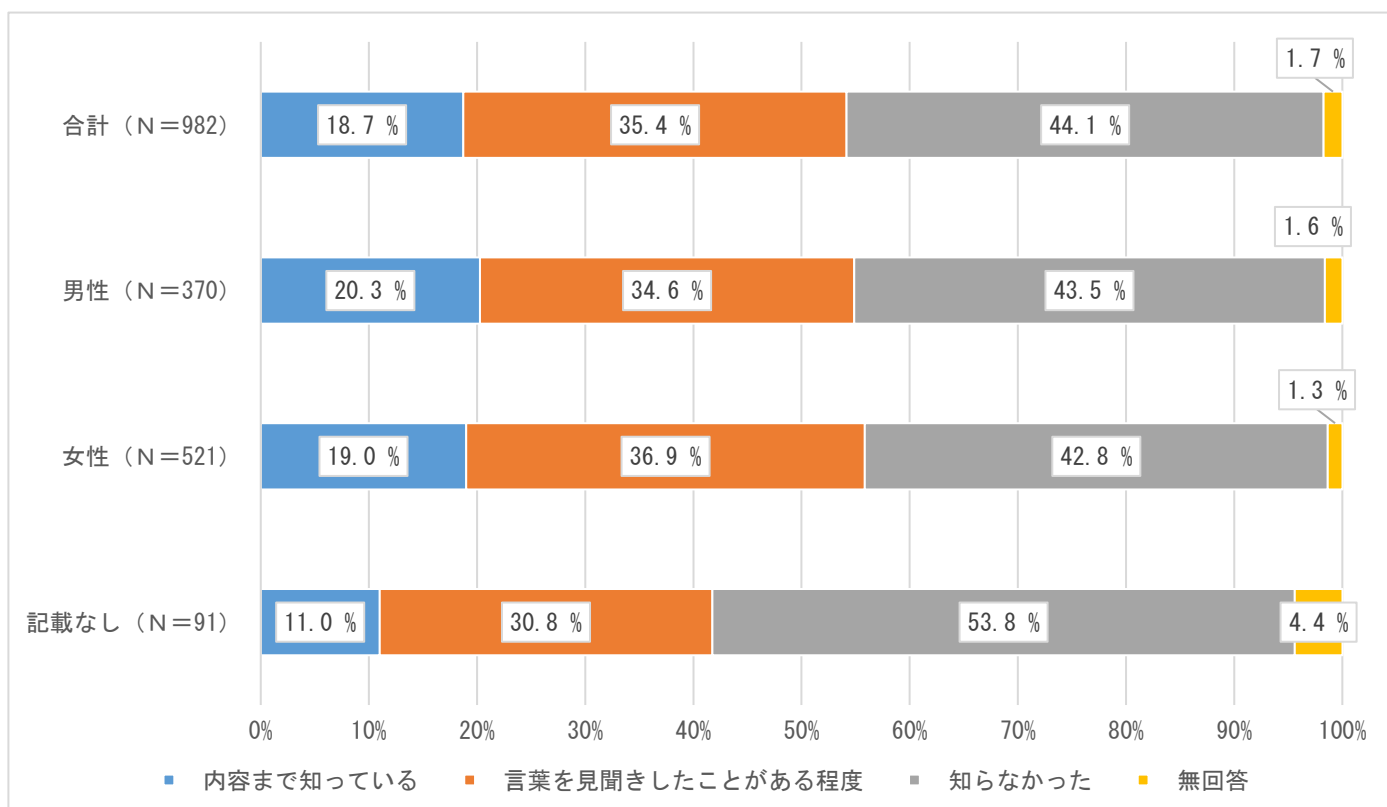
【問13】あなたは、ワーク・ライフ・バランスについて知っていますか。

（ワーク・ライフ・バランスとは、人々の健康を維持し、趣味や学習、地域社会への参画等を通じた自己実現を可能にするとともに、育児・介護も含め、家族が安心して暮らし、責任を果たしていく上で重要なものです。）

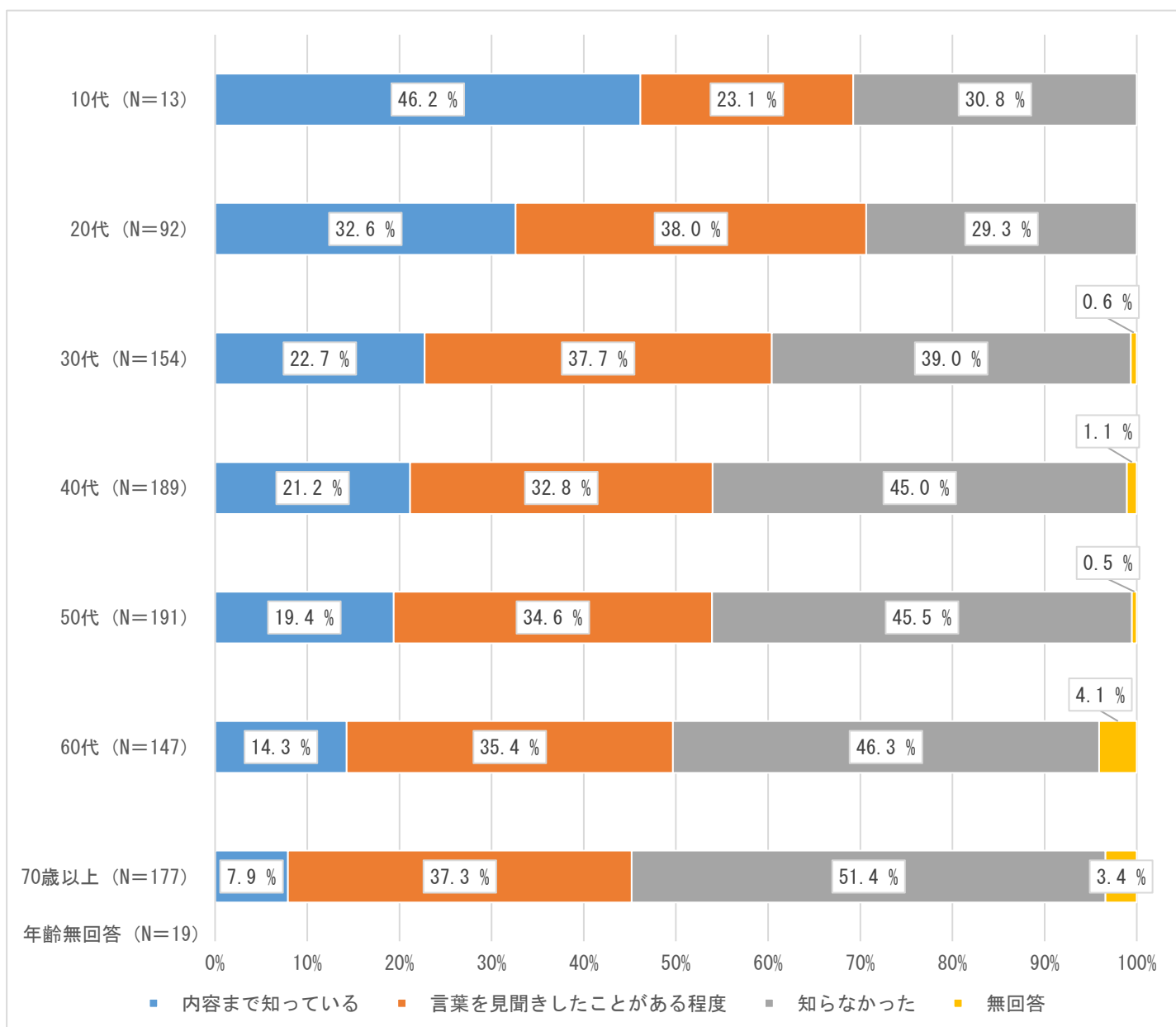
全体でみると、「知らなかった」が男性では43.5%、女性では42.8%となり、最も多くなった。「知らなかった」は、前回調査と比較して、男性が7.3ポイント減、女性が8.2ポイント減となった。「内容まで知っている」は、前回調査と比較して、男性が6.2ポイント増、女性が8.4ポイント増となった。

年代別にみると、「内容まで知っている」が10代で46.2%となり、最も多くなった。

[全体]



[年代別]



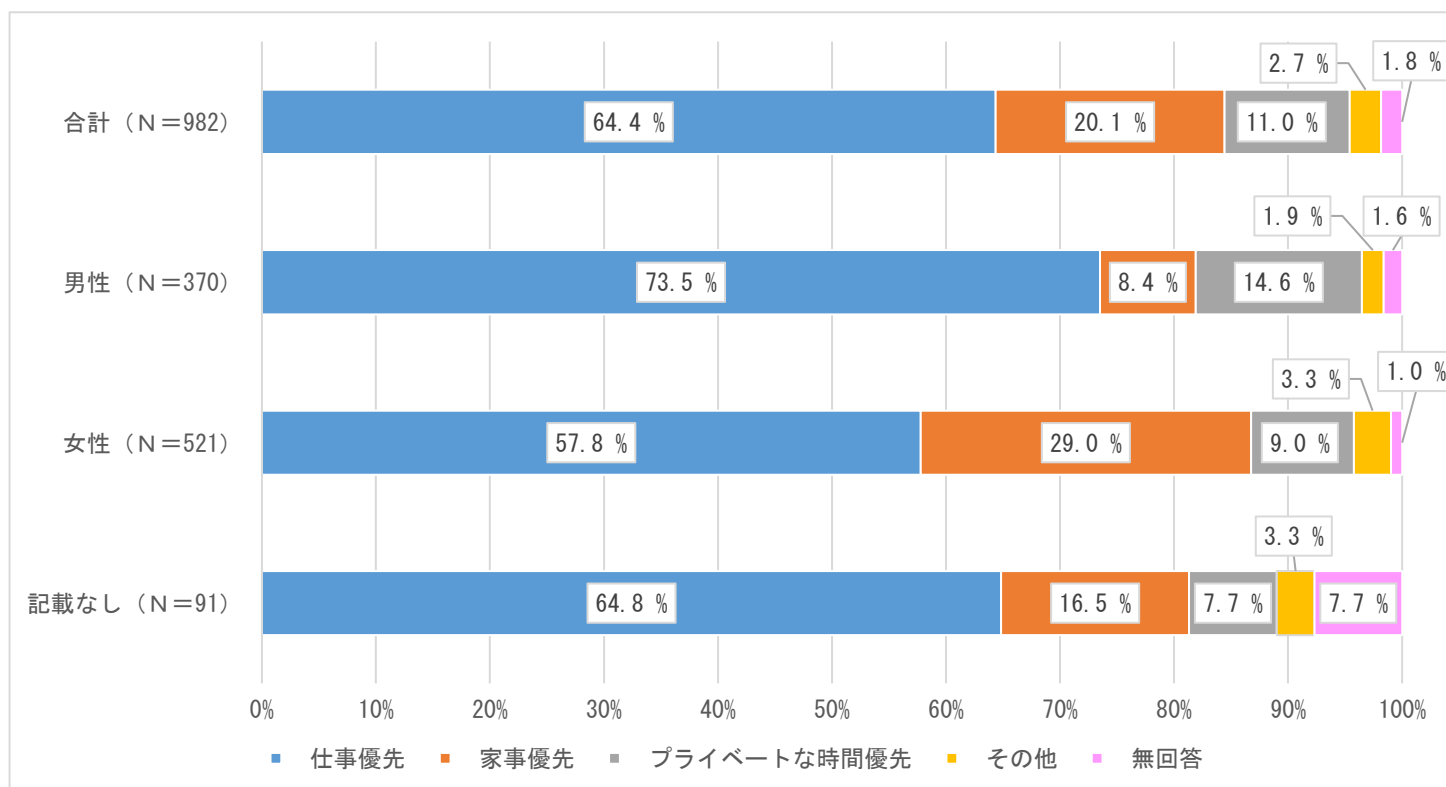
【問14】生活の中での、仕事・介護（育児、介護）・プライベートな時間（趣味など）の優先度について
お答えください。

①現状

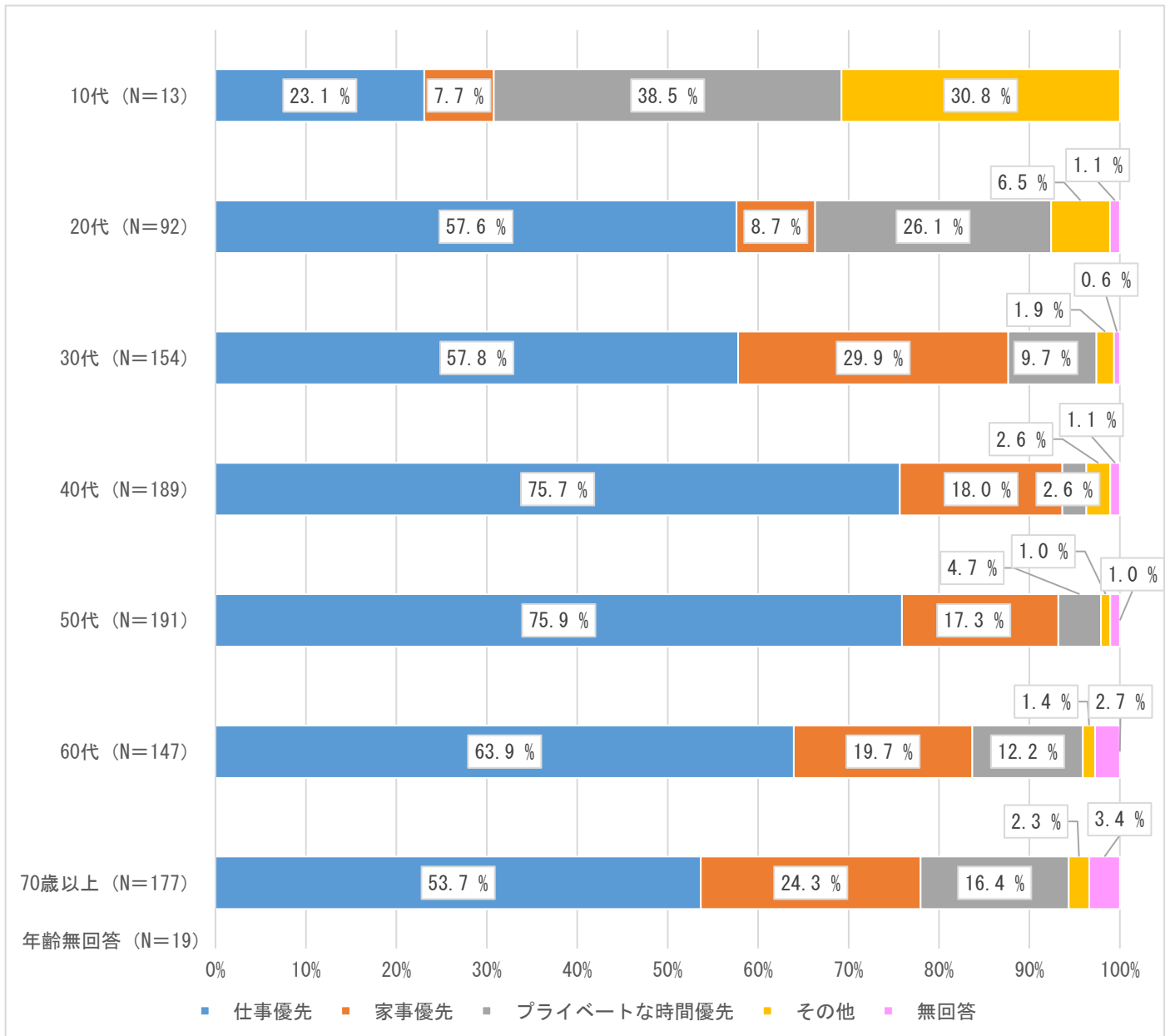
全体でみると、「仕事優先」が男性では73.5%、女性では57.8%で最も多く、前回調査と比較して、男性が4.9ポイント減、女性が0.3ポイント増となった。

「家事優先」は女性で29.0%であるのに対し、男性が8.4%となり、20.6ポイントの差があった。
年代別にみると、「仕事優先」が50代で75.9%となり、最も多くなった。

[全体]



[年代別]

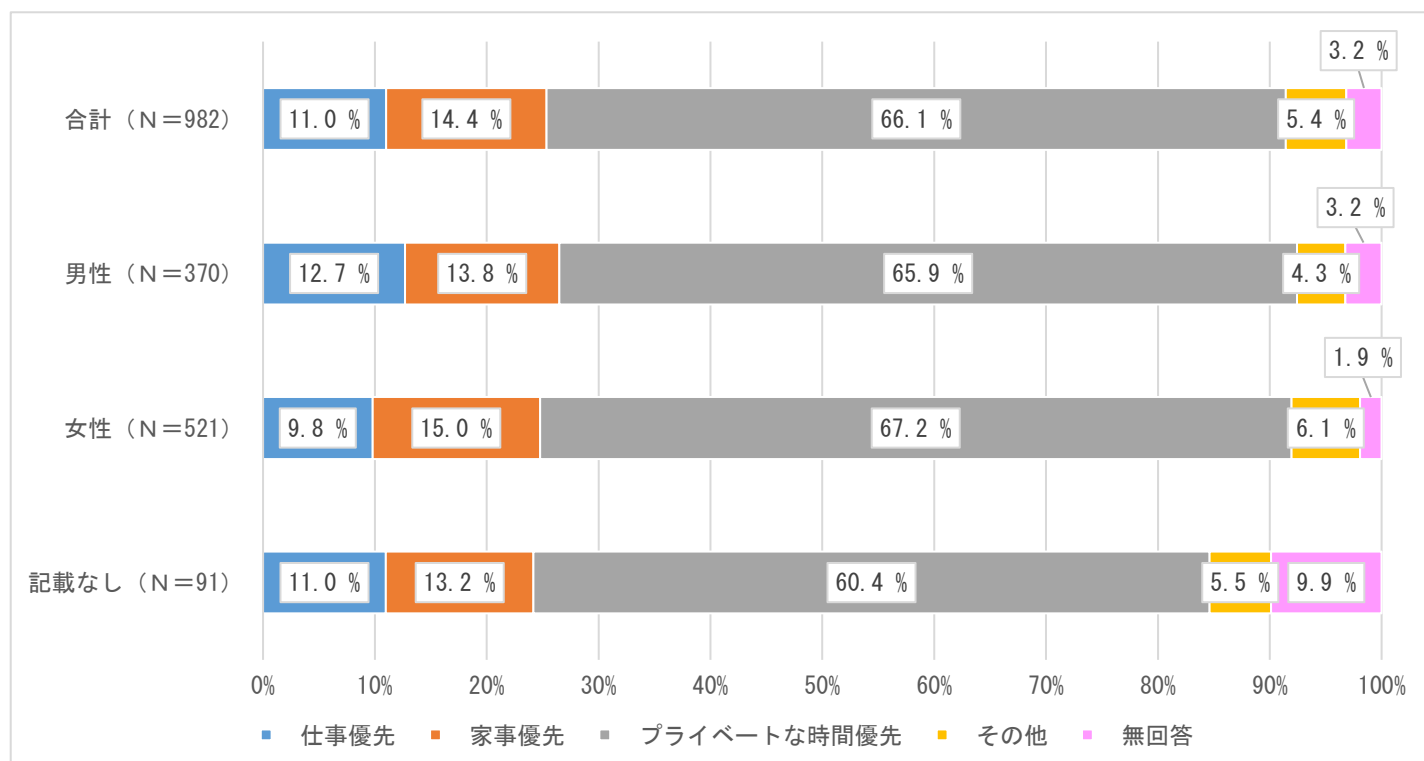


②理想

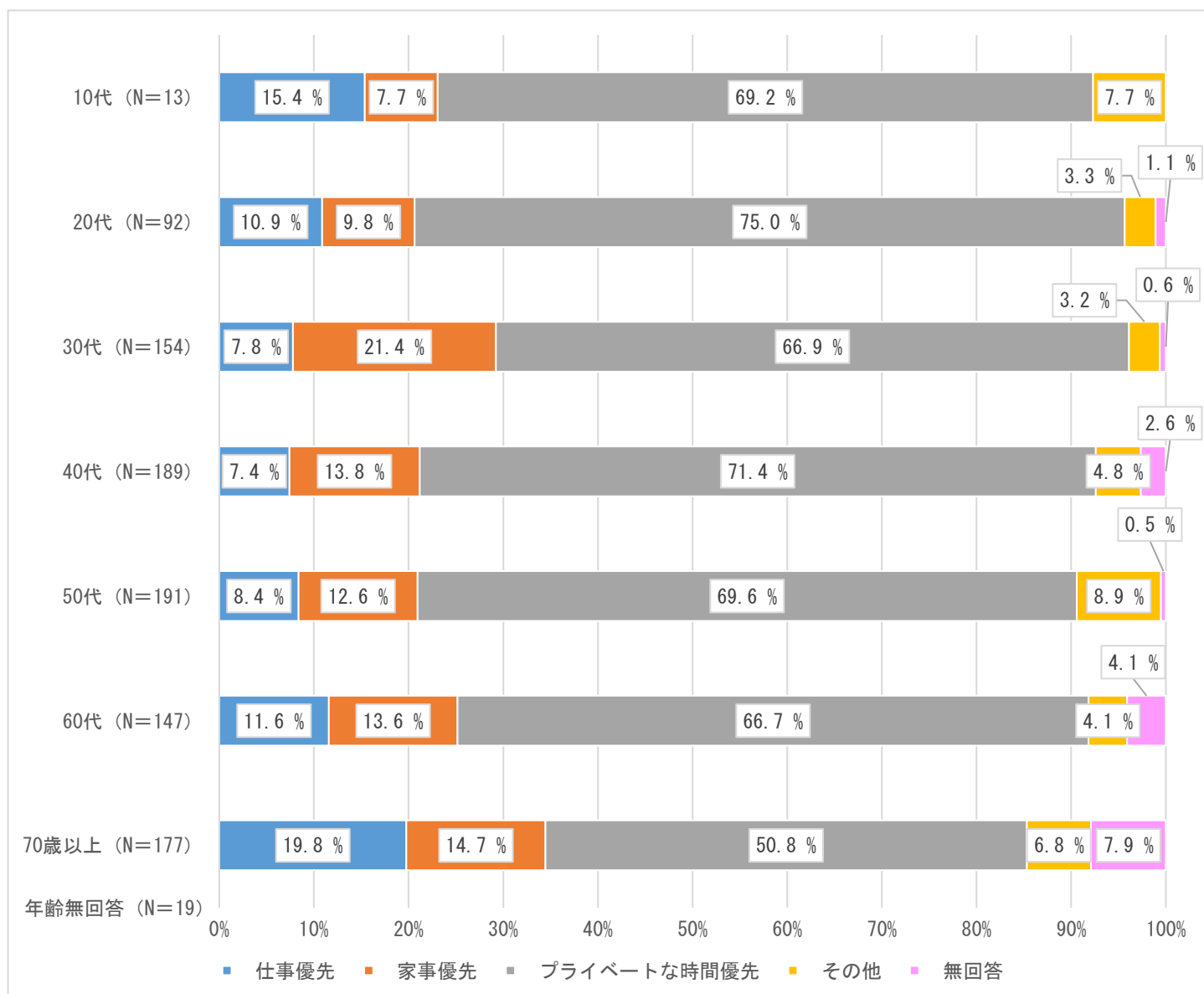
全体でみると、「プライベートな時間優先」が男性では65.9%、女性では67.2%となり、最も多くなった。「プライベートな時間優先」は、前回調査と比較して、男性が10.4ポイント増、女性が10.8ポイント増となった。

年代別にみると、「プライベートな時間優先」が20代で75.0%となり、最も多くなった。

[全体]



[年代別]



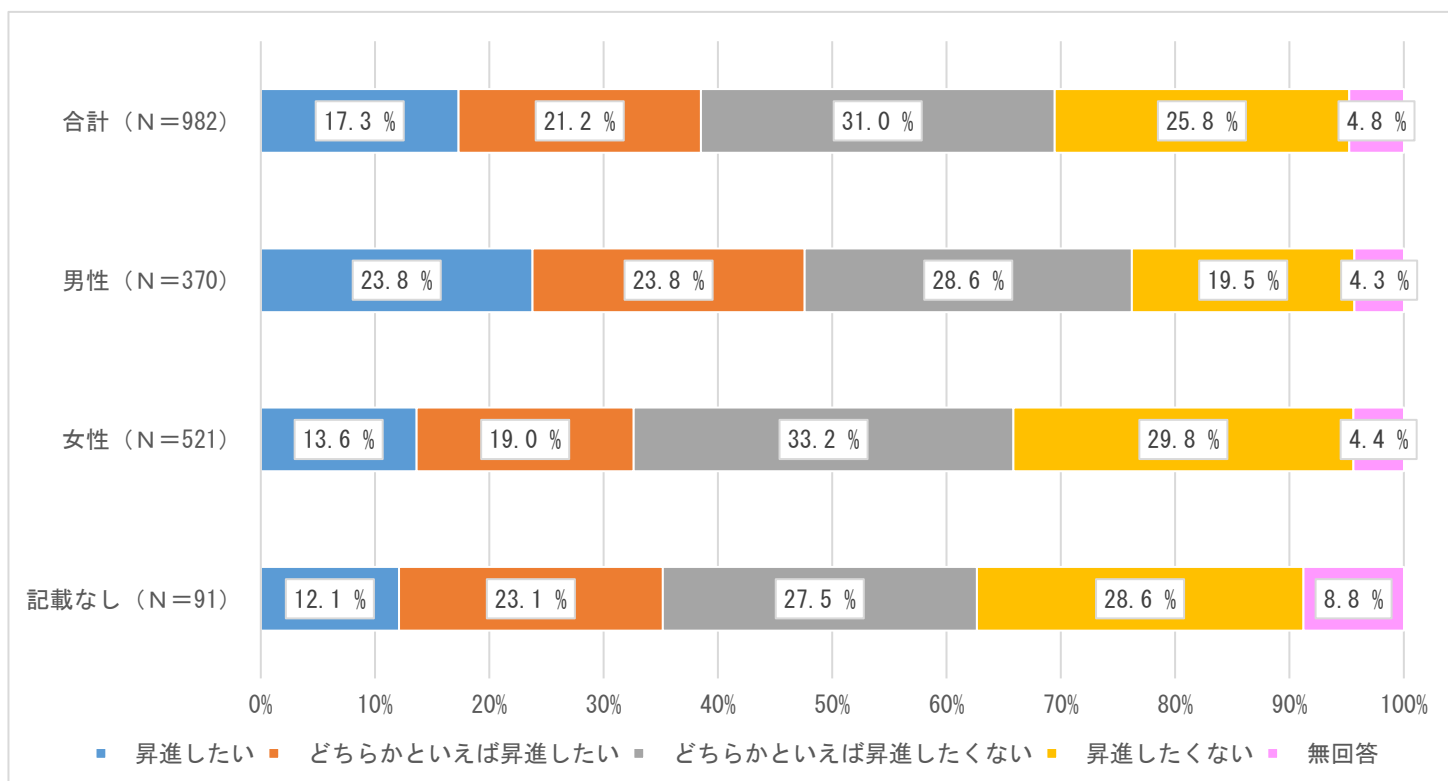
【問15】あなたは、管理職に昇進できるのであれば、昇進したいと思いますか。

全体でみると、「どちらかといえば昇進したくない」が男性では28.6%、女性では33.2%となり、最も多くなった。

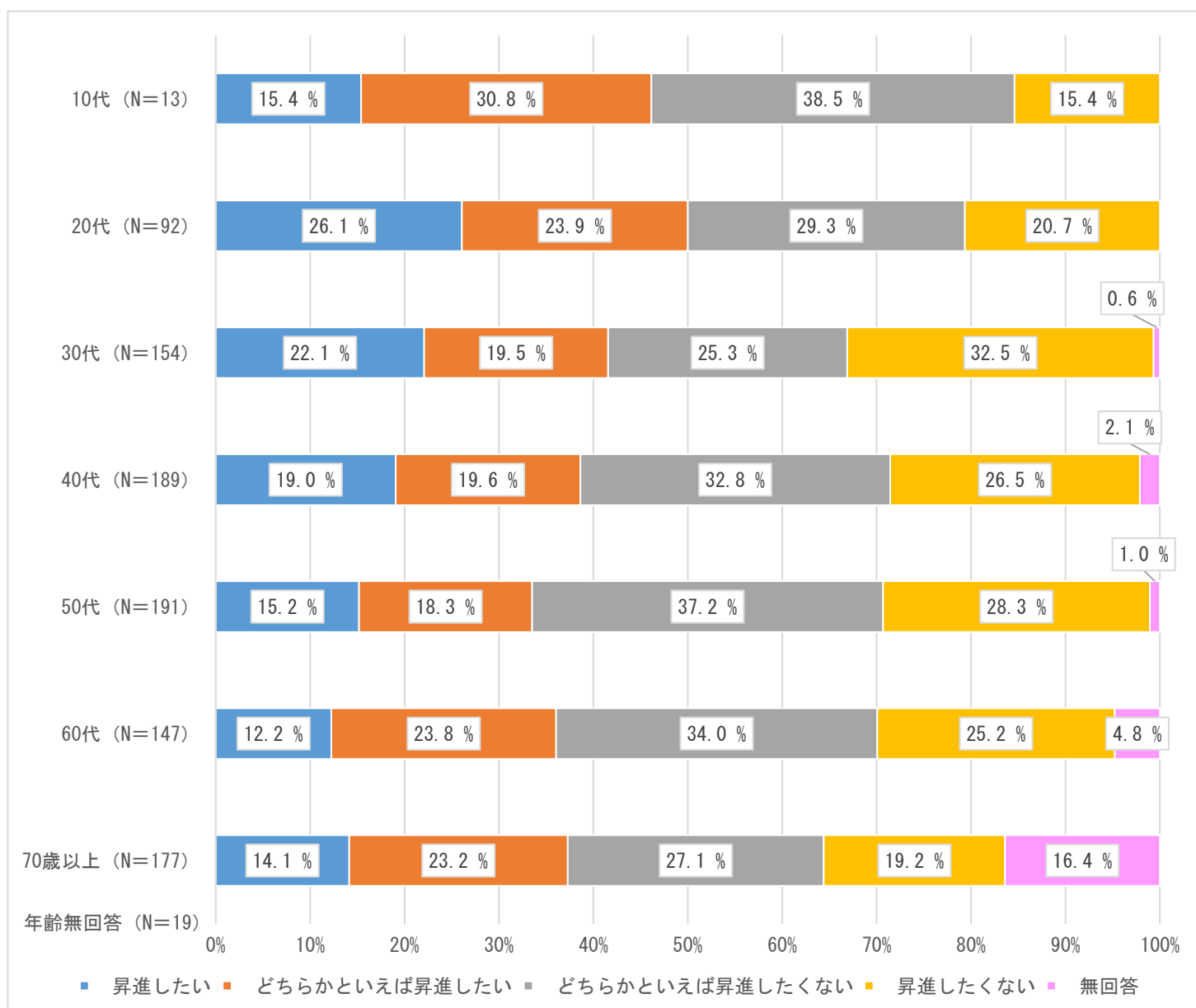
男女の意識の差では、「昇進したい」が男性で23.8%であるのに対し、女性が13.6%となり、10.2ポイントの差があった。また、「昇進したくない」は男性が19.5%であるのに対し、女性では29.8%となり、10.3ポイントの差があった。

年代別にみると、「昇進したい」が20代で26.1%、「昇進したくない」が30代で32.5%となり、最も多くなった。

【全体】



[年代別]

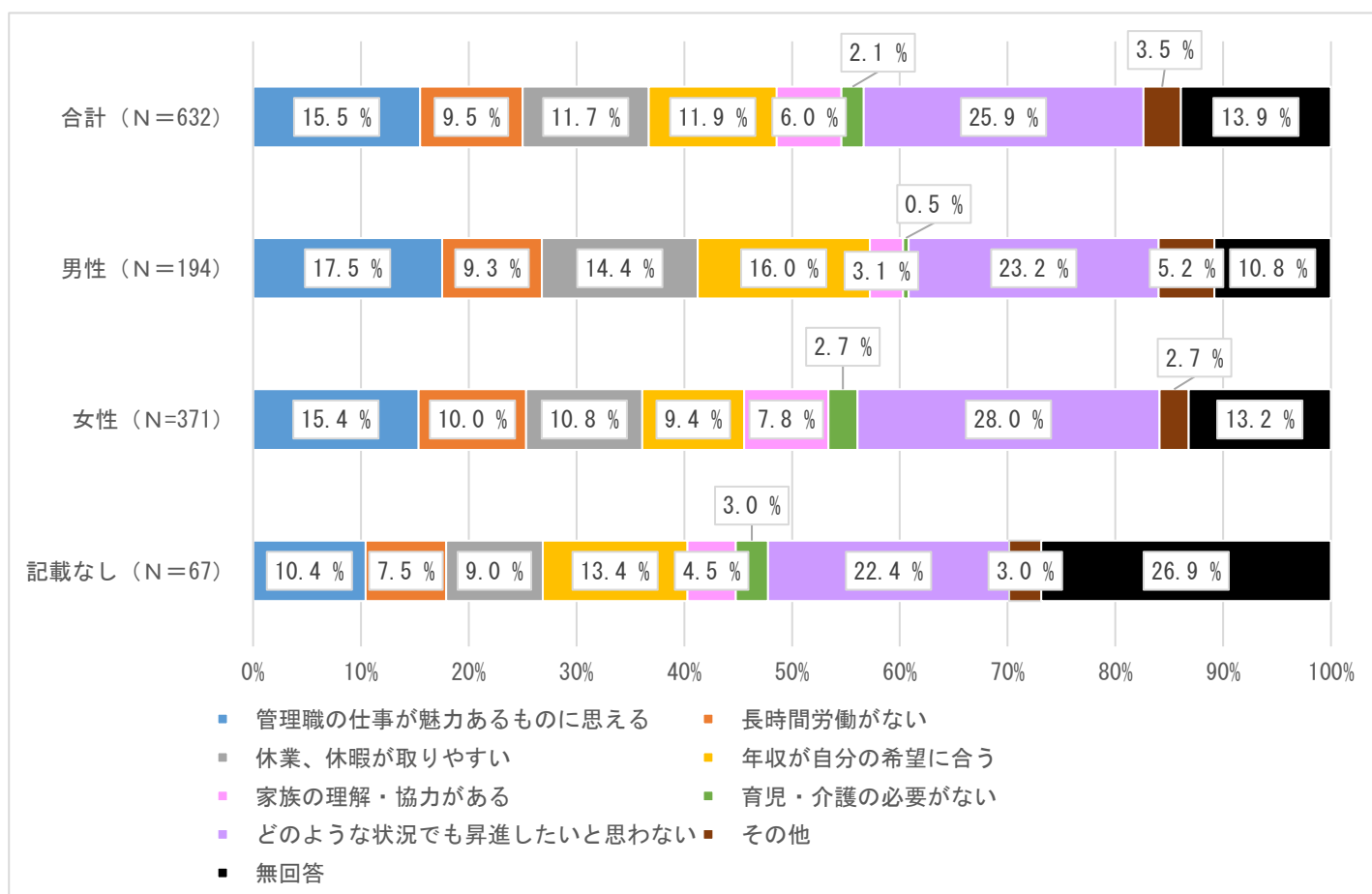


【問16】 問15で、「3. どちらかといえば昇進したくない」または「4. 昇進したくない」と回答した方に伺います。どのような状況になれば昇進したいと思いますか

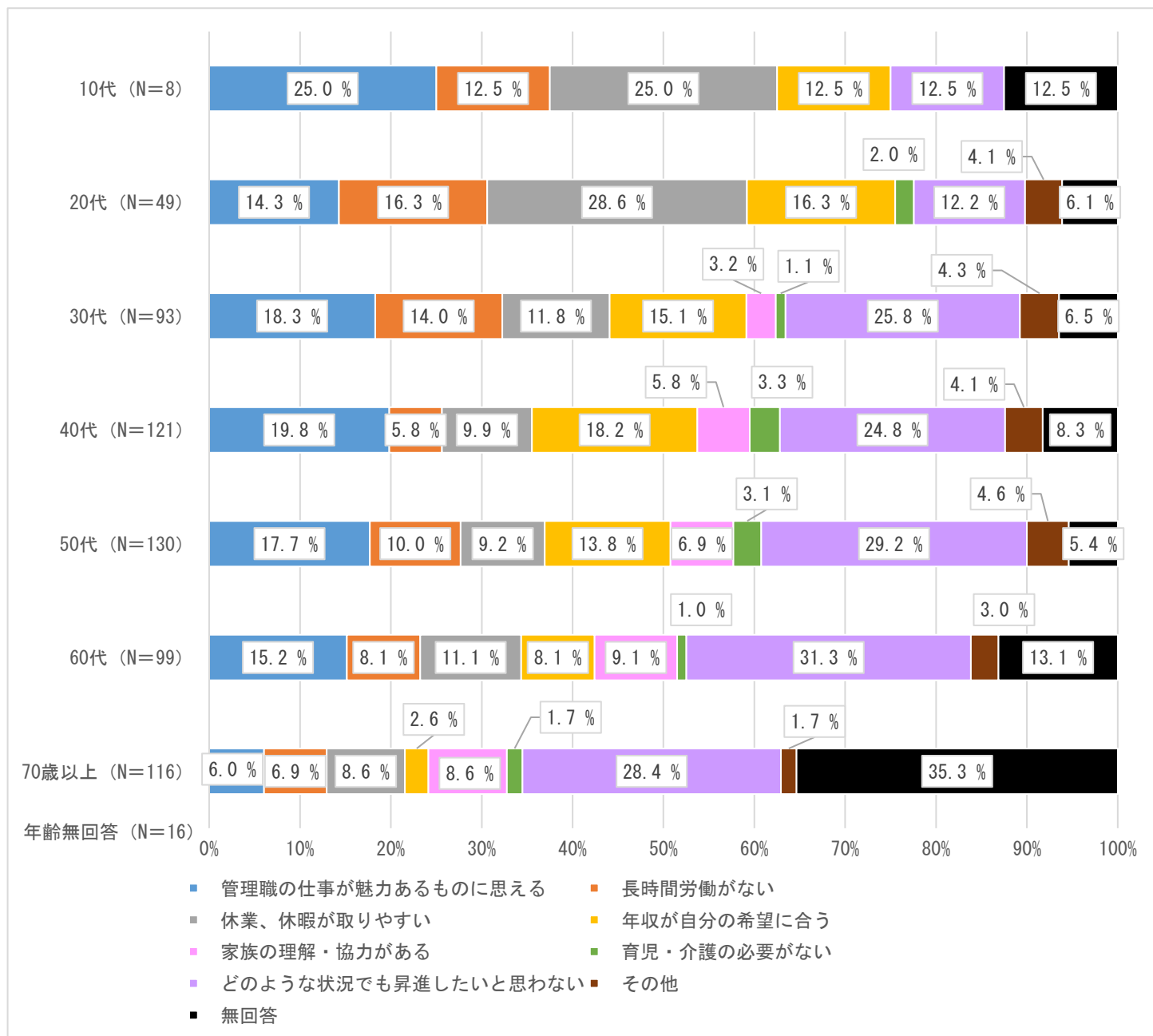
全体でみると、「どのような状況でも昇進したいと思わない」が男性では23.2%、女性では28.0%となり、最も多くなった。

年代別にみると、「休業、休暇が取りやすい」が20代で28.6%と最も多くなり、30代から70歳以上では「どのような状況でも昇進したいと思わない」が最も多くなった。

[全体]



[年代別]



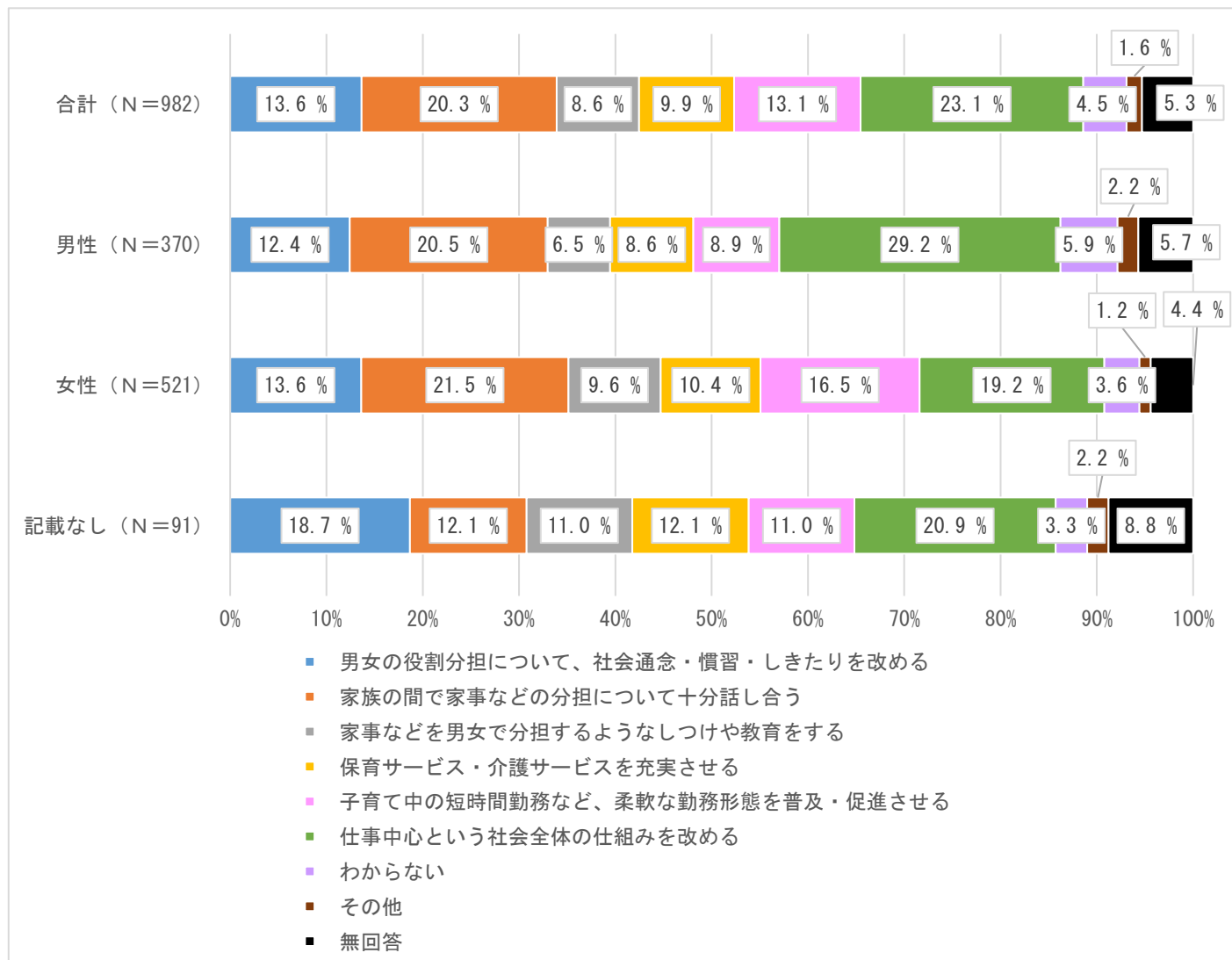
【問17】仕事と家庭を両立していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

全体でみると、男性では「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」が29.2%、女性では「家族の間に家事などの分担について十分話し合う」が21.5%となり、最も多くなった。

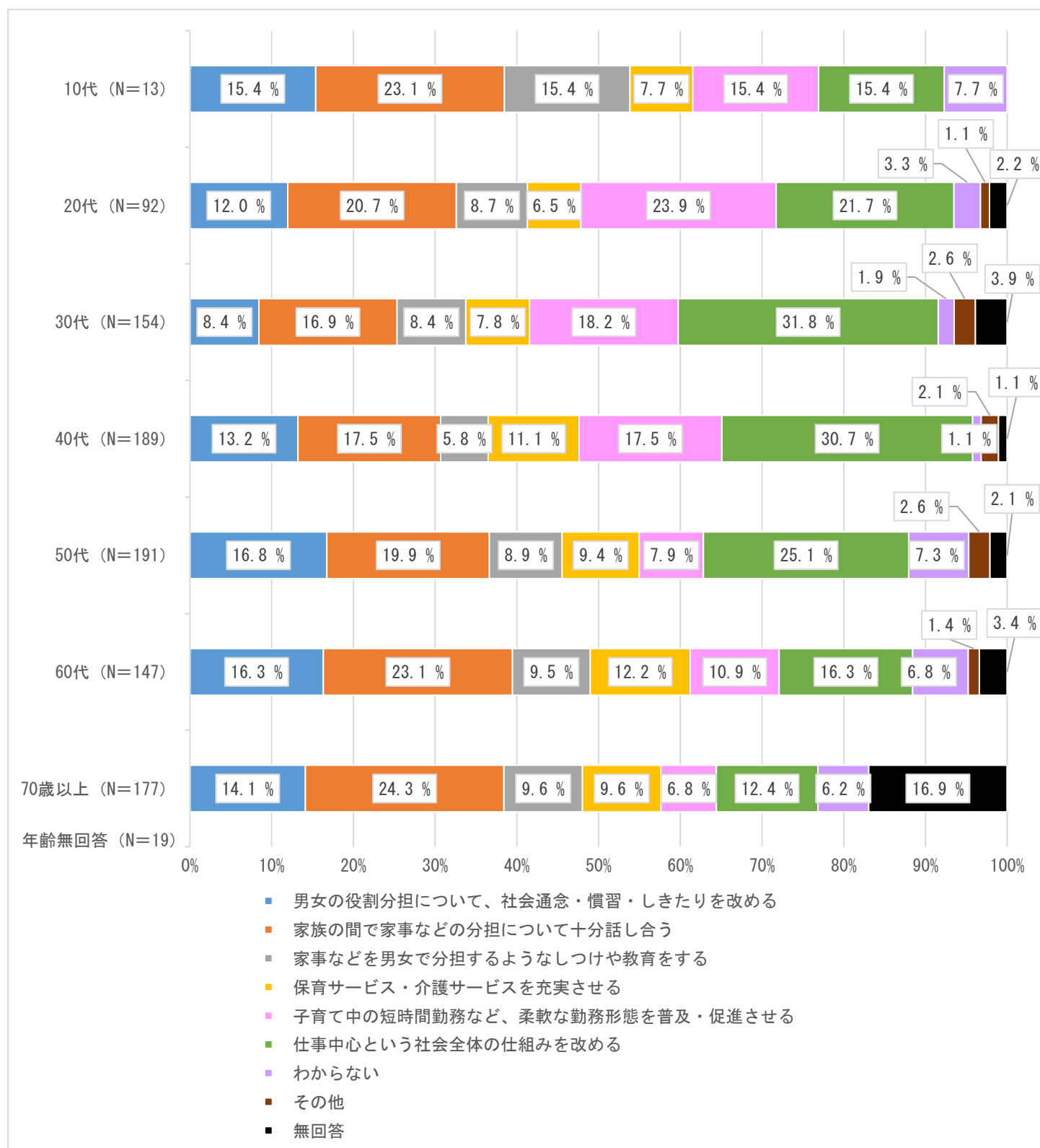
男女の意識の差では、「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」が男性で29.2%であるのに対し、女性が19.2%となり、10.0ポイントの差があった。また、「子育て中の短時間勤務など、柔軟な勤務形態を普及・促進させる」が女性で16.5%であるのに対し、男性は8.9%であり、7.6ポイントの差があった。

年代別にみると「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」が、30代から50代で最も多くなった。

【全体】

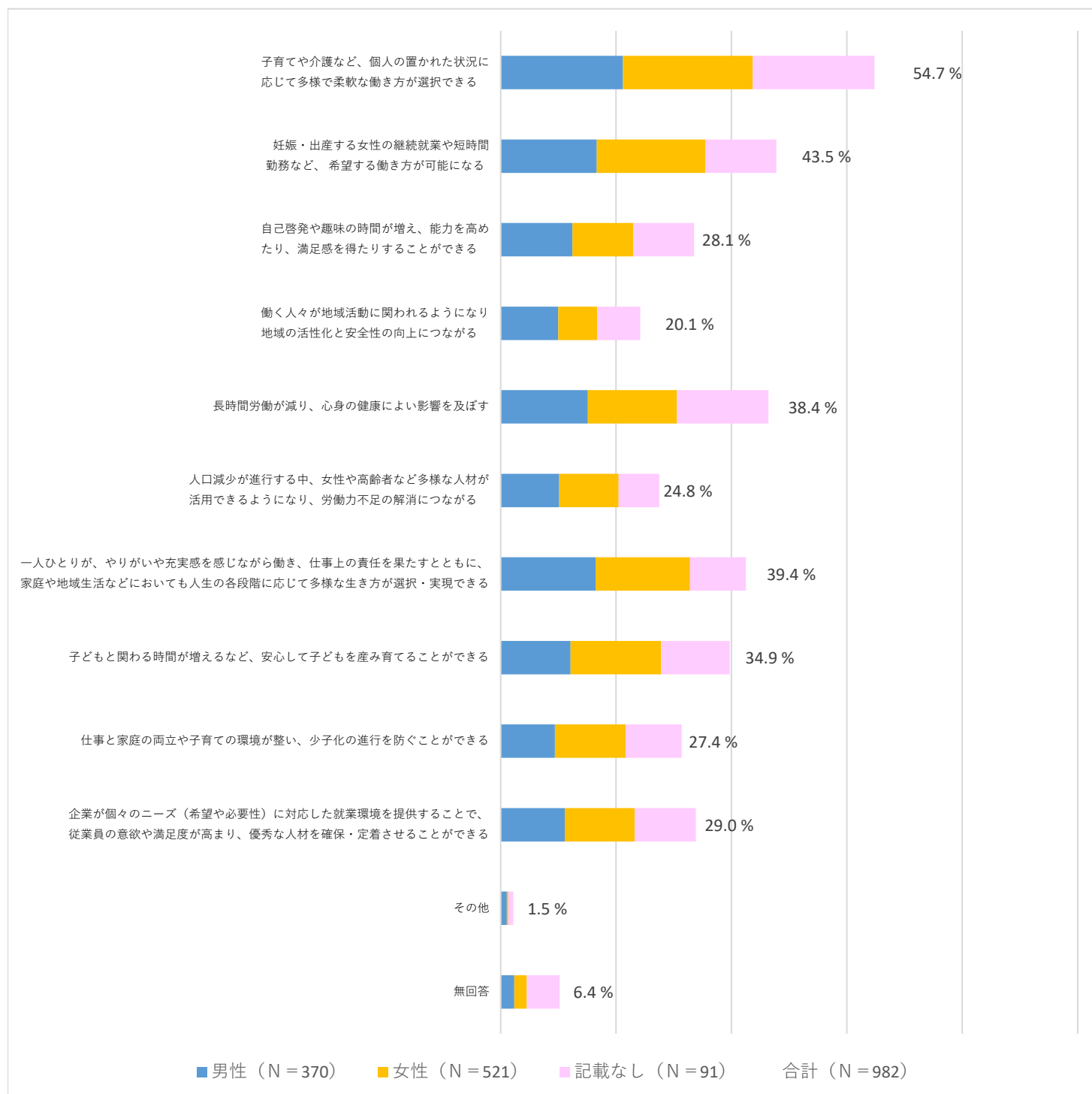


[年代別]



【問18】ワーク・ライフ・バランスの推進により、考えられる効果はどれですか。（複数回答）

全体でみると、「子育てや介護など、個人の置かれた状況に応じて多様で柔軟な働き方が選択できる」が男性では53.0%、女性では56.2%となり、最も多くなった。次いで「妊娠・出産する女性の継続就業や短時間勤務など、希望する働き方が可能になる」が男性では41.6%、女性では47.0%となった。



[全体]

	合計		男性		女性		性別記載なし	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
子育てや介護など、個人の置かれた状況に応じて多様で柔軟な働き方が選択できる	537	54.7 %	196	53.0 %	293	56.2 %	48	52.7 %
妊娠・出産する女性の継続就業や短時間勤務など、希望する働き方が可能になる	427	43.5 %	154	41.6 %	245	47.0 %	28	30.8 %
自己啓発や趣味の時間が増え、能力を高めたり、満足感を得たりすることができる	276	28.1 %	115	31.1 %	137	26.3 %	24	26.4 %
働く人々が地域活動に関われるようになり、地域の活性化と安全性の向上につながる	197	20.1 %	92	24.9 %	88	16.9 %	17	18.7 %
長時間労働が減り、心身の健康によい影響を及ぼす	377	38.4 %	140	37.8 %	201	38.6 %	36	39.6 %
人口減少が進行する中、女性や高齢者など多様な人材が活用できるようになり、労働力不足の解消につながる	244	24.8 %	94	25.4 %	134	25.7 %	16	17.6 %
一人ひとりが、やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる	387	39.4 %	152	41.1 %	213	40.9 %	22	24.2 %
子どもと関わる時間が増えるなど、安心して子どもを産み育てることができる	343	34.9 %	112	30.3 %	204	39.2 %	27	29.7 %
仕事と家庭の両立や子育ての環境が整い、少子化の進行を防ぐことができる	269	27.4 %	87	23.5 %	160	30.7 %	22	24.2 %
企業が個々のニーズ（希望や必要性）に対応した就業環境を提供することで、従業員の意欲や満足度が高まり、優秀な人材を確保・定着させることができる	285	29.0 %	103	27.8 %	158	30.3 %	24	26.4 %
その他	15	1.5 %	10	2.7 %	3	0.6 %	2	2.2 %
無回答	63	6.4 %	22	5.9 %	28	5.4 %	13	14.3 %
	3,420	—	1,277	—	1,864	—	279	—

[年代別]

	合計		10代		20代		30代	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
子育てや介護など、個人の置かれた状況に応じて多様で柔軟な働き方が選択できる	537	54.7 %	8	61.5 %	46	50.0 %	92	59.7 %
妊娠・出産する女性の継続就業や短時間勤務など、希望する働き方が可能になる	427	43.5 %	7	53.8 %	50	54.3 %	82	53.2 %
自己啓発や趣味の時間が増え、能力を高めたり、満足感を得たりすることができる	276	28.1 %	4	30.8 %	32	34.8 %	49	31.8 %
働く人々が地域活動に関われるようになり、地域の活性化と安全性の向上につながる	197	20.1 %	5	38.5 %	20	21.7 %	26	16.9 %
長時間労働が減り、心身の健康にいい影響を及ぼす	377	38.4 %	7	53.8 %	46	50.0 %	72	46.8 %
人口減少が進行する中、女性や高齢者など多様な人材が活用できるようになり、労働力不足の解消につながる	244	24.8 %	2	15.4 %	22	23.9 %	33	21.4 %
一人ひとりが、やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる	387	39.4 %	6	46.2 %	30	32.6 %	55	35.7 %
子どもと関わる時間が増えるなど、安心して子どもを産み育てることができる	343	34.9 %	6	46.2 %	38	41.3 %	70	45.5 %
仕事と家庭の両立や子育ての環境が整い、少子化の進行を防ぐことができる	269	27.4 %	4	30.8 %	28	30.4 %	58	37.7 %
企業が個々のニーズ（希望や必要性）に対応した就業環境を提供することで、従業員の意欲や満足度が高まり、優秀な人材を確保・定着させることができる	285	29.0 %	2	15.4 %	29	31.5 %	46	29.9 %
その他	15	1.5 %	0	0.0 %	1	1.1 %	1	0.6 %
無回答	63	6.4 %	1	7.7 %	2	2.2 %	3	1.9 %
	3,420	—	52	—	344	—	587	—

	40代		50代		60代		70歳以上	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
子育てや介護など、個人の置かれた状況に応じて多様で柔軟な働き方が選択できる	107	56.6 %	109	57.1 %	88	59.9 %	82	46.3 %
妊娠・出産する女性の継続就業や短時間勤務など、希望する働き方が可能になる	94	49.7 %	81	42.4 %	64	43.5 %	43	24.3 %
自己啓発や趣味の時間が増え、能力を高めたり、満足感を得たりすることができる	58	30.7 %	56	29.3 %	42	28.6 %	32	18.1 %
働く人々が地域活動に関われるようになり、地域の活性化と安全性の向上につながる	29	15.3 %	42	22.0 %	36	24.5 %	37	20.9 %
長時間労働が減り、心身の健康によい影響を及ぼす	94	49.7 %	66	34.6 %	49	33.3 %	35	19.8 %
人口減少が進行する中、女性や高齢者など多様な人材が活用できるようになり、労働力不足の解消につながる	43	22.8 %	50	26.2 %	40	27.2 %	51	28.8 %
一人ひとりが、やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる	77	40.7 %	87	45.5 %	67	45.6 %	59	33.3 %
子どもと関わる時間が増えるなど、安心して子どもを産み育てることができる	82	43.4 %	71	37.2 %	39	26.5 %	34	19.2 %
仕事と家庭の両立や子育ての環境が整い、少子化の進行を防ぐことができる	60	31.7 %	42	22.0 %	42	28.6 %	30	16.9 %
企業が個々のニーズ（希望や必要性）に対応した就業環境を提供することで、従業員の意欲や満足度が高まり、優秀な人材を確保・定着させることができる	64	33.9 %	56	29.3 %	51	34.7 %	30	16.9 %
その他	5	2.6 %	5	2.6 %	2	1.4 %	1	0.6 %
無回答	2	1.1 %	6	3.1 %	6	4.1 %	38	21.5 %
	715	—	671	—	526	—	472	—

3 人権についておたずねします（問19～問26）

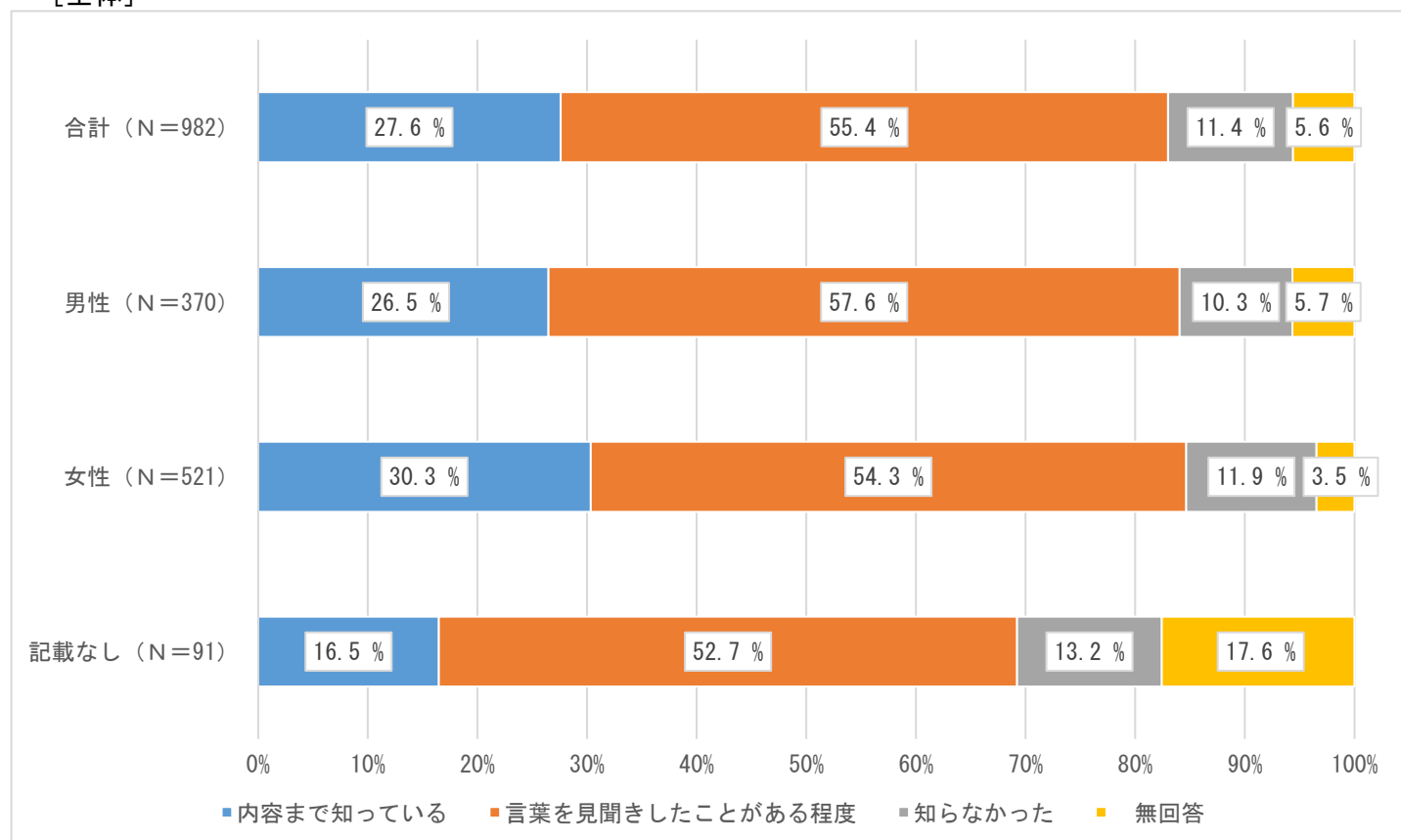
【問19】 あなたは、性的マイノリティの総称の1つとして使用されているLGBTQ+（プラス）について知っていますか。

（LGBTQ+とは、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クエスチョニング、もしくはキア、プラスの頭文字からなる言葉で性的マイノリティの総称のひとつとして使用されます。）

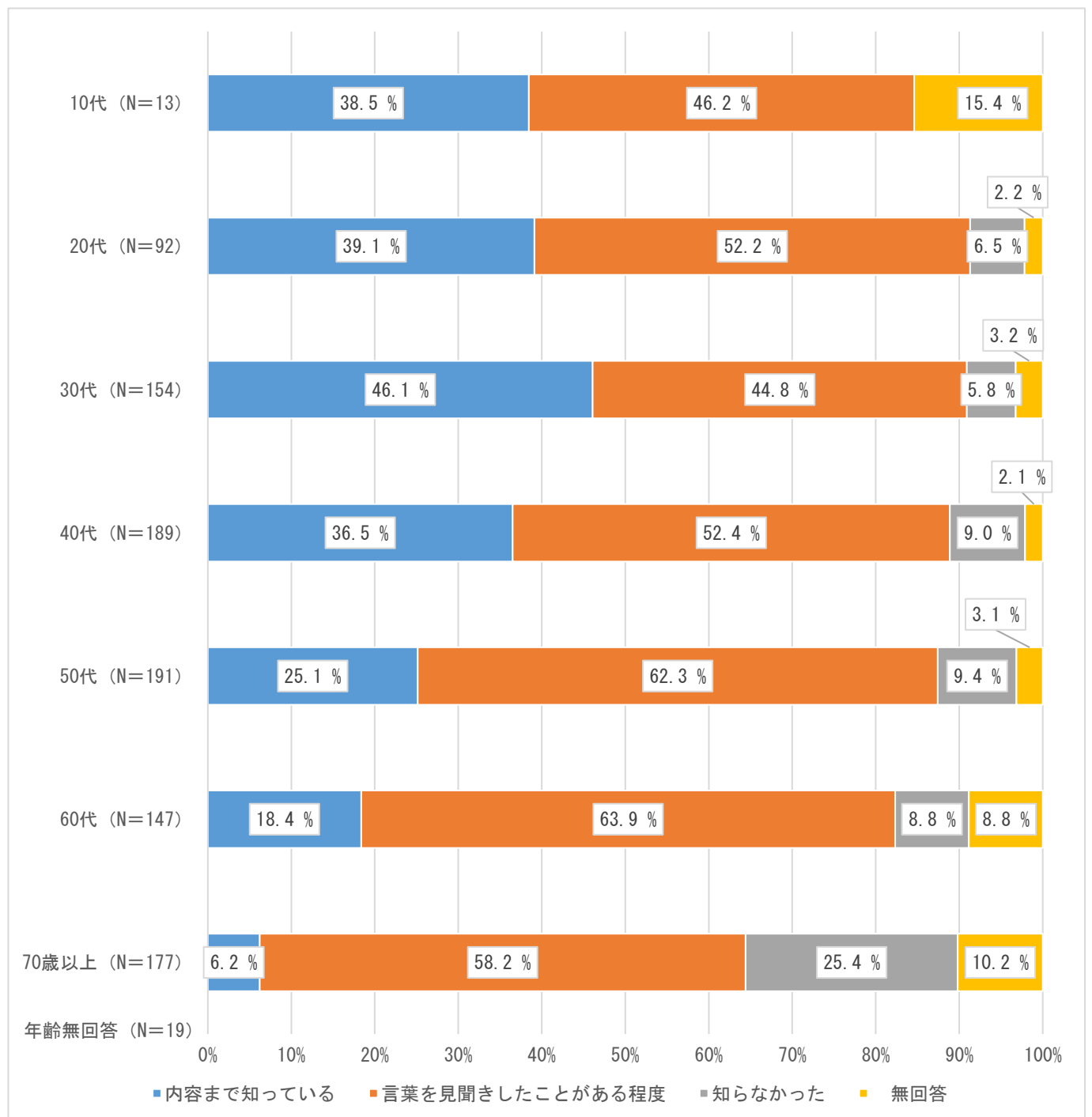
全体でみると、「言葉を見聞きしたことがある程度」が男性では57.6%、女性では54.3%となり、最も多くなった。

性別でみると、全体的に同様の傾向となったが、年代別にみると、「内容まで知っている」の割合は30代で46.1%と最も多くなり、70歳以上では6.2%と最も少なくなった。

[全体]



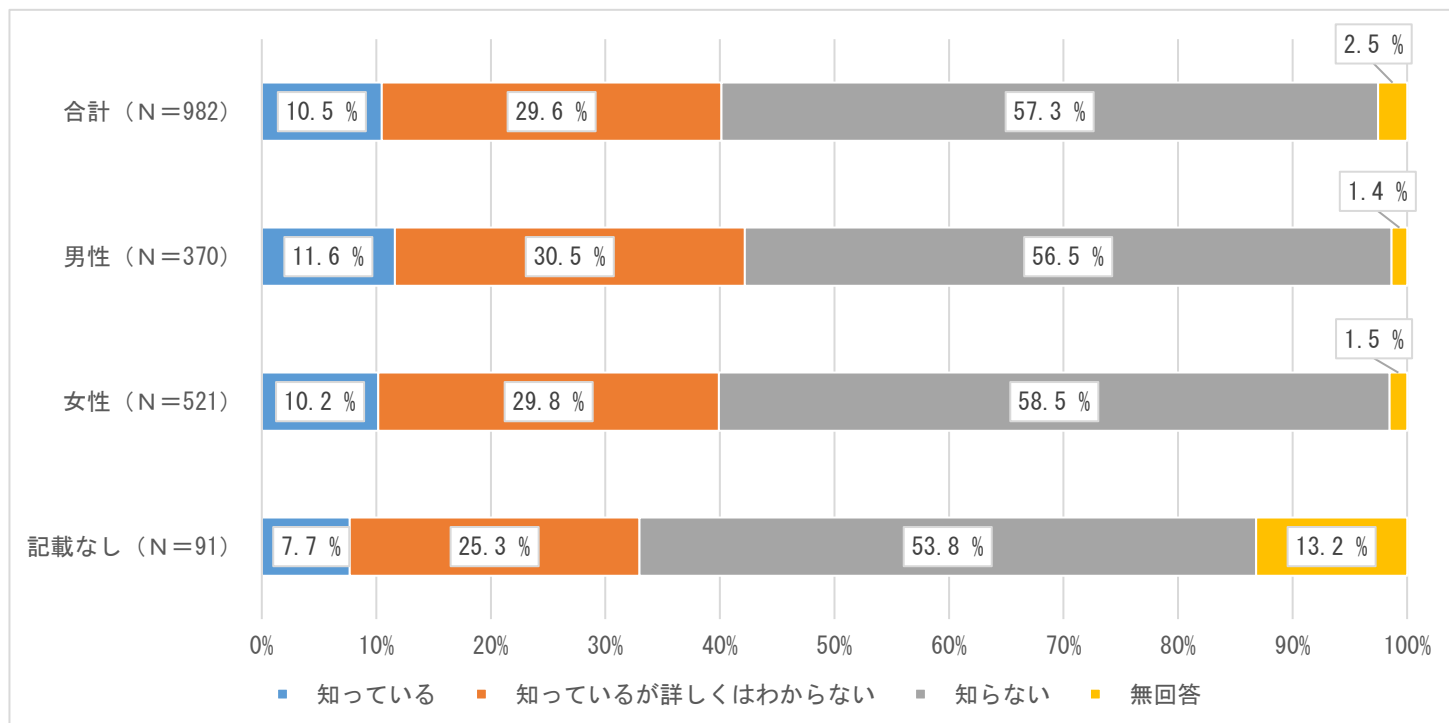
[年代別]



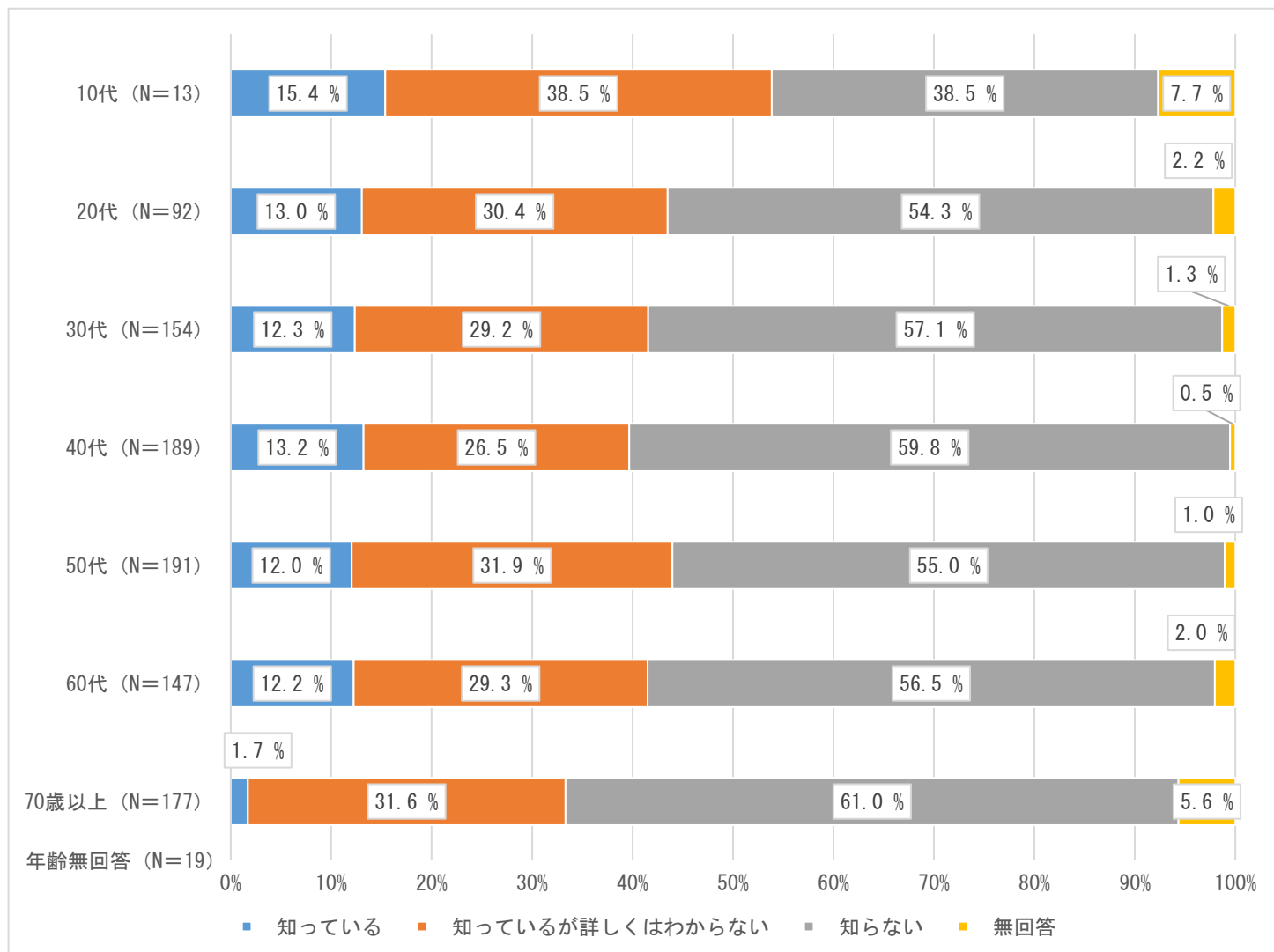
【問20】多様な性のあり方や性的マイノリティに関する相談窓口があることを知っていますか。

全体でみると、「知らない」が男性では56.5%、女性では58.5%となり、最も多くなった。
年代別にみても、「知らない」が最も多く、性別・年代別ともに同様の傾向となったが、70歳以上では「知っている」が1.7%と特に少なかった。

[全体]

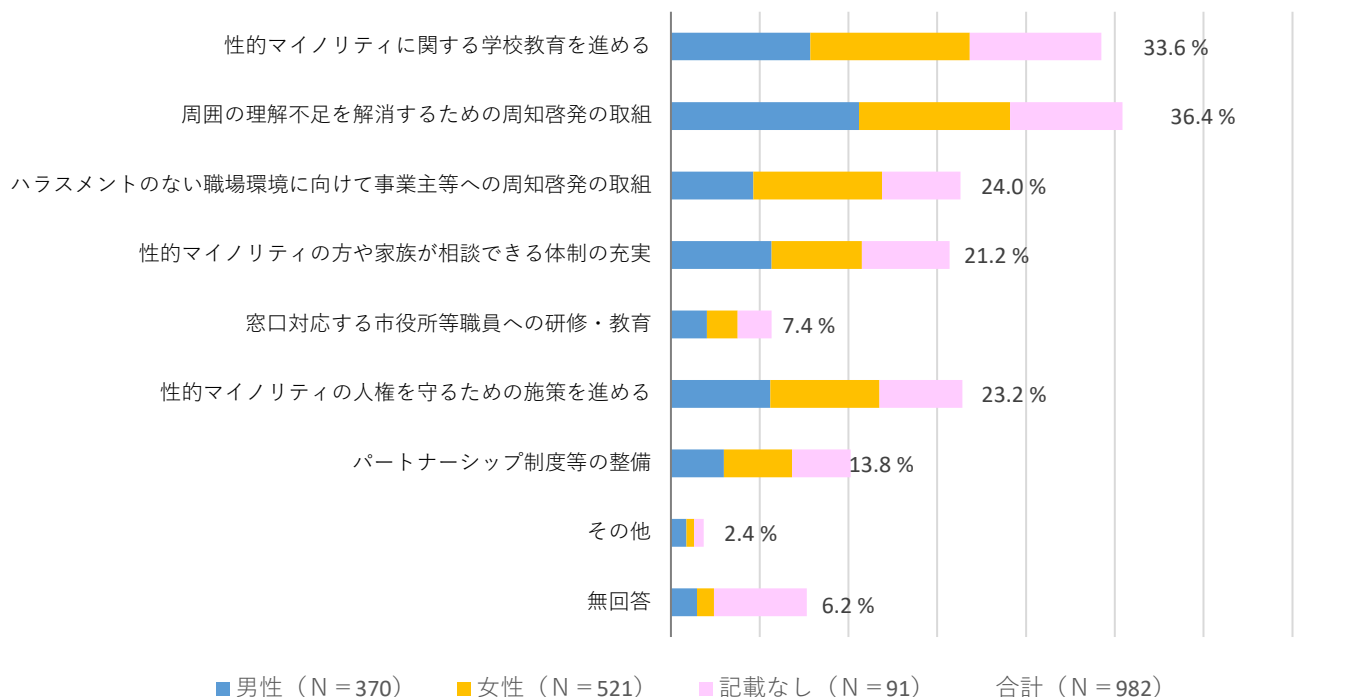


[年代別]



【問21】 性的マイノリティの方を支援していくためにどのようなことが必要だと思いますか。
(複数回答)

全体でみると、「周囲の理解不足を解消するための周知啓発の取組」が36.4%と最も多く、次いで「性的マイノリティに関する学校教育を進める」が33.6%となった。



[全体]

	合計		男性		女性		性別記載なし	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
性的マイノリティに関する学校教育を進める	330	33.6 %	116	31.4 %	187	35.9 %	27	29.7 %
周囲の理解不足を解消するための周知啓発の取組	357	36.4 %	157	42.4 %	177	34.0 %	23	25.3 %
ハラスメントのない職場環境に向けて事業主等への周知啓発の取組	236	24.0 %	69	18.6 %	151	29.0 %	16	17.6 %
性的マイノリティの方や家族が相談できる体制の充実	208	21.2 %	84	22.7 %	106	20.3 %	18	19.8 %
窓口対応する市役所等職員への研修・教育	73	7.4 %	30	8.1 %	36	6.9 %	7	7.7 %
性的マイノリティの人権を守るための施策を進める	228	23.2 %	83	22.4 %	128	24.6 %	17	18.7 %
パートナーシップ制度等の整備	136	13.8 %	44	11.9 %	80	15.4 %	12	13.2 %
その他	24	2.4 %	13	3.5 %	9	1.7 %	2	2.2 %
無回答	61	6.2 %	22	5.9 %	20	3.8 %	19	20.9 %
	1,653	—	618	—	894	—	141	—

[年代別]

	合計		10代		20代		30代	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
性的マイノリティに関する学校教育を進める	330	33.6 %	7	53.8 %	34	37.0 %	60	39.0 %
周囲の理解不足を解消するための周知啓発の取組	357	36.4 %	2	15.4 %	33	35.9 %	50	32.5 %
ハラスメントのない職場環境に向けて事業主等への周知啓発の取組	236	24.0 %	6	46.2 %	26	28.3 %	34	22.1 %
性的マイノリティの方や家族が相談できる体制の充実	208	21.2 %	0	0.0 %	19	20.7 %	32	20.8 %
窓口対応する市役所等職員への研修・教育	73	7.4 %	1	7.7 %	9	9.8 %	6	3.9 %
性的マイノリティの人権を守るための施策を進める	228	23.2 %	1	7.7 %	11	12.0 %	27	17.5 %
パートナーシップ制度等の整備	136	13.8 %	5	38.5 %	15	16.3 %	39	25.3 %
その他	24	2.4 %	0	0.0 %	2	2.2 %	5	3.2 %
無回答	61	6.2 %	1	7.7 %	3	3.3 %	4	2.6 %
	1,653	—	23	—	152	—	257	—
	40代		50代		60代		70歳以上	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
性的マイノリティに関する学校教育を進める	60	31.7 %	67	35.1 %	51	34.7 %	46	26.0 %
周囲の理解不足を解消するための周知啓発の取組	75	39.7 %	76	39.8 %	56	38.1 %	60	33.9 %
ハラスメントのない職場環境に向けて事業主等への周知啓発の取組	53	28.0 %	46	24.1 %	32	21.8 %	37	20.9 %
性的マイノリティの方や家族が相談できる体制の充実	37	19.6 %	47	24.6 %	37	25.2 %	33	18.6 %
窓口対応する市役所等職員への研修・教育	11	5.8 %	10	5.2 %	14	9.5 %	20	11.3 %
性的マイノリティの人権を守るための施策を進める	51	27.0 %	55	28.8 %	44	29.9 %	36	20.3 %
パートナーシップ制度等の整備	37	19.6 %	20	10.5 %	8	5.4 %	10	5.6 %
その他	7	3.7 %	6	3.1 %	3	2.0 %	1	0.6 %
無回答	1	0.5 %	6	3.1 %	5	3.4 %	34	19.2 %
	332	—	333	—	250	—	277	—

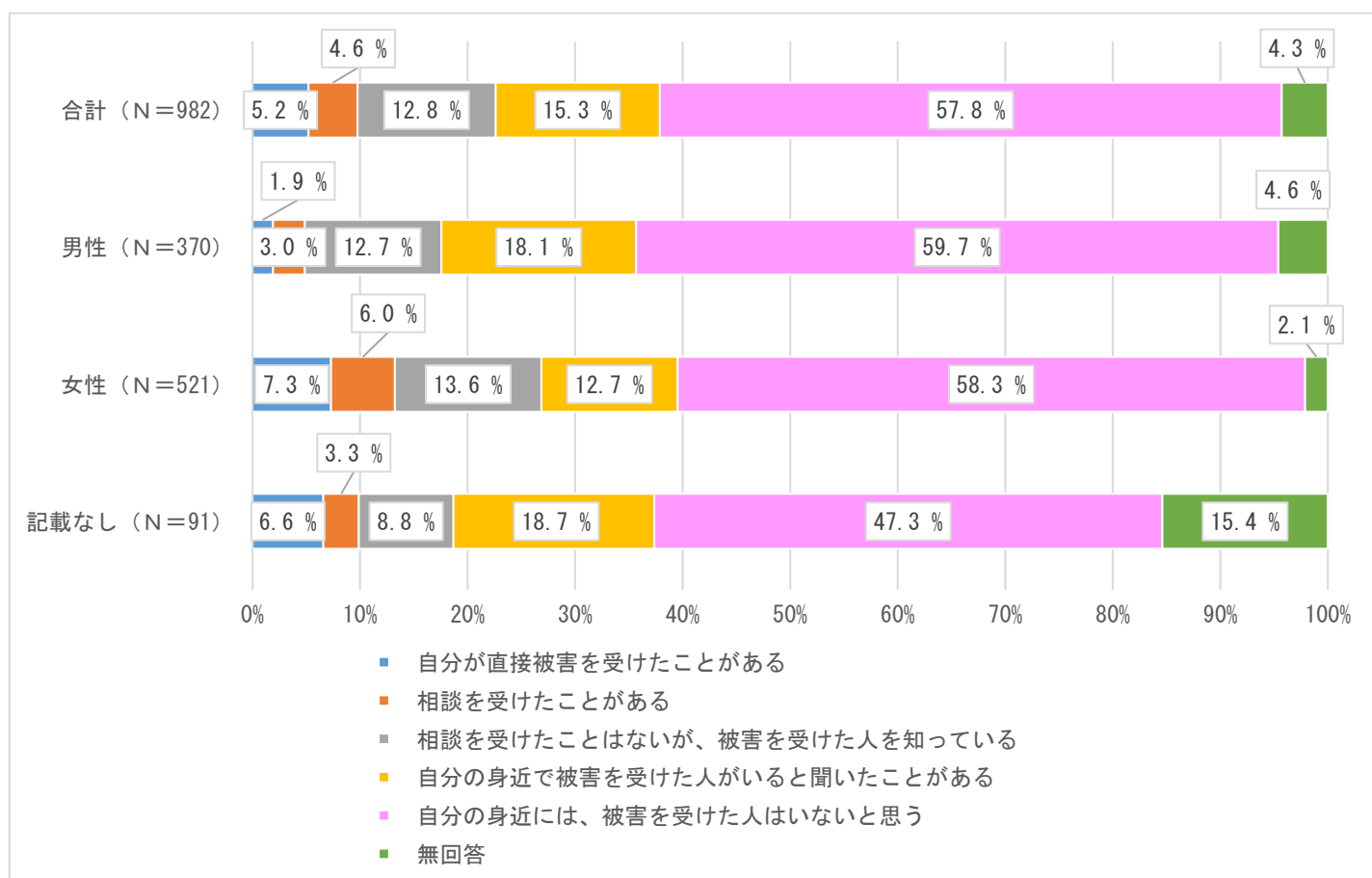
【問22】DV(ドメスティック・バイオレンス)の被害を受けたり、身近で見聞きしたことがありますか。
(DVとは、配偶者や恋人など、親密な関係にあるパートナーから受ける身体的・精神的・経済的・性的暴力で、個人の尊厳を害するばかりでなく犯罪となる行為です。)

全体でみると、「自分の身近には、被害を受けた人はいないと思う」が男性では59.7%、女性では58.3%となり、最も多くなった。

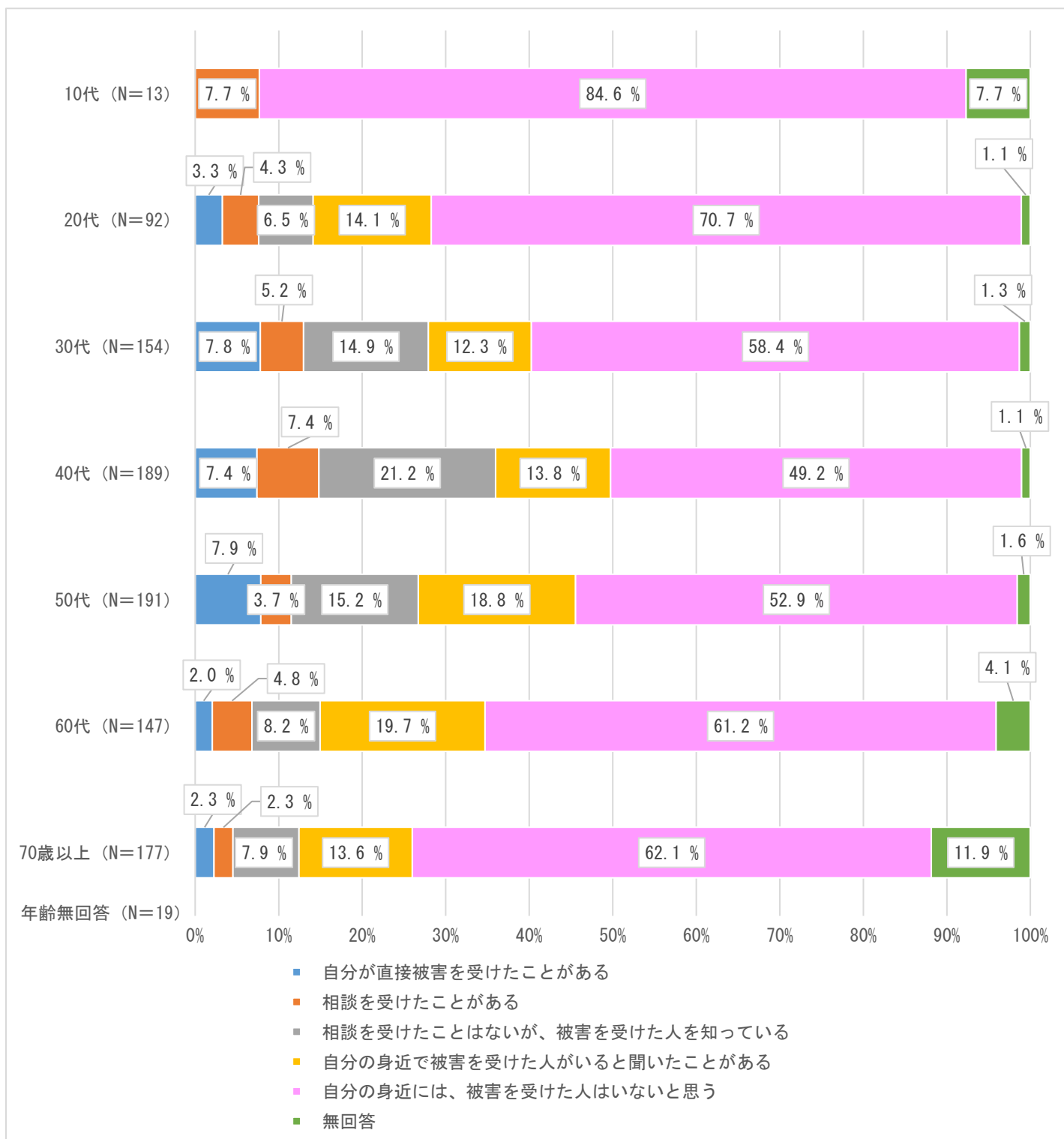
男女の意識の差では、「自分が直接被害を受けたことがある」で女性で7.3%であるのに対し、男性が1.9%となり、5.4ポイントの差があった。

年代別にみると、「自分が直接被害を受けたことがある」が50代で7.9%となり、最も多くなった。

[全体]



[年代別]



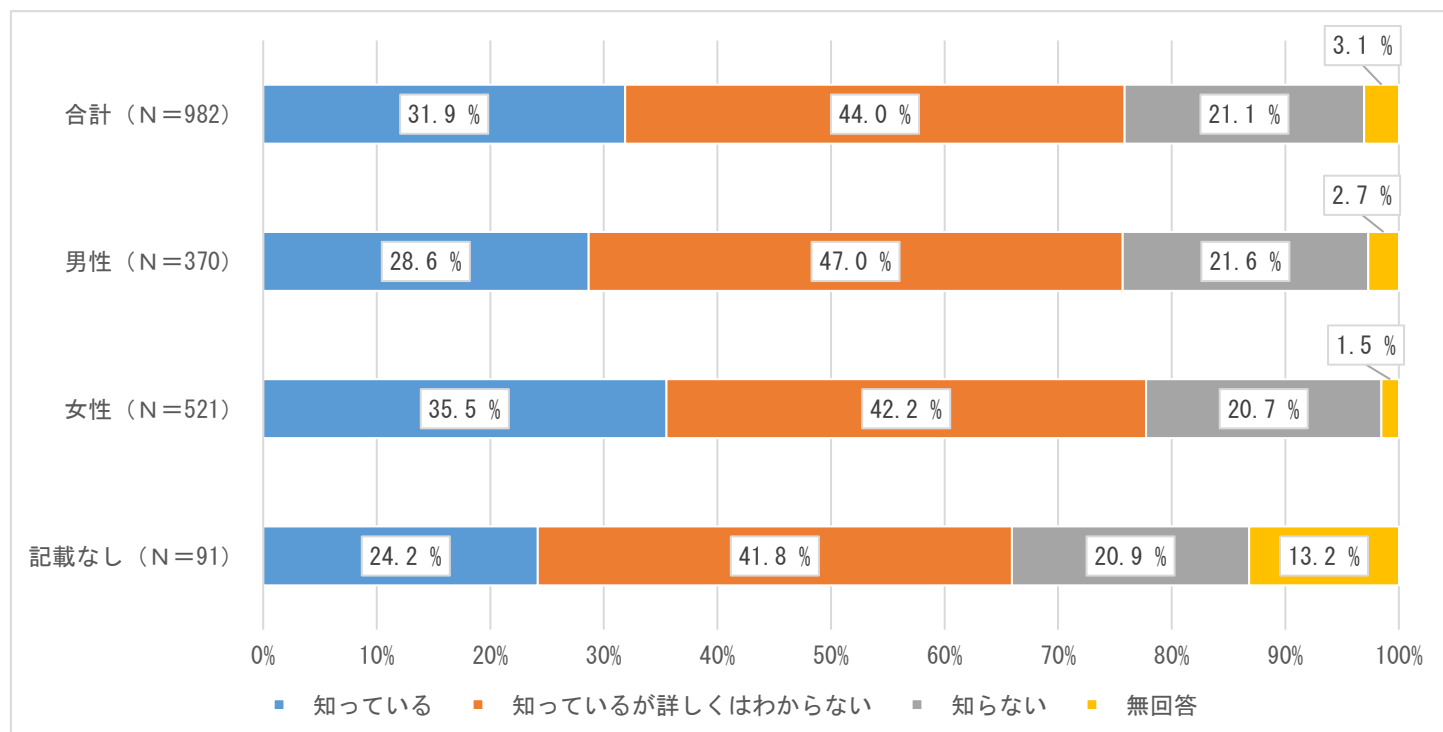
【問23】DV相談の窓口が、国、県、市、警察にそれぞれあることを知っていますか。

全体でみると、「知っているが詳しくはわからない」が男性では47.0%、女性では42.2%となり、最も多くなった。

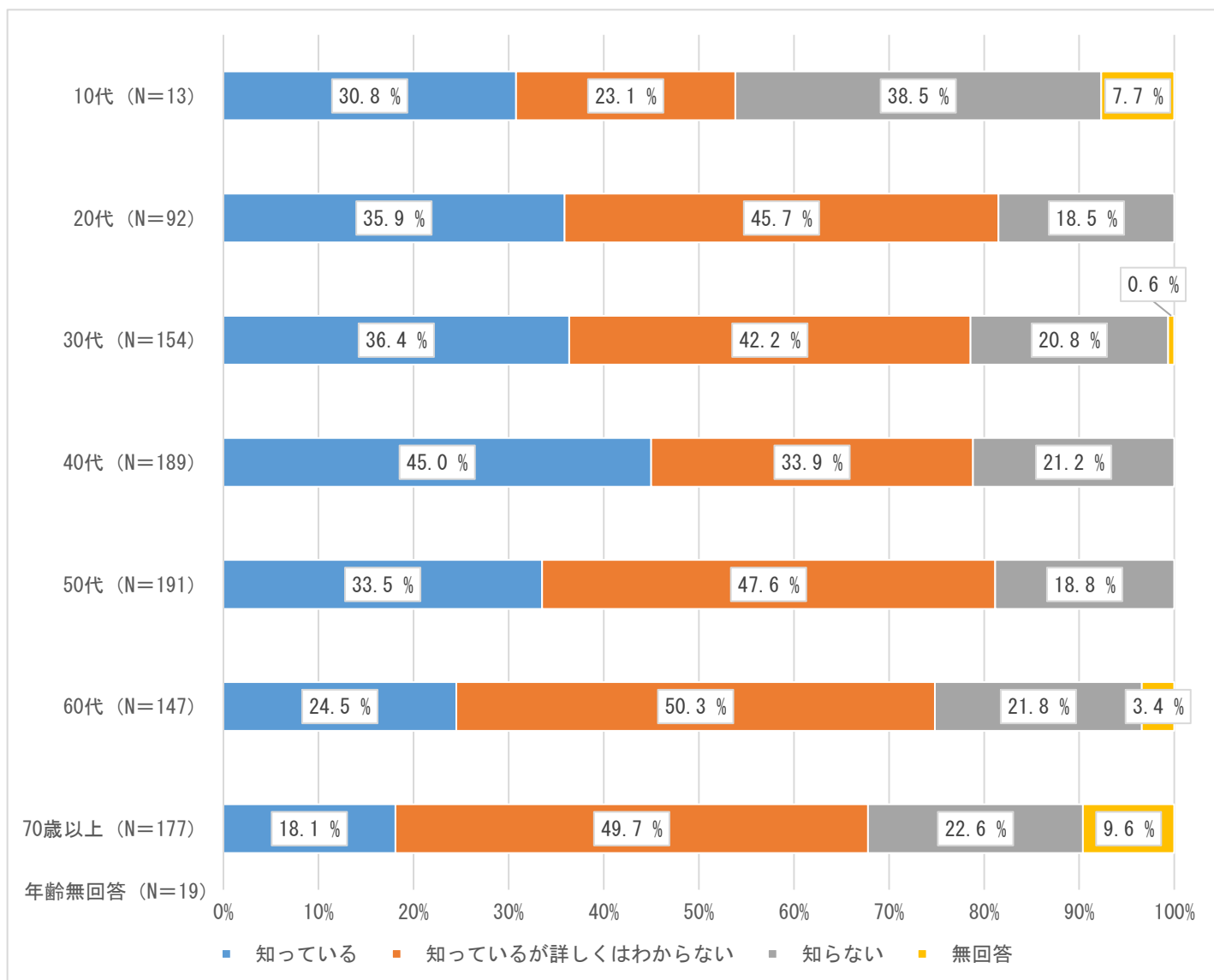
「知っている」「知っているが詳しくはわからない」は、前回調査と比較して、男性が5.0ポイント増、女性が2.4ポイント増となり、「知らない」は男性が6.2ポイント減、女性が2.6ポイント減となった。

年代別にみると、「知っている」が40代で45.0%となり、最も多くなった。

【全体】



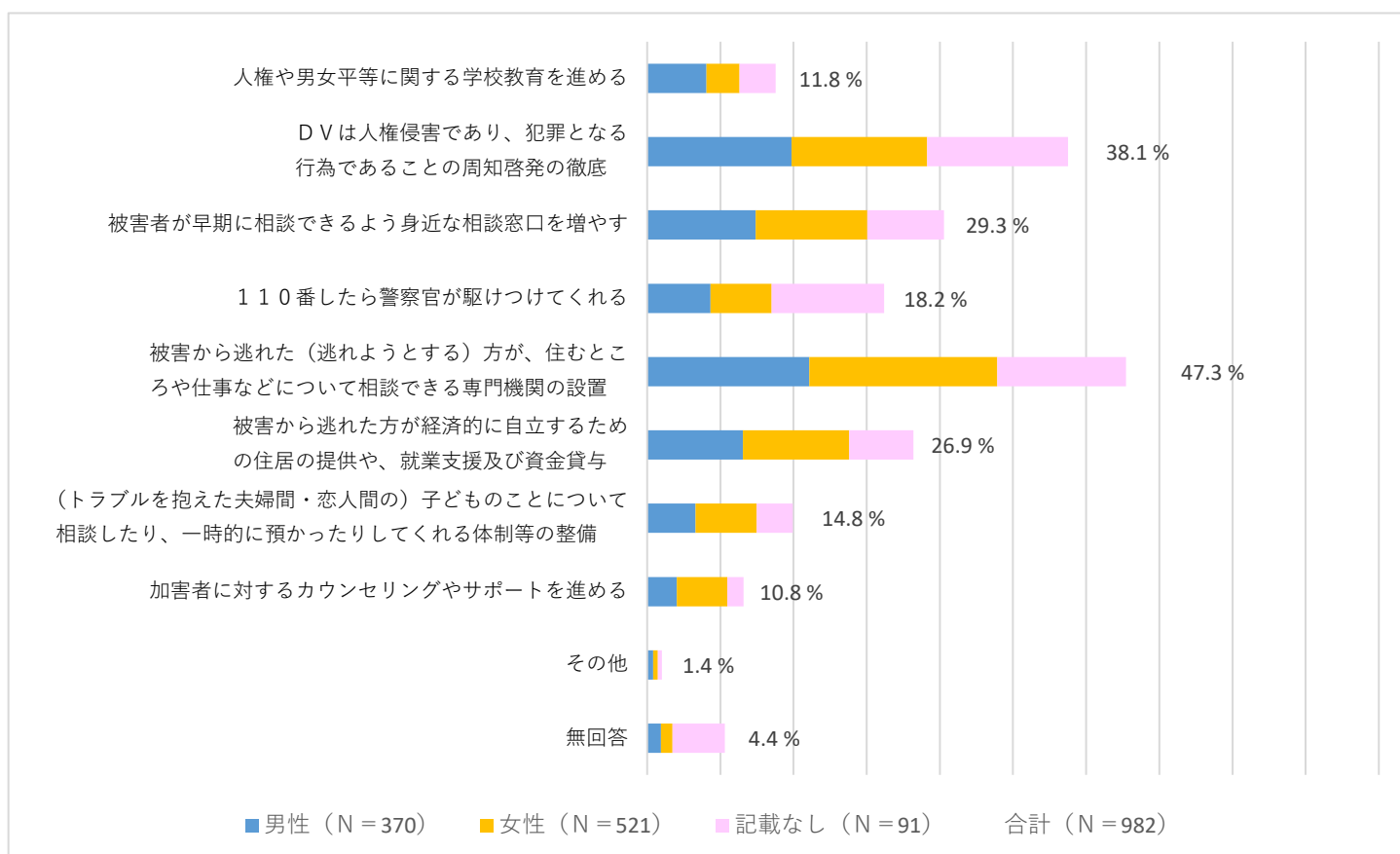
[年代別]



【問24】DVを防ぎ、被害を受けた方を支援していくためにどのようなことが必要だと思いますか。
(複数回答)

全体でみると、「被害から逃れた（逃れようとする）方が、住むところや仕事などについて相談できる専門機関の設置」が男性では44.3%、女性では51.4%となり、最も多くなった。

次いで「DVは人権侵害であり、犯罪となる行為であることの周知啓発の徹底」が男性では39.5%、女性では37.0%となった。



[全体]

	合計		男性		女性		性別記載なし	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
人権や男女平等に関する学校教育を進める	116	11.8 %	60	16.2 %	47	9.0 %	9	9.9 %
DVは人権侵害であり、犯罪となる行為であることの周知啓発の徹底	374	38.1 %	146	39.5 %	193	37.0 %	35	38.5 %
被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やす	288	29.3 %	110	29.7 %	159	30.5 %	19	20.9 %
110番したら警察官が駆けつけてくれる	179	18.2 %	64	17.3 %	87	16.7 %	28	30.8 %
被害から逃れた（逃れようとする）方が、住むところや仕事などについて相談できる専門機関の設置	464	47.3 %	164	44.3 %	268	51.4 %	32	35.2 %
被害から逃れた方が経済的に自立するための住居の提供や、就業支援及び資金貸与	264	26.9 %	97	26.2 %	151	29.0 %	16	17.6 %
（トラブルを抱えた夫婦間・恋人間の）子どものことについて相談したり、一時的に預かったりしてくれる体制等の整備	145	14.8 %	49	13.2 %	87	16.7 %	9	9.9 %
加害者に対するカウンセリングやサポートを進める	106	10.8 %	30	8.1 %	72	13.8 %	4	4.4 %
その他	14	1.4 %	6	1.6 %	7	1.3 %	1	1.1 %
無回答	43	4.4 %	14	3.8 %	16	3.1 %	13	14.3 %
	1,993	—	740	—	1,087	—	166	—

[年代別]

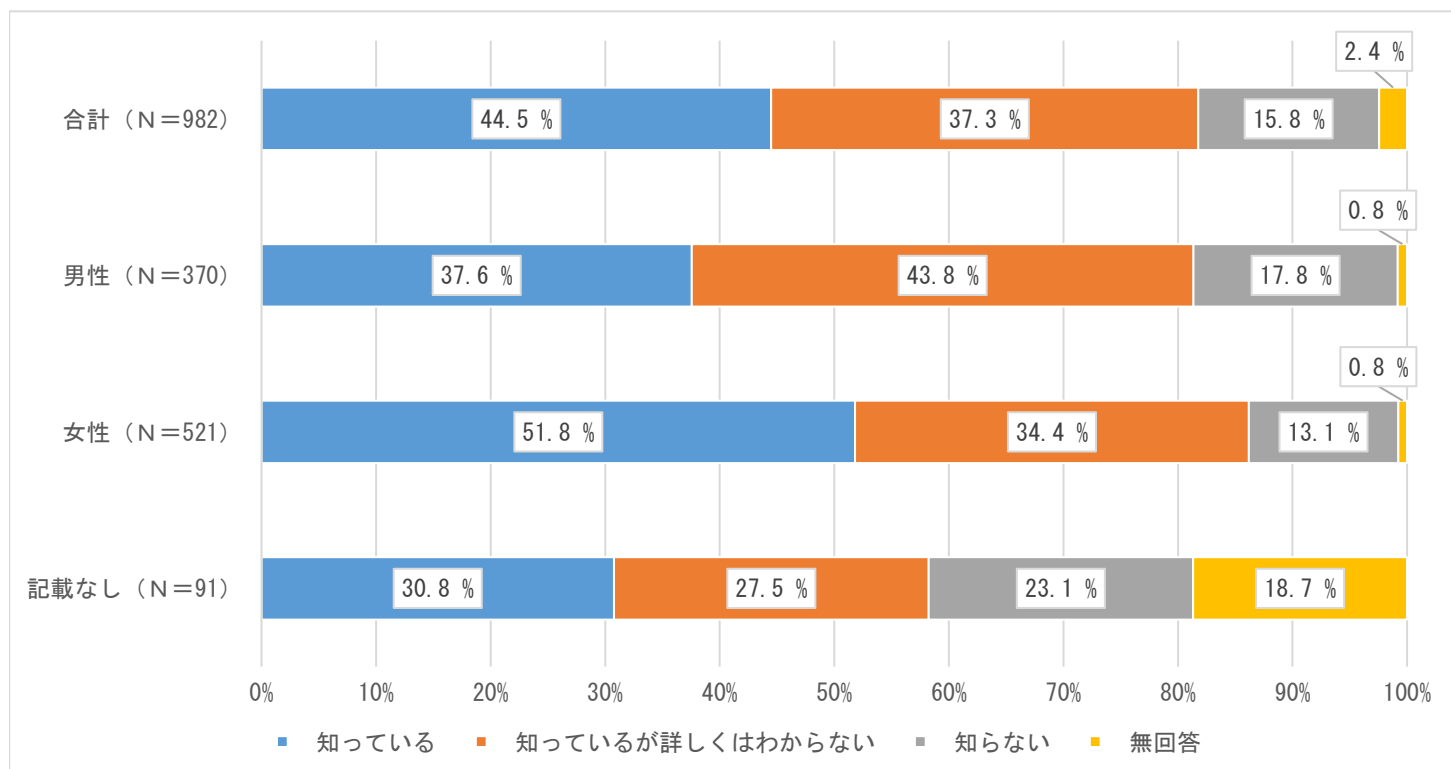
	合計		10代		20代		30代	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
人権や男女平等に関する学校教育を進める	116	11.8 %	0	0.0 %	14	15.2 %	14	9.1 %
DVは人権侵害であり、犯罪となる行為であることの周知啓発の徹底	374	38.1 %	8	61.5 %	32	34.8 %	49	31.8 %
被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やす	288	29.3 %	4	30.8 %	27	29.3 %	43	27.9 %
110番したら警察官が駆けつけてくれる	179	18.2 %	3	23.1 %	22	23.9 %	40	26.0 %
被害から逃れた（逃れようとする）方が、住むところや仕事などについて相談できる専門機関の設置	464	47.3 %	4	30.8 %	39	42.4 %	81	52.6 %
被害から逃れた方が経済的に自立するための住居の提供や、就業支援及び資金貸与	264	26.9 %	2	15.4 %	24	26.1 %	47	30.5 %
（トラブルを抱えた夫婦間・恋人間の）子どものことについて相談したり、一時的に預かったりしてくれる体制等の整備	145	14.8 %	1	7.7 %	14	15.2 %	29	18.8 %
加害者に対するカウンセリングやサポートを進める	106	10.8 %	1	7.7 %	8	8.7 %	16	10.4 %
その他	14	1.4 %	1	7.7 %	3	3.3 %	3	1.9 %
無回答	43	4.4 %	1	7.7 %	1	1.1 %	2	1.3 %
	1,993	—	25	—	184	—	400	—

	40代		50代		60代		70歳以上	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
人権や男女平等に関する学校教育を進める	13	6.9 %	25	13.1 %	23	15.6 %	26	14.7 %
DVは人権侵害であり、犯罪となる行為であることの周知啓発の徹底	73	38.6 %	78	40.8 %	60	40.8 %	67	37.9 %
被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やす	55	29.1 %	46	24.1 %	53	36.1 %	57	32.2 %
110番したら警察官が駆けつけてくれる	42	22.2 %	36	18.8 %	13	8.8 %	22	12.4 %
被害から逃れた（逃れようとする）方が、住むところや仕事などについて相談できる専門機関の設置	101	53.4 %	99	51.8 %	69	46.9 %	65	36.7 %
被害から逃れた方が経済的に自立するための住居の提供や、就業支援及び資金貸与	62	32.8 %	58	30.4 %	37	25.2 %	32	18.1 %
（トラブルを抱えた夫婦間・恋人間の）子どものことについて相談したり、一時的に預かったりしてくれる体制等の整備	29	15.3 %	26	13.6 %	21	14.3 %	24	13.6 %
加害者に対するカウンセリングやサポートを進める	18	9.5 %	22	11.5 %	19	12.9 %	20	11.3 %
その他	5	2.6 %	2	1.0 %	0	0.0 %	0	0.0 %
無回答	2	1.1 %	3	1.6 %	6	4.1 %	21	11.9 %
	400	—	395	—	301	—	334	—

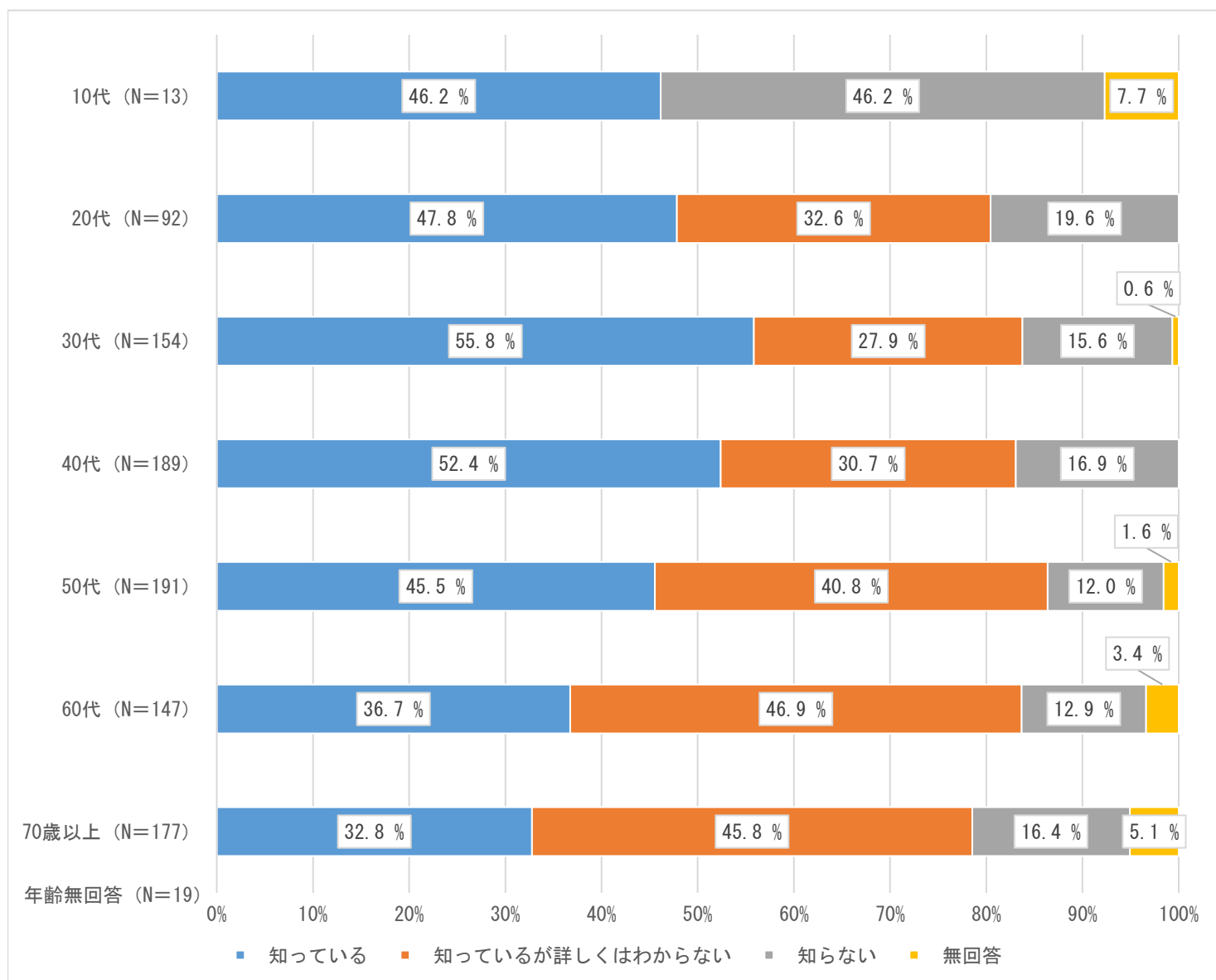
【問25】 児童虐待を受けたと思われる児童を発見した場合、それを児童相談所、または福祉事務所に
 通告する義務があることを知っていますか。

全体でみると、男性では「知っているが詳しくはわからない」が43.8%、女性では「知っている」が51.8%となり、最も多くなった。
 男女の意識の差では、「知っている」が女性が51.8%であるのに対して、男性が37.6%となり、14.2ポイントの差があった。
 年代別にみると、「知っている」が30代で55.8%となり、最も多くなった。

[全体]



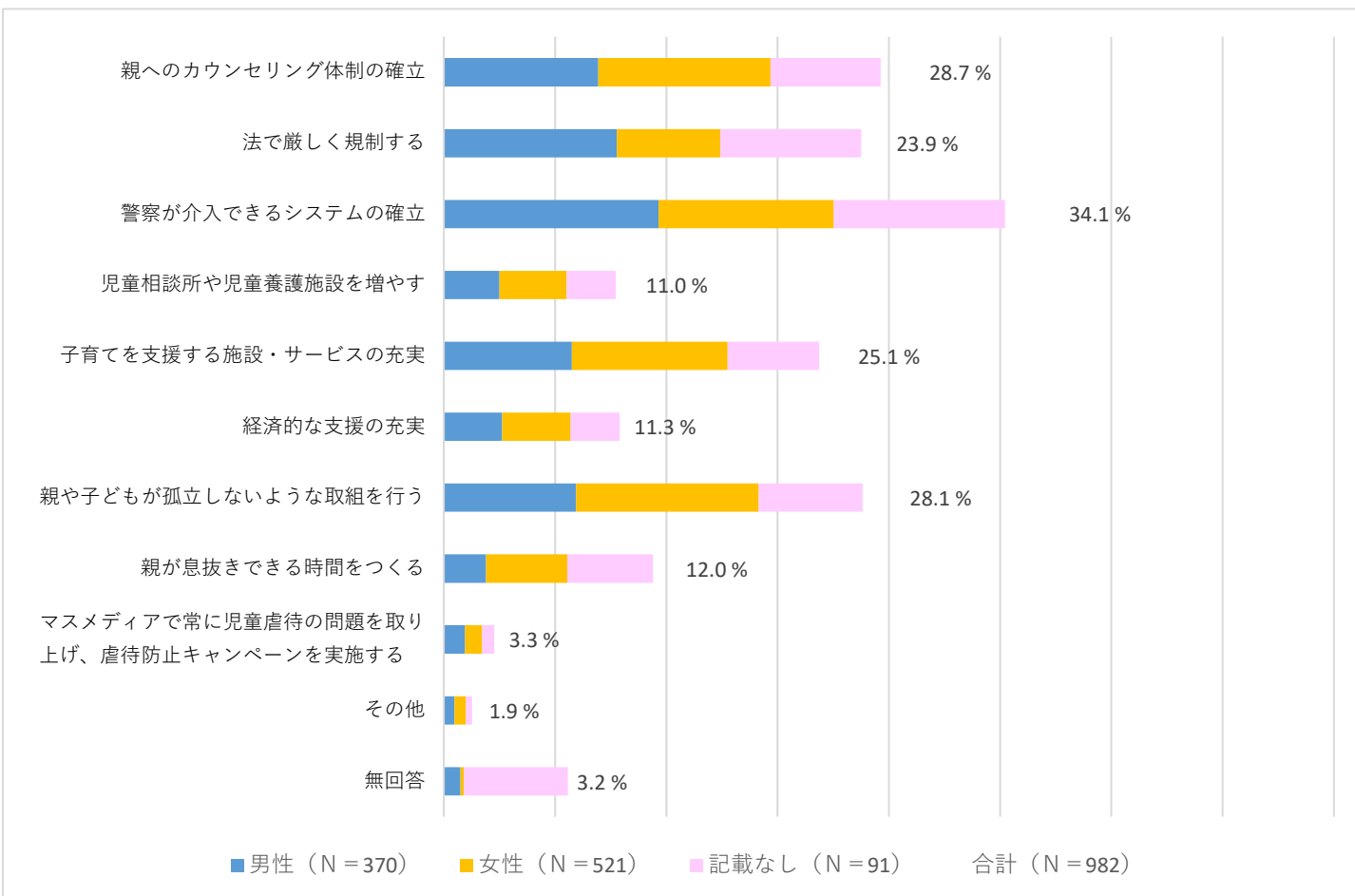
[年代別]



【問26】 児童虐待をなくすためにどのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

全体でみると、男性では「警察が介入できるシステムの確立」が38.6%、女性では「親や子どもが孤立しないような取組を行う」が32.8%となり、最も多くなった。

年代別にみると、「警察が介入できるシステムの確立」が30代で40.9%と最も多くなり、30代から50代では40%を超えた。



[全体]

	合計		男性		女性		性別記載なし	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
親へのカウンセリング体制の確立	282	28.7 %	103	27.8 %	161	30.9 %	18	19.8 %
法で厳しく規制する	235	23.9 %	115	31.1 %	97	18.6 %	23	25.3 %
警察が介入できるシステムの確立	335	34.1 %	143	38.6 %	164	31.5 %	28	30.8 %
児童相談所や児童養護施設を増やす	108	11.0 %	37	10.0 %	63	12.1 %	8	8.8 %
子育てを支援する施設・サービスの充実	246	25.1 %	85	23.0 %	146	28.0 %	15	16.5 %
経済的な支援の充実	111	11.3 %	39	10.5 %	64	12.3 %	8	8.8 %
親や子どもが孤立しないような取組を行う	276	28.1 %	88	23.8 %	171	32.8 %	17	18.7 %
親が息抜きできる時間をつくる	118	12.0 %	28	7.6 %	76	14.6 %	14	15.4 %
マスメディアで常に児童虐待の問題を取り上げ、虐待防止キャンペーンを実施する	32	3.3 %	14	3.8 %	16	3.1 %	2	2.2 %
その他	19	1.9 %	7	1.9 %	11	2.1 %	1	1.1 %
無回答	31	3.2 %	11	3.0 %	3	0.6 %	17	18.7 %
	1,793	—	670	—	972	—	151	—

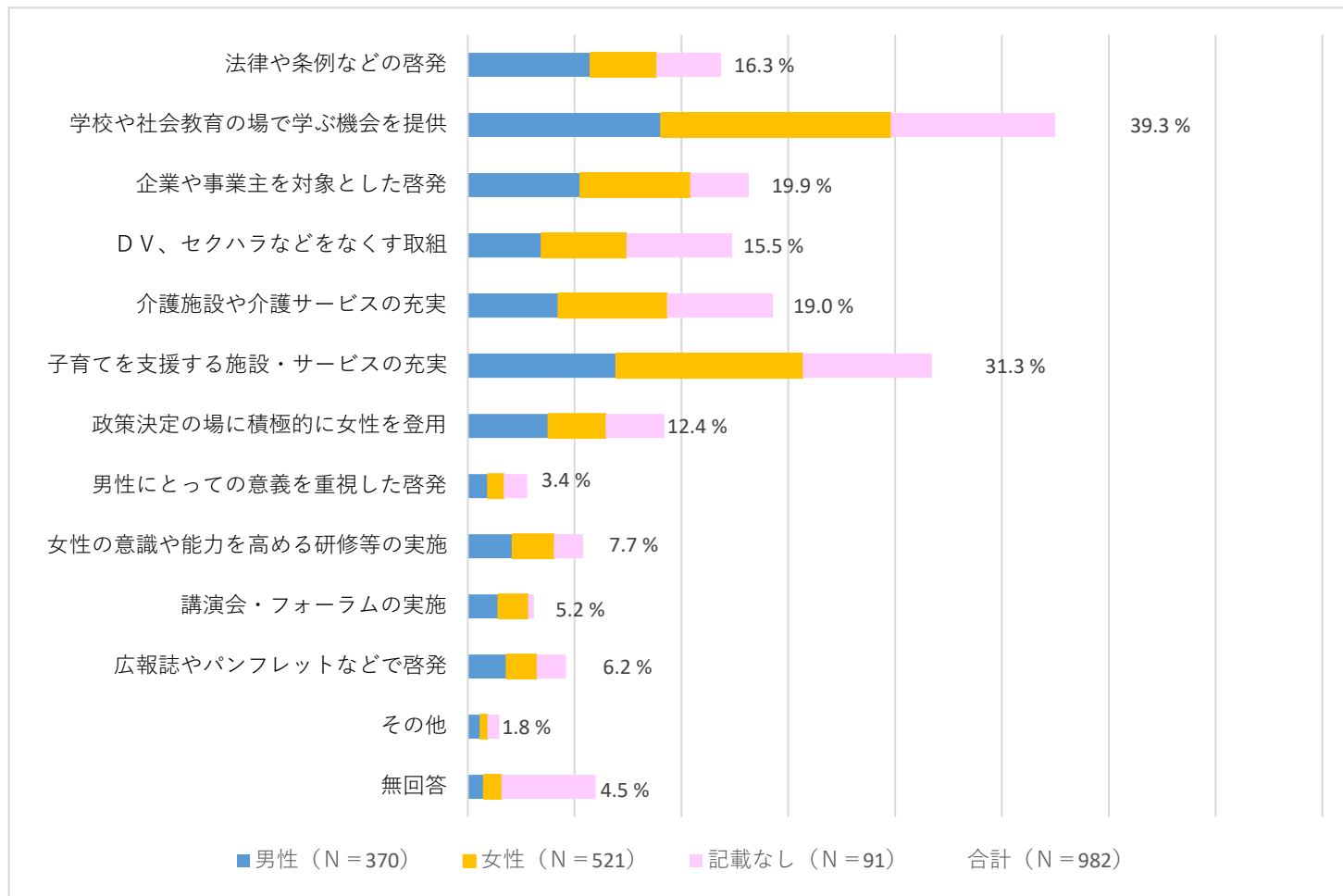
[年代別]

	合計		10代		20代		30代	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
親へのカウンセリング体制の確立	282	28.7 %	1	7.7 %	12	13.0 %	34	22.1 %
法で厳しく規制する	235	23.9 %	3	23.1 %	19	20.7 %	43	27.9 %
警察が介入できるシステムの確立	335	34.1 %	3	23.1 %	27	29.3 %	63	40.9 %
児童相談所や児童養護施設を増やす	108	11.0 %	1	7.7 %	13	14.1 %	8	5.2 %
子育てを支援する施設・サービスの充実	246	25.1 %	4	30.8 %	28	30.4 %	40	26.0 %
経済的な支援の充実	111	11.3 %	3	23.1 %	25	27.2 %	24	15.6 %
親や子どもが孤立しないような取組を行う	276	28.1 %	3	23.1 %	25	27.2 %	43	27.9 %
親が息抜きできる時間をつくる	118	12.0 %	3	23.1 %	15	16.3 %	30	19.5 %
マスメディアで常に児童虐待の問題を取り上げ、虐待防止キャンペーンを実施する	32	3.3 %	1	7.7 %	1	1.1 %	0	0.0 %
その他	19	1.9 %	0	0.0 %	1	1.1 %	5	3.2 %
無回答	31	3.2 %	1	7.7 %	1	1.1 %	2	1.3 %
	1,793	—	23	—	167	—	292	—
	40代		50代		60代		70歳以上	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
親へのカウンセリング体制の確立	52	27.5 %	71	37.2 %	45	30.6 %	61	34.5 %
法で厳しく規制する	50	26.5 %	51	26.7 %	39	26.5 %	28	15.8 %
警察が介入できるシステムの確立	77	40.7 %	77	40.3 %	41	27.9 %	42	23.7 %
児童相談所や児童養護施設を増やす	16	8.5 %	21	11.0 %	16	10.9 %	33	18.6 %
子育てを支援する施設・サービスの充実	37	19.6 %	36	18.8 %	44	29.9 %	55	31.1 %
経済的な支援の充実	20	10.6 %	18	9.4 %	14	9.5 %	7	4.0 %
親や子どもが孤立しないような取組を行う	62	32.8 %	46	24.1 %	42	28.6 %	50	28.2 %
親が息抜きできる時間をつくる	23	12.2 %	17	8.9 %	11	7.5 %	18	10.2 %
マスメディアで常に児童虐待の問題を取り上げ、虐待防止キャンペーンを実施する	3	1.6 %	8	4.2 %	12	8.2 %	7	4.0 %
その他	6	3.2 %	5	2.6 %	2	1.4 %	0	0.0 %
無回答	1	0.5 %	3	1.6 %	5	3.4 %	11	6.2 %
	347	—	353	—	271	—	312	—

4 男女共同参画社会の実現に向けた市の取り組みについておたずねします（問27）

【問27】 男女共同参画社会の実現に向けて、市がすべきことはどのようなことだと思いますか。
（複数回答）

全体でみると、「学校や社会教育の場で学ぶ機会を提供」が男性では36.2%、女性では43.0%となり、最も多くなった。
年代別にみると、「子育てを支援する施設・サービスの充実」が30代で48.1%となり、最も多くなった。



[全体]

	合計		男性		女性		性別記載なし	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
法律や条例などの啓発	160	16.3 %	85	23.0 %	64	12.3 %	11	12.1 %
学校や社会教育の場で学ぶ機会を提供	386	39.3 %	134	36.2 %	224	43.0 %	28	30.8 %
企業や事業主を対象とした啓発	195	19.9 %	78	21.1 %	107	20.5 %	10	11.0 %
D V、セクハラなどをなくす取組	152	15.5 %	51	13.8 %	83	15.9 %	18	19.8 %
介護施設や介護サービスの充実	187	19.0 %	63	17.0 %	106	20.3 %	18	19.8 %
子育てを支援する施設・サービスの充実	307	31.3 %	103	27.8 %	182	34.9 %	22	24.2 %
政策決定の場に積極的に女性を登用	122	12.4 %	56	15.1 %	56	10.7 %	10	11.0 %
男性にとっての意義を重視した啓発	33	3.4 %	14	3.8 %	15	2.9 %	4	4.4 %
女性の意識や能力を高める研修等の実施	76	7.7 %	31	8.4 %	40	7.7 %	5	5.5 %
講演会・フォーラムの実施	51	5.2 %	21	5.7 %	29	5.6 %	1	1.1 %
広報誌やパンフレットなどで啓発	61	6.2 %	27	7.3 %	29	5.6 %	5	5.5 %
その他	18	1.8 %	9	2.4 %	7	1.3 %	2	2.2 %
無回答	44	4.5 %	11	3.0 %	17	3.3 %	16	17.6 %
	1,792	—	683	—	959	—	150	—

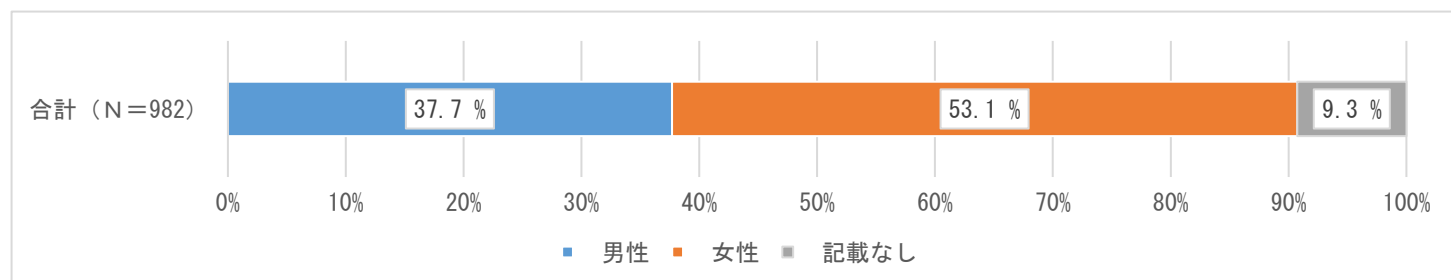
[年代別]

	合計		10代		20代		30代	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
法律や条例などの啓発	160	16.3 %	1	7.7 %	15	16.3 %	30	19.5 %
学校や社会教育の場で学ぶ機会を提供	386	39.3 %	3	23.1 %	30	32.6 %	54	35.1 %
企業や事業主を対象とした啓発	195	19.9 %	2	15.4 %	18	19.6 %	32	20.8 %
D V、セクハラなどをなくす取組	152	15.5 %	4	30.8 %	11	12.0 %	26	16.9 %
介護施設や介護サービスの充実	187	19.0 %	2	15.4 %	20	21.7 %	28	18.2 %
子育てを支援する施設・サービスの充実	307	31.3 %	4	30.8 %	41	44.6 %	74	48.1 %
政策決定の場に積極的に女性を登用	122	12.4 %	2	15.4 %	12	13.0 %	17	11.0 %
男性にとっての意義を重視した啓発	33	3.4 %	0	0.0 %	1	1.1 %	5	3.2 %
女性の意識や能力を高める研修等の実施	76	7.7 %	1	7.7 %	8	8.7 %	9	5.8 %
講演会・フォーラムの実施	51	5.2 %	2	15.4 %	2	2.2 %	5	3.2 %
広報誌やパンフレットなどで啓発	61	6.2 %	1	7.7 %	2	2.2 %	5	3.2 %
その他	18	1.8 %	0	0.0 %	2	2.2 %	4	2.6 %
無回答	44	4.5 %	1	7.7 %	2	2.2 %	2	1.3 %
	1,792	—	23	—	164	—	291	—
	40代		50代		60代		70歳以上	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
法律や条例などの啓発	25	13.2 %	41	21.5 %	21	14.3 %	27	15.3 %
学校や社会教育の場で学ぶ機会を提供	79	41.8 %	78	40.8 %	69	46.9 %	70	39.5 %
企業や事業主を対象とした啓発	50	26.5 %	44	23.0 %	26	17.7 %	21	11.9 %
D V、セクハラなどをなくす取組	28	14.8 %	24	12.6 %	28	19.0 %	28	15.8 %
介護施設や介護サービスの充実	29	15.3 %	39	20.4 %	30	20.4 %	36	20.3 %
子育てを支援する施設・サービスの充実	64	33.9 %	52	27.2 %	34	23.1 %	34	19.2 %
政策決定の場に積極的に女性を登用	27	14.3 %	19	9.9 %	19	12.9 %	24	13.6 %
男性にとっての意義を重視した啓発	13	6.9 %	7	3.7 %	4	2.7 %	3	1.7 %
女性の意識や能力を高める研修等の実施	12	6.3 %	12	6.3 %	14	9.5 %	20	11.3 %
講演会・フォーラムの実施	6	3.2 %	10	5.2 %	9	6.1 %	17	9.6 %
広報誌やパンフレットなどで啓発	15	7.9 %	14	7.3 %	6	4.1 %	15	8.5 %
その他	6	3.2 %	3	1.6 %	2	1.4 %	1	0.6 %
無回答	2	1.1 %	7	3.7 %	6	4.1 %	17	9.6 %

5 あなたご自身についておたずねします（問28～問32）

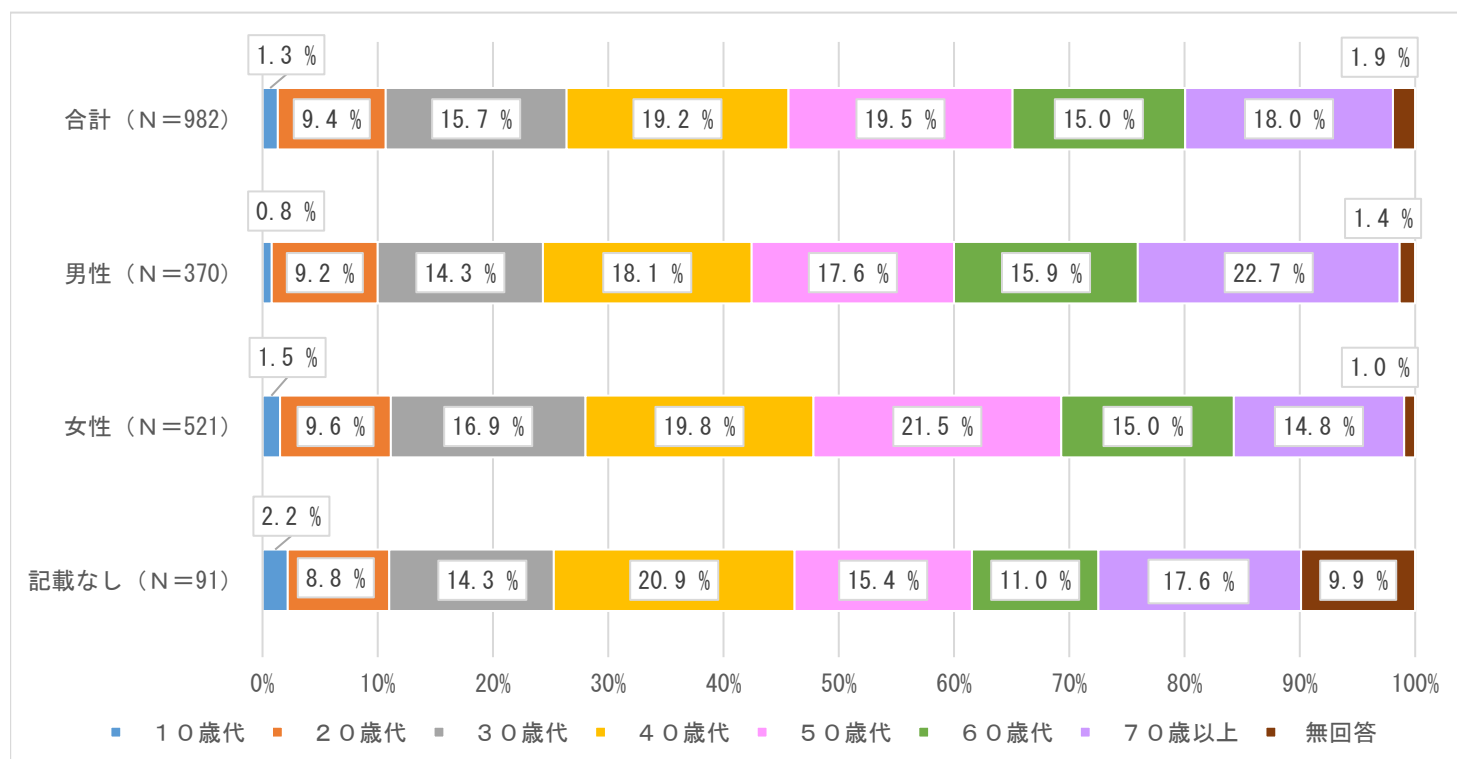
【問28】 あなたの性別についてお答えください。

前回調査と比較して、無回答の割合が7.6ポイント増加した。



【問29】 あなたの年齢はいくつですか。

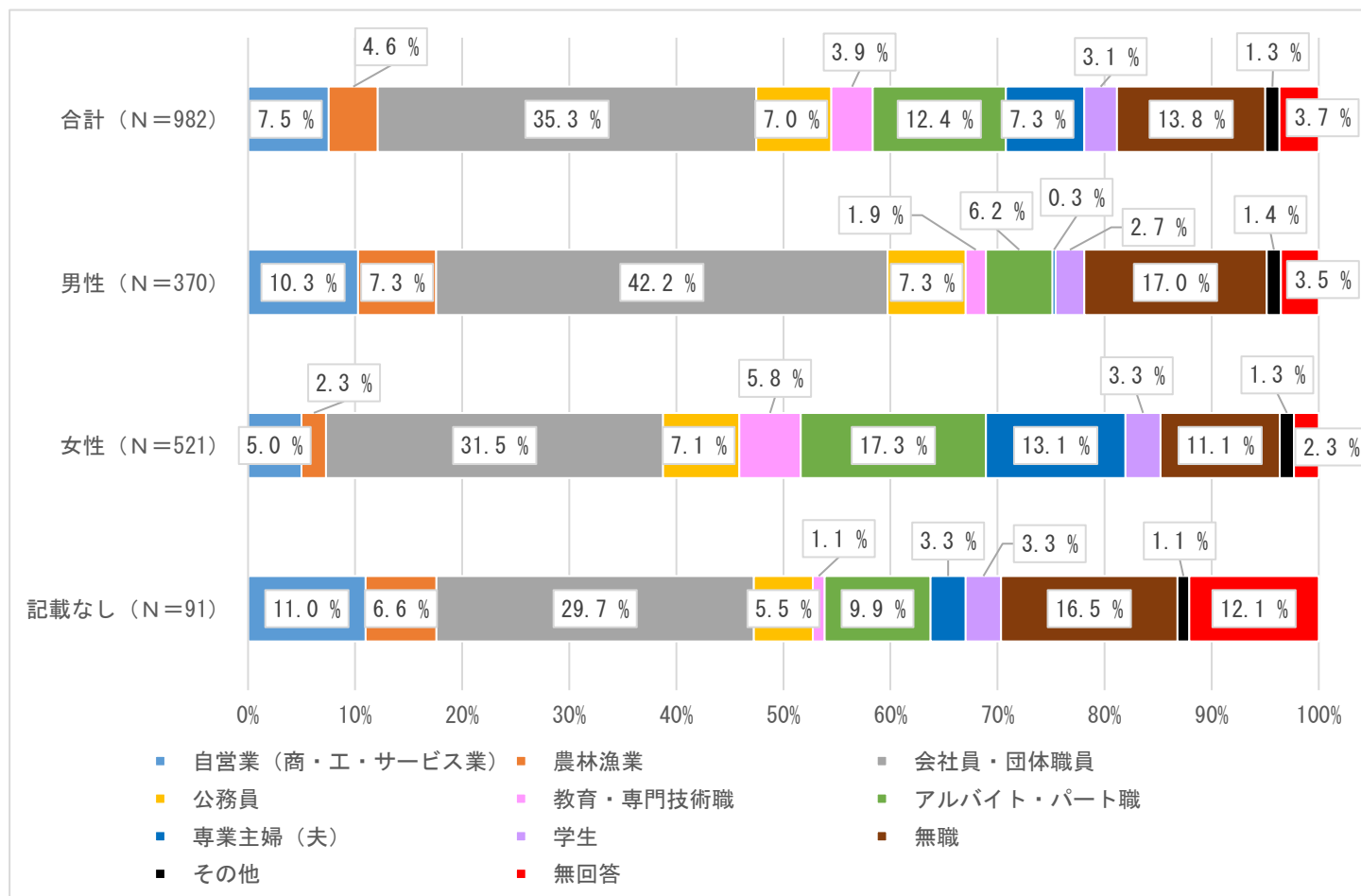
年齢の割合は、「70歳以上」が男性で22.7%、「50歳代」が女性で21.5%となり、最も多くなった。



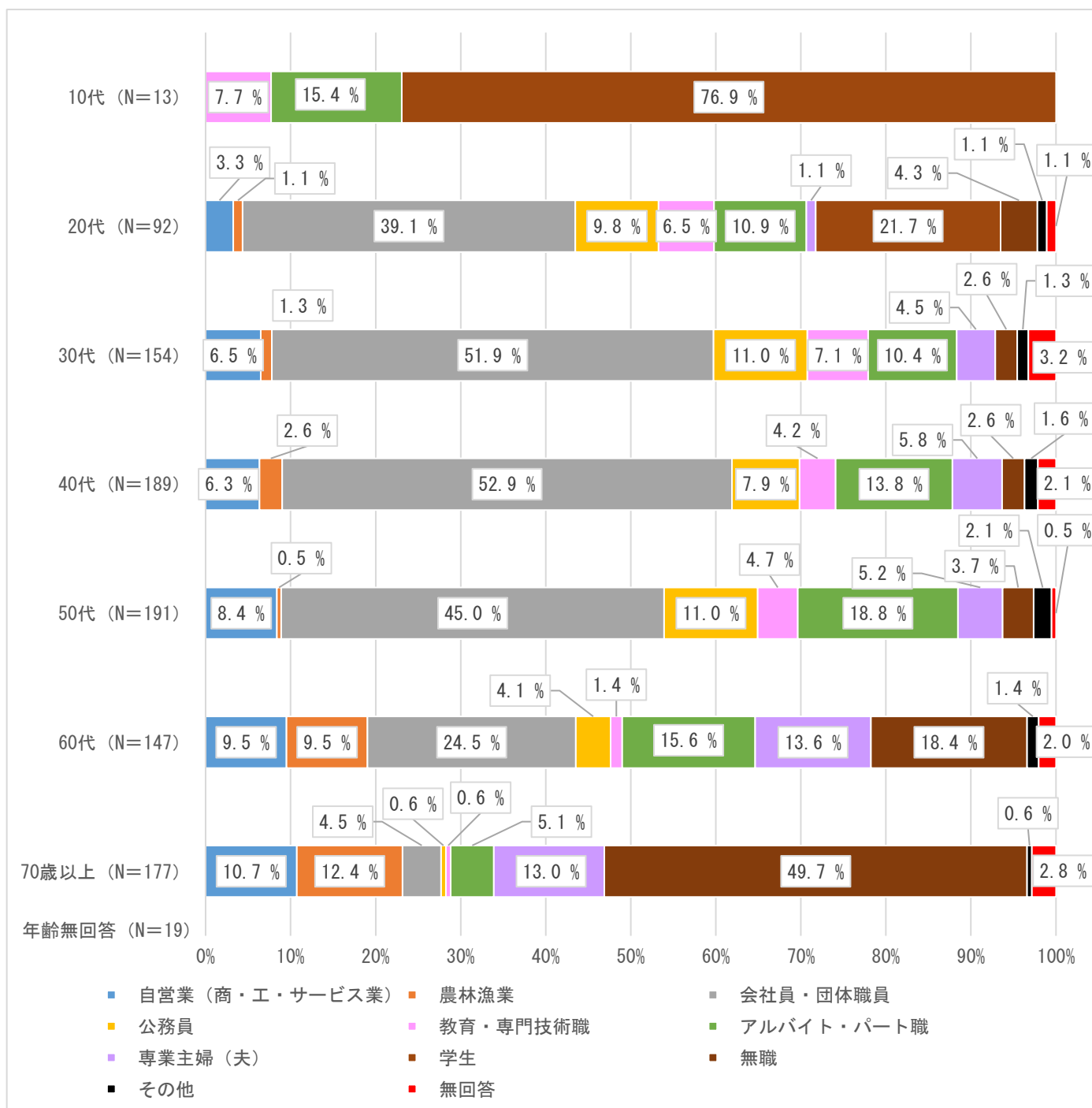
【問30】 あなたの職業は次のうち、どれにあたりますか。

全体でみると、「会社員・団体職員」が男性では42.2%、女性では31.5%となり、最も多くなった。続いて、男性では無職（17.0%）、自営業（10.3%）と続き、女性ではアルバイト・パート職（17.3%）、専業主婦（夫）（13.1%）となった。

【全体】



[年代別]



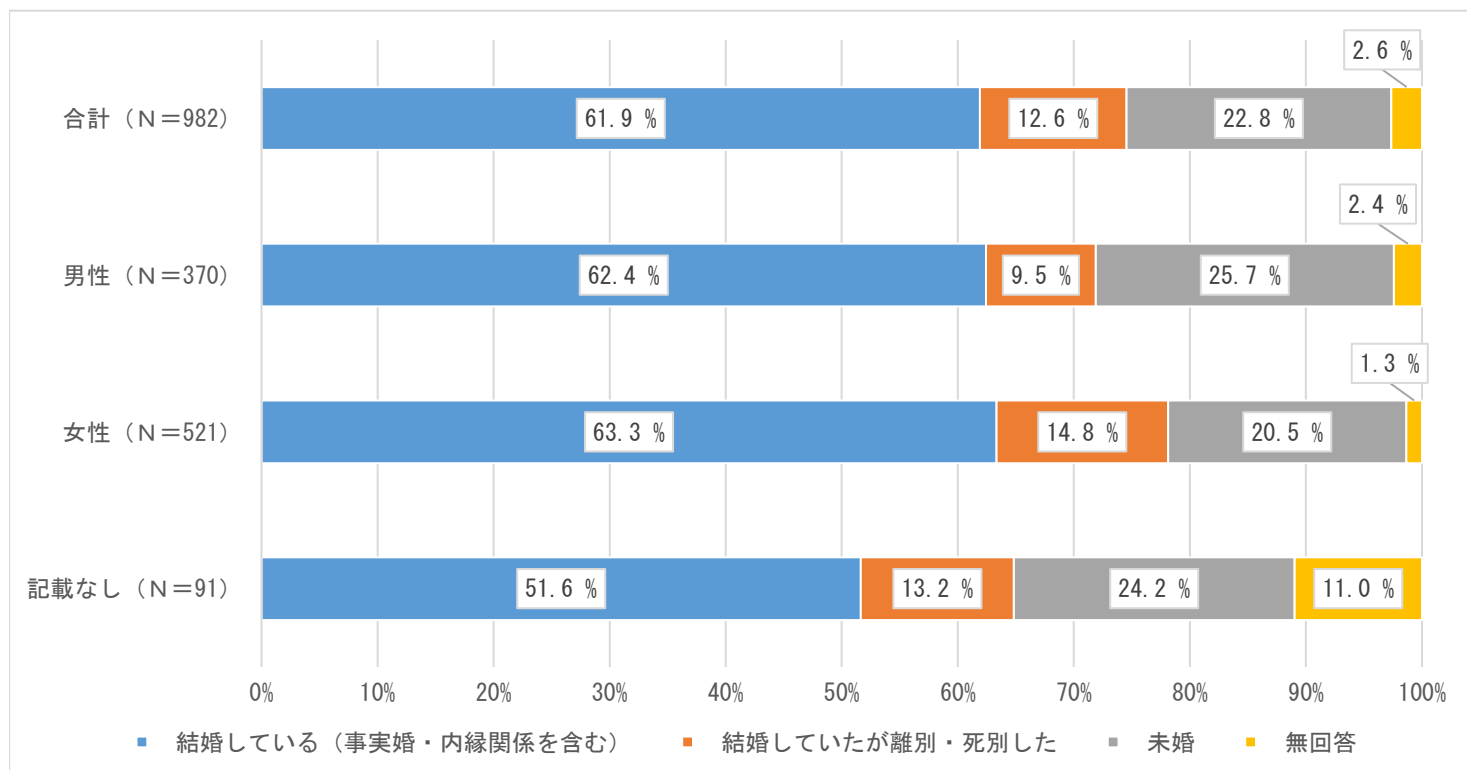
【問31】 あなたは結婚していますか。

全体でみると、「結婚している（事実婚・内縁関係を含む）」が男性では62.4%、女性では63.3%となり、最も多くなった。

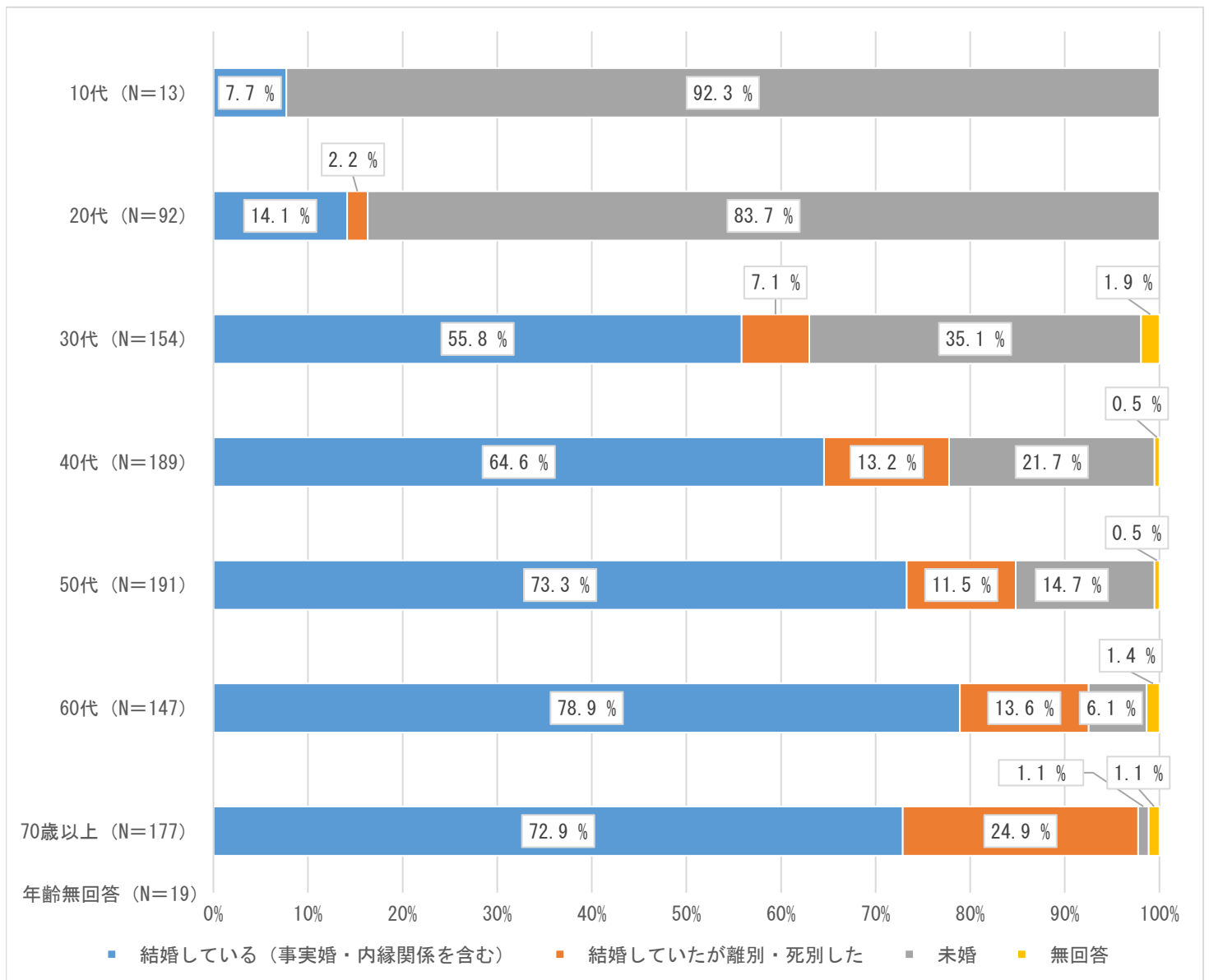
「結婚している（事実婚・内縁関係を含む）」は前回調査と比較して、男性が1.2ポイント増、女性が2.2ポイント減となり、「未婚」は男性が3.3ポイント減、女性が2.1ポイント増となった。

年代別にみると、「結婚している（事実婚・内縁関係を含む）」が60代で78.9%となり、最も多くなった。「未婚」は前回調査と比較して、20代では13.6ポイントの増、30代では4.4ポイントの減、40代では5.2ポイントの増となった。

【全体】



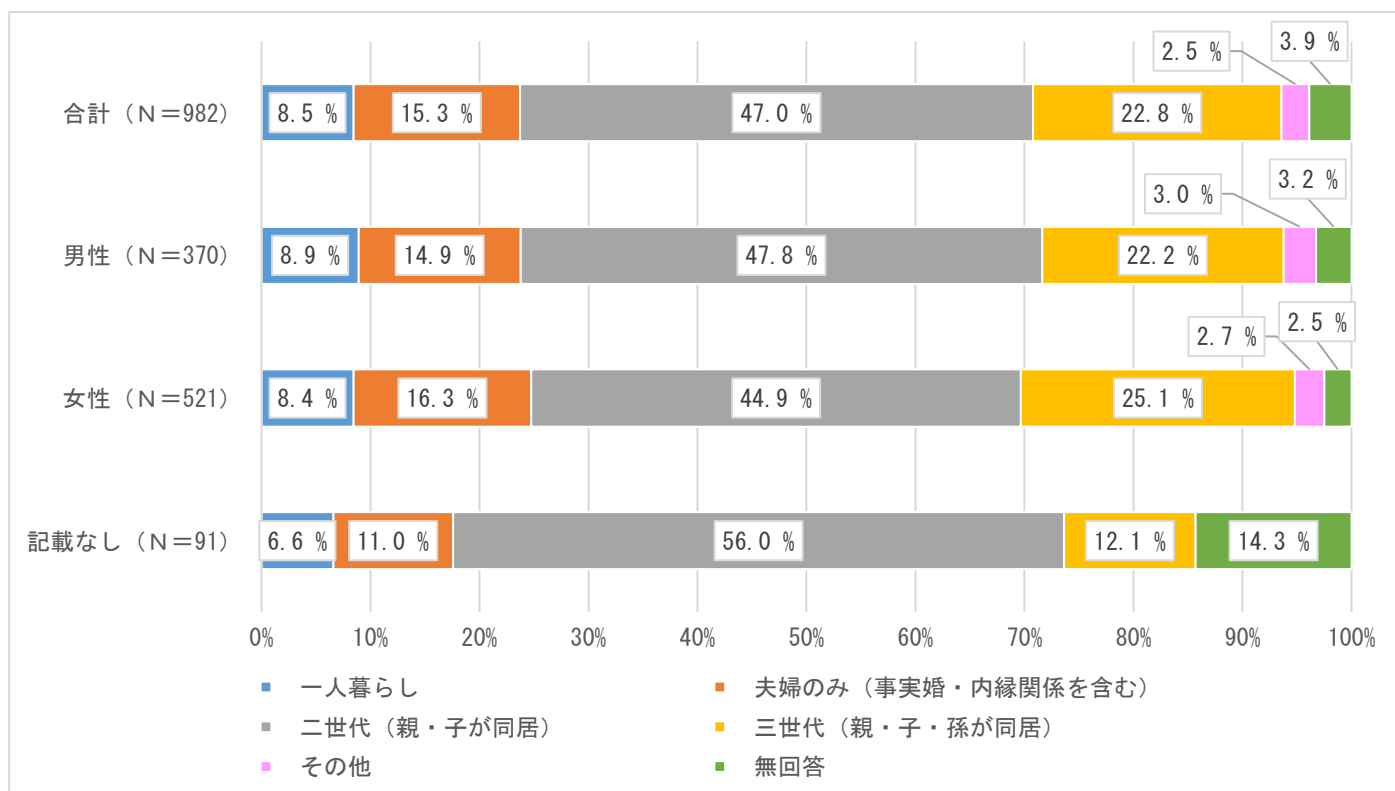
[年代別]



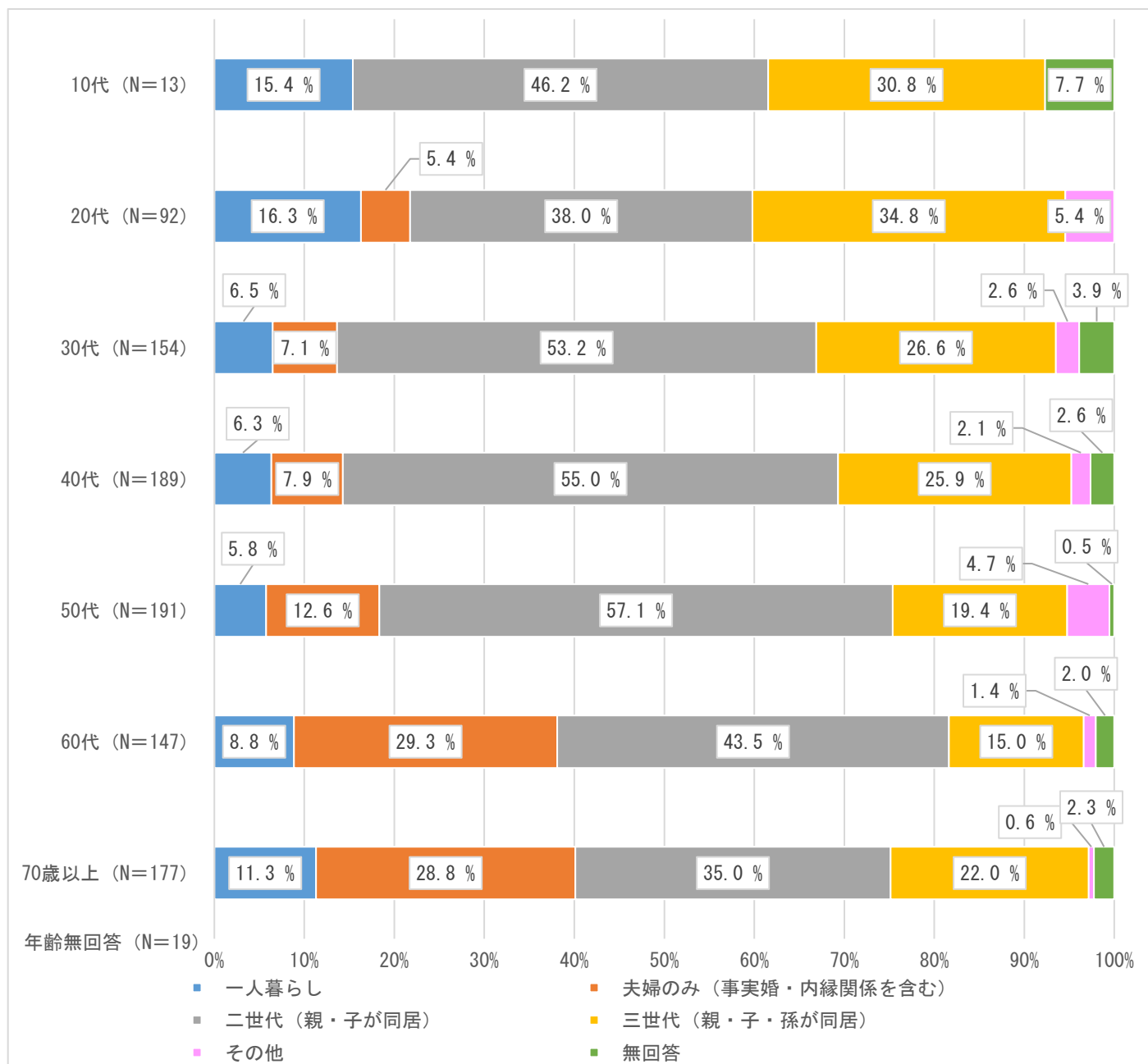
【問32】 あなたの世帯は次のどれにあてはまりますか。（本人を含む）

全体でみると、「二世帯（親・子が同居）」が男性では47.8%、女性では44.9%で最も多くなった。
年代別にみると、「二世帯（親・子が同居）」が50代で57.1%となり、最も多くなった。前回調査と比較すると、40代で「三世帯（親・子・孫が同居）」が8.0ポイント減少し、60代では「夫婦のみ（事実婚・内縁関係を含む）」が4.0ポイント増加した。

【全体】



[年代別]



3 自由意見

【問33】男女共同参画社会の実現に向けたまちづくりについて、ご意見、ご要望、あなたが経験されたこと、感じていることなど、ご自由に記入してください。

	内容	回答者
1	男性にとっても女性にとっても平等とは思わないが、どちらかと言えばやはり女性の方が給与や昇格の機会が少なかったり、まだまだ男社会が根強い。少子化についても、各家庭に国からこのくらいのお金を与えればいいというわけではなく、女性の負担がまだまだ大きいのが問題だと思うので、お金以外のことにも目を向けてほしいと思う。	30歳代 /女性
2	男性でも育休を取ることはできると思うが、実際は仕事に支障が出てしまったり、男性が育休に入る事をよく思わなかったりと様々な要因があって入れない人が多数居ると思います。この世の中を何とかして欲しいです。	20歳代 /男性
3	政治など女性の活躍は目に入ってくるが、実際に首相など上に立つ人で考えるとまだまだ海外に比べて劣っていると感じる。また、痴漢等の冤罪被害も多く挙げられている。していなくても警察についていくと冤罪でも冤罪として取り扱われなくなるとも聞いた。そのようなことが起きないように法整備も合わせて必要になってくると考える。	20歳代 /男性
4	昔の考えを持たない、今の人たちとのコミュニティを広げ固定概念のない、新しい男女共同参画社会の実現を目指してほしい。	20歳代 /男性
5	男女平等推進は良いが、片方の優遇にならないよう注意してほしい。また、若い世代は男女平等の考えが根付いてきているので、しきたり慣習を若い世代に押し付けなければ、急がなくても良い話題かと思う。	30歳代 /女性
6	地域柄もあるのかもしれませんが、「長く一緒に住んでいるからその家族の世話をするのが当たり前」という風潮はおかしいと感じています。いろいろな事情で孫世代が介護をしなければならない事例もあり、孫世代は罵られ、責められ、不安に駆られ、追い詰められています。「長く一緒に住んでいるから」という理由で孫世代に自分の親の介護を押し付け、理不尽に罵り、追い詰めている人が何食わぬ顔で管理職や人の上に立っている世の中はおかしいと思います。法や制度の整備はもちろん、介護をする側、介護される側が人として安心して生活できる環境づくりやカウンセリングなどの充実を望みます。	30歳代 /女性
7	多様な働き方や家庭との関わり方が認められれば良いと思うのですが、現状では選択すらできず、何がなんでも男性も女性もフルタイムで働かざるをえない状況となってしまっていることに憤りを感じています。みんな仕事も家庭も社会も疲れ切っているなど。疲れ切っているから、誰かを思いやれないし、先の不安ばかりが募って、少子化にも拍車がかかり、とにかく悪循環に陥っていると思います。現役世代の声ももっと届いてほしいと思うけど、日々の生活がいっぱいいっぱいでその余裕すらないのが現状。歳を重ねられた方の意見も大事ですが、男女や年齢、仕事、家庭、色々な状況の方の様々な意見が反映されるような議論ができるといいなと思います。	30歳代 /女性
8	世代によっても随分変わってくるとは思いますが、地域や社会に関わることは、嫌なこともあるけれど人との関わりは、自分のやりがいや心と体の健康にもつながることだと思います。ご近所もお付き合いしていくことで、家族間だけではないという老後の希望にもなります。ただ、子育て世代は、時間や金銭的に余裕がない場合、家庭と子育て、お金を稼ぐことで手一杯になってしまうことが多いのも現状だと思います。そのピークが過ぎた頃には、地域やみんなのために自分に出来ることを積極的にしたいなと思っていたところで、企業に関しては、同じ時間働いても男性よりもはるかに賃金が少ないことに慣れてはいましたが、がっかりすることも多く、市内でもそこから目を逸らす中小企業は沢山あることと思います。 24時間、無給でも家族のためと働く方々が男女共同参画社会で少しでもより良い生活に近づけると良いです。	40歳代 /女性

	内容	回答者
9	都会と田舎によりサービスができる、できないところがある。職場、学校、買い物、交通(車、電車、徒歩等)等、様々な都会と田舎には差があり、環境により男女共同参画社会もそれぞれ問題点が違ってくると思う。田舎の場合、今現在生存中の高齢者は(私の祖父母)「男は仕事、女は家庭」の考えが強かった。家事を祖父、父がしているところを見たことがない。又、祖母は不倫等して子供を産まないよう？子宮手術もしていると聞いた。そこまでする必要があるのか？と思ったが…。孫である私は祖母に家事を嫌いになるくらい「女性だから覚えなさい」とさせられた。(長女でもあった為)その経験上、家事が嫌いになり祖母、母と同じようになりたくないと思った。	30歳代 /無回答
10	今の子供達は男女平等など自然と教育と時代に合わせる事が出来ると思うが、旧世代の大人が、今までの教育(家庭教育と社会生活(人権侵害))で思考が古いので、世代間のジェネレーションギャップが大きいと思う。古い価値観の押し付けを無くし、個人の自由な考えを基本に社会性を身に付ける事が、これからは大切な事と思う。	60歳代 /女性
11	女性の社会進出や子育て、介護には全て社会の理解が必要になっていると思う。今は理解されにくい社会だと思う。男女平等の社会ではなくなんでも女性が犠牲になっているのではないか。そして全てのストレスが子供に向けられていると思う。危険だと思ったらすぐに保護等できるようになって欲しい。	40歳代 /女性
12	先日集会所での行事があり、若い世代(30代前後)では、お父さん世代がお母さんを気づかう場面が見られました。通院時なども、最近ではお父さん達が子ども達の面倒をよくみれていると感心します。しかし、50代、60代以上の世代では、男性が介護や家事等をしている方は今現在では少なく感じます。今後は変わっていくかもしれないですが。	50歳代 /女性
13	私達の年代は親世代から頭を押し付けられての生活でしたから、今、これからも実現に向けたまちづくりというものには何も出来ないかと思います。なぜなら介護というものが残っているからです。これからの若い世代が自由に思うように参画できるよう願っています。	60歳代 /女性
14	企業や学校教育の場での理解がそもそも足りていないので、それを社員や生徒に教えていくというのが無理なのではないか、50代以上の方の理解があまりないので高齢者が多い登米市としては発展がないと思う。	50歳代 /女性
15	男女平等と言っている割には、社会では男女の差を感じてしまいます。例えば、職場などでは女性は割と子供の為の休暇等はとりやすいが、男性はなかなか難しいようです。親のどちらかが休めばいいのでは？「必ずと言って上司が発する言葉の中に、自分たちの時は、そんな理由で休めなかった」などの休みづらい状況を作っている感じがします。女性も同じような感じがする場合もある。もっと企業や会社のトップなどの理解が必要だと思う。そういったことが、無くならない限り「男女共同参画」などの分かち合う社会などは望めないのではないのでしょうか。	50歳代 /女性
16	世代的な固定観念特に50才代以降生きてきた社会的現状や家庭環境が男女共同参画社会を理解する意識が低いのではないかと。若い世代は社会や家庭の生活の中であたりまえの現実として男女共同参画を受け止めているように思われる。世代的な意識を変えることは難しい。	60歳代 /女性
17	「男女共同参画社会」と言う言葉を耳にしてから、随分になります。その時代の流れに沿って様々な意見が出されて計画、そして取組がなされてきていると思います。互いに尊重し合いながら事を進めて行く大切さを意識し、実現できるよう皆での努力が大切だと思います。社会の情勢、経済事情も関係してくると思います。	70歳以上 /女性
18	この言葉はしばらく前から聞いているがなかなか具体的な政策が見えてこない。集団組織の中ではまだまだ男女平等の風習が生まれていない現状。経済的にも身体的にもゆとりある生活が心身の健康につながる。男女共同参画社会実現につながる。	60歳代 /女性
19	「女は家庭」「仕事で休みを取りづらい」などなんとなくある風潮のため、女性の肩身が狭い世の中だと思う。男女問わず、ご年配の方たちの意識改革が全てだと思う。若い人たちが他人事としないで意欲的にまちづくりに関わってほしい。	40歳代 /女性

	内容	回答者
20	若い頃は男性を立て、女性は家を守ることがよいと思っていたし、周りもそうでした。現在は女性も仕事を持ち、男性と変わらない世の中、虐待やらDVやら性的マイノリティによって亡くなったという事件を聞くとやはり悲しいですね。時代とともに国も地域も変わらないといけないと思います。	60歳代 /女性
21	教育の場では男女平等の地位が出来ていると思うが、社会に出れば未だ男性が優遇されている環境があると自覚している。しかし、若い世代ほど男女共同参画に関して、家庭内に於いても、地域社会に対しても理解し、積極的に取り組む姿勢があると感じている。20歳代、30歳代の男性、女性と接していると、むしろ女性の方が活発であり、向上心があり、時に感情的である様に思う。包容力に満ちた女性にモテる若い男性の様な「地域環境整備」を期待するところである。聞きたくない話も最後まで丁寧に聞き、生涯学習の機会を増す。啓発の回数を増す、充実した計画作成を期待いたします。	60歳代 /男性
22	“男女共同参画社会”というワードが「旬だな～」と思いました。朝ドラを見ていましたが、「女だから～・・・。」、「これだから女性は・・・」というのは今の時代にもあるのではないかと思います。そのように思っている”年代”もあるように思います。これからの時代、男女関係ない立場が必要となる。そのためにも女性管理職の起用や男性の育休取得の推進は行政から積極的に行っていくべきだと思います。	30歳代 /女性

登米市男女共同参画に関する市民アンケート

アンケートの趣旨とお願い

市民の皆様には、日ごろより市政の発展にご協力いただき、ありがとうございます。

このアンケートは、市民の皆様の男女共同参画に対する意識や実態をお聞きし、第5次登米市男女共同参画基本計画を策定するための基礎資料とさせていただくため、18歳以上の市民の皆様の中から無作為に抽出した3,000人を対象として、ご回答をお願いするものです。

集計したアンケート結果は、市のホームページで公表させていただく予定ですが、個人が特定されることはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和6年9月

登米市長 熊谷盛廣

【回答方法】いずれかの方法でご回答ください。

郵送による回答

同封のアンケートにご記入の上、返信用封筒に入れて、投函してください。

切手、住所氏名の記入は不要です。

または

WEB アンケートによる回答

右のQRコードを読み取り
ご回答ください。



<https://forms.gle/jVfgQQ9bxfTJyzKP8>

【郵送回答締切】令和6年10月4日（金）まで投函

【WEB 回答締切】令和6年10月4日（金）24：00まで

回答にあたっての留意事項

- (1) このアンケートはあて名のご本人がご自身のお考えでご回答ください。なお、ご本人による記入が難しい場合は、ご家族の方が回答を聞き取るなどしてご回答ください。
- (2) 回答は、該当する番号または指定された項目の欄に○印をつけてください。
「その他」を選択された場合は、〔 〕内にできるだけ具体的な内容をご記入願います。
- (3) アンケートにご記入いただいた内容は、本アンケートの分析以外の目的には一切使用いたしません。

問い合わせ先

登米市市民生活部市民生活課

市民総務係

電話：0220-58-2118（直通）

1. 男女平等や性別による役割分担意識についておたずねします

問1 あなたは、「男女共同参画社会」について知っていますか。〔1つだけに○印〕

（男女共同参画社会とは、すべての人が性別にかかわらず個人として尊重され、共に責任を分かち合う社会のことです。）

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 内容まで知っている | 2. 言葉を見聞きしたことがある程度 |
| 3. 知らなかった | |

問2 あなたは、次のような項目について男女の地位は平等になっていると思いますか。

〔①～⑧について、それぞれ1つだけに○印〕

項 目	女性が優遇 されている	どちらかとい えば女性 が優遇され ている	平等になっ ている	どちらかとい えば男性 が優遇され ている	男性が優遇 されている	わからない
①家庭の中で						
②職場の中で						
③地域の中で						
④しきたりや慣習で						
⑤法律や制度の上で						
⑥政治の場で						
⑦教育の場で						
⑧社会全体として						

問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。〔1つだけに○印〕

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う |
| 3. どちらかといえばそう思わない | 4. そう思わない |

問4 あなたは、女性が仕事を持つことについてどう思いますか。〔1つだけに○印〕

1. 女性は仕事を持たない方がよい
2. 結婚するまでは仕事を持つ方がよい
3. 子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい
4. 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら仕事を持つ方がよい
5. 仕事をもち続ける方がよい

問5 あなたの家事、育児、介護にかかわる時間は、1日当たりどのくらいですか。

〔①～③について、それぞれ1つだけに○印〕

項目	していない (0 時間)	30 分未満	30 分～ 1 時間未満	1 時間～ 2 時間未満	2 時間以上	該当なし
①家事						
②育児						
③介護						

問6 あなたは、あなた自身が介護が必要になった時、身の回りの世話は次のどの形を希望しますか。
〔1つだけに○印〕（現在介護を受けている方は、現状をお答えください）

1. 配偶者が世話をする
2. 娘や嫁など家族の女性が世話をする
3. 息子や夫など家族の男性が世話をする
4. 家族全員で世話をする
5. 介護保険制度などのサービスを利用する
6. 介護保険施設（特別養護老人ホームなど）を利用する
7. その他〔 〕

問7 働きたい女性が、出産・子育て・介護などにより就業を中断することなく、意欲を持って仕事を継続していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。

〔あてはまるものすべてに○印〕

1. 育児や介護のための施設・サービスの拡大
2. 男性の家事・育児・介護などへの理解と協力
3. 長時間労働慣行の是正
4. 週休2日制やフレックスタイムなどの柔軟な勤務形態
5. 育児休業・介護休業制度の普及・促進
6. 雇用・労働条件での女性差別をなくす
7. 能力開発や技術習得のための講座・研修会の実施
8. これから起業しようとする人への支援の充実
9. 特に条件整備は必要ない
10. その他〔 〕

問8 男性が育児休業や介護休業を取得することについて、どう思いますか。

〔①、②について、それぞれ1つだけに○印〕

項 目	積 極 的 に 取った方がよい	どちらかといえば 取った方がよい	どちらかといえば 取らない方がよい	取らない 方がよい	わからない
①育児休業					
②介護休業					

問9 男性が育児休業や介護休業を取得できない、または取得しない理由をどう考えますか。

〔1つだけに○印〕

1. 女性の方が育児や介護に適していると思うから
2. 男性が育児休業や介護休業を取得する例がない、または少ないから
3. 上司の理解が得られないから
4. 仕事に支障があるから
5. 収入が減るから
6. その他〔 〕

問 10 コミュニティや行政区などの地域活動の方針決定の場に、女性の参画が少ないのはなぜだと思いますか。〔2つまでに○印〕

1. 団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行があるから
2. 女性が表に出るべきではないという雰囲気があるから
3. 女性は発言しにくい雰囲気があるから
4. 女性が役職に就きたがらないから
5. 女性は家事・育児・介護で忙しいから
6. その他〔 〕

問 11 地域において男女共同参画を進めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。〔1つだけに○印〕

1. 男性の意識啓発のための研修
2. 女性の意識啓発のための研修
3. 女性リーダーの育成研修
4. 地域に対する普及・啓発等の働きかけの推進
5. 男女共同参画が進んでいる地域の情報提供
6. その他〔 〕

問 12 地域において、役員などの女性の割合をあらかじめ一定数に定め、積極的に起用する制度（クォータ制）を導入することは必要だと思いますか。〔1つだけに○印〕

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 必要だと思う | 2. どちらかといえば必要だと思う |
| 3. どちらかといえば必要だと思わない | 4. 必要だと思わない |

2. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）についておたずねします

問 13 あなたは、ワーク・ライフ・バランスについて知っていますか。

（ワーク・ライフ・バランスとは、人々の健康を維持し、趣味や学習、地域社会への参画等を通じた自己実現を可能にするとともに、育児・介護も含め、家族が安心して暮らし、責任を果たしていく上で重要なものです。）〔1つだけに○印〕

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 内容まで知っている | 2. 言葉を見聞きしたことがある程度 |
| 3. 知らなかった | |

問 14 生活の中での、仕事・家事（育児、介護）・プライベートな時間（趣味など）の優先度についてお答えください。〔「現状」と「理想」について、それぞれ1つだけに○印〕

【現状】

1. 仕事優先
2. 家事優先
3. プライベートな時間優先
4. その他〔 〕

【理想】

1. 仕事優先
2. 家事優先
3. プライベートな時間優先
4. その他〔 〕

問 15 あなたは、管理職に昇進できるのであれば、昇進したいと思いますか。〔1つだけに○印〕

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 昇進したい | 2. どちらかといえば昇進したい |
| 3. どちらかといえば昇進したくない | 4. 昇進したくない |

問 16 問 15 で、「3. どちらかといえば昇進したくない」または「4. 昇進したくない」と回答した方に伺います。どのような状況になれば昇進したいと思いますか。〔1つだけに○印〕

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1. 管理職の仕事が魅力あるものに思える | 2. 長時間労働がない |
| 3. 休業、休暇が取りやすい | 4. 年収が自分の希望に合う |
| 5. 家族の理解・協力がある | 6. 育児・介護の必要がない |
| 7. どのような状況でも昇進したいと思わない | |
| 8. その他〔 | 〕 |

問 17 仕事と家庭を両立していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
〔1つだけに○印〕

- | | |
|----------------------------------|---|
| 1. 男女の役割分担について、社会通念・慣習・しきたりを改める | |
| 2. 家族の間で家事などの分担について十分話し合う | |
| 3. 家事などを男女で分担するようなしつけや教育をする | |
| 4. 保育サービス・介護サービスを充実させる | |
| 5. 子育て中の短時間勤務など、柔軟な勤務形態を普及・促進させる | |
| 6. 仕事中心という社会全体の仕組を改める | |
| 7. わからない | |
| 8. その他〔 | 〕 |

問 18 ワーク・ライフ・バランスの推進により、考えられる効果はどれですか。
〔あてはまるものすべてに○印〕

- | | |
|---|---|
| 1. 子育てや介護など、個人の置かれた状況に応じて多様で柔軟な働き方が選択できる | |
| 2. 妊娠・出産する女性の継続就業や短時間勤務など、希望する働き方が可能になる | |
| 3. 自己啓発や趣味の時間が増え、能力を高めたり、満足感を得たりすることができる | |
| 4. 働く人々が地域活動に関われるようになり、地域の活性化と安全性の向上につながる | |
| 5. 長時間労働が減り、心身の健康によい影響を及ぼす | |
| 6. 人口減少が進行する中、女性や高齢者など多様な人材が活用できるようになり、労働力不足の解消につながる | |
| 7. 一人ひとりが、やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる | |
| 8. 子どもと関わる時間が増えるなど、安心して子どもを産み育てることができる | |
| 9. 仕事と家庭の両立や子育ての環境が整い、少子化の進行を防ぐことができる | |
| 10. 企業が個々のニーズ（希望や必要性）に対応した就業環境を提供することで、従業員の意欲や満足度が高まり、優秀な人材を確保・定着させることができる | |
| 11. その他〔 | 〕 |

3. 人権についておたずねします

問 19 あなたは、性的マイノリティの総称の1つとして使用されているLGBTQ+（プラス）について知っていますか。

（LGBTQ+とは、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クエスチョニングもしくはクィア、プラスの頭文字からなる言葉で性的マイノリティの総称のひとつとして使用されます。）

〔1つだけに○印〕

L	レズビアン (Lesbian)	女性が好きな女性。
G	ゲイ (Gay)	男性が好きな男性。
B	バイセクシュアル (Bisexual)	男性も女性も好きになる人。
T	トランスジェンダー (Transgender)	出生時に割り当てられた性（身体の性）と性自認が異なっている人。 性自認が男性、女性に二分しない、できないエックスジェンダーも含む。
Q	クエスチョニング/クィア (Questioning/Queer)	クエスチョニング：自分の性のあり方について「わからない」「迷っている」「決めたくない」状態を指す。 クィア：性的マイノリティを包括する言葉。元々は「変わった、奇妙な」という意味で同性愛者を侮蔑する言葉だったものが、当事者が前向きな意味で使いだした経緯がある。
+	プラス (+)	性はとても多様であり、上記以外にもたくさんの性のあり方があることから、包括的な意味をもつ。

1. 内容まで知っている

2. 言葉を見聞きしたことがある程度

3. 知らなかった

問 20 多様な性のあり方や性的マイノリティに関する相談窓口があることを知っていますか。

〔1つだけに○印〕

1. 知っている

2. 知っているが詳しくはわからない

3. 知らない

問 21 性的マイノリティの方を支援していくためにどのようなことが必要だと思いますか。

〔2つまでに○印〕

1. 性的マイノリティに関する学校教育を進める
2. 周囲の理解不足を解消するための周知啓発の取組
3. ハラスメントのない職場環境に向けて事業主等への周知啓発の取組
4. 性的マイノリティの方や家族が相談できる体制の充実
5. 窓口対応する市役所等職員への研修・教育
6. 性的マイノリティの人権を守るための施策を進める
7. パートナシップ制度等の整備
8. その他〔

問 22 DV（ドメスティック・バイオレンス）の被害を受けたり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。（DVとは、配偶者や恋人など、親密な関係にあるパートナーから受ける身体的・精神的・経済的・性的暴力で、個人の尊厳を害するばかりでなく犯罪となる行為です。）〔1つだけに○印〕

1. 自分が直接被害を受けたことがある
2. 相談を受けたことがある
3. 相談を受けたことはないが、被害を受けた人を知っている
4. 自分の身近で被害を受けた人がいると聞いたことがある
5. 自分の身近には、被害を受けた人はいないと思う

問23 DV相談の窓口が、国、県、市、警察にそれぞれあることを知っていますか。

〔1つだけに○印〕

1. 知っている 2. 知っているが詳しくはわからない
3. 知らない

問 24 DVを防ぎ、被害を受けた方を支援していくためにどのようなことが必要だと思いますか。

〔2つまでに○印〕

1. 人権や男女平等に関する学校教育を進める
2. DVは人権侵害であり、犯罪となる行為であることの周知啓発の徹底
3. 被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やす
4. 110番したらすぐに警察官がかけつけてくれる
5. 被害から逃れた（逃れようとする）方が、住むところや仕事などについて相談できる専門機関の設置
6. 被害から逃れた方が、経済的に自立するための住居の提供や就業支援、資金貸与
7. （トラブルを抱えた夫婦間・恋人間の）子どものことについて相談したり、一時的に預かってもらえる体制等の整備
8. 加害者に対するカウンセリングやサポートを進める
9. その他〔 〕

問 25 児童虐待を受けたと思われる児童を発見した場合、それを児童相談所または福祉事務所に通告する義務があることを知っていますか。〔1つだけに○印〕

- 1.知っている
2.知っているが詳しくはわからない
3.知らない

問 26 児童虐待をなくすためにどのようなことが必要だと思いますか。〔2つまでに○印〕

1. 親へのカウンセリング体制の確立
2. 法で厳しく規制する
3. 警察が介入できるシステムの確立
4. 児童相談所や児童養護施設を増やす
5. 子育てを支援する施設・サービスの充実
6. 経済的な支援の充実
7. 親や子どもが孤立しないような取組を行う
8. 親が息抜きできる時間をつくる
9. マスメディアで常に児童虐待の問題を取り上げ、虐待防止キャンペーンを実施する
10. その他〔 〕

4. 男女共同参画社会の実現に向けた市の取組についておたずねします

問 27 男女共同参画社会の実現に向けて、市がすべきことはどのようなことだと思いますか
〔2つまでに○印〕

1. 法律や条例などの啓発
2. 学校や社会教育の場で学ぶ機会を提供
3. 企業や事業主を対象とした啓発
4. DV、セクハラなどをなくす取組
5. 介護施設や介護サービスの充実
6. 子育てを支援する施設・サービスの充実
7. 政策決定の場に積極的に女性を登用
8. 男性にとっての意義を重視した啓発
9. 女性の意識や能力を高める研修等の実施
10. 講演会・フォーラムの実施
11. 広報紙やパンフレットなどで啓発
12. その他〔

5. あなたご自身についておたずねします

問 28 あなたの性別についてお答えください。〔1つだけに○印〕

1. 男性 2. 女性 3. 無回答

問 29 あなたの年齢はいくつですか。〔1つだけに○印〕

1. 10歳代 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代
5. 50歳代 6. 60歳代 7. 70歳以上

問 30 あなたの職業は次のうち、どれにあたりますか。

〔2つ以上該当する場合は、主な方1つだけに○印〕

1. 自営業（商・工・サービス業）
2. 農林漁業
3. 会社員・団体職員
4. 公務員
5. 教育・専門技術職
6. アルバイト・パート職
7. 専業主婦（夫）
8. 学生
9. 無職
10. その他〔 〕

問 31 あなたは結婚していますか。〔1つだけに○印〕

1. 結婚している（事実婚・内縁関係を含む） 2. 結婚していたが離別・死別した
3. 未婚

問 32 あなたの世帯は次のどれにあてはまりますか。(本人を含む)〔1つだけに○印〕

1. 一人暮らし
2. 夫婦のみ(事実婚・内縁関係を含む)
3. 二世帯(親・子が同居)
4. 三世帯(親・子・孫が同居)
5. その他〔 〕

問 33 男女共同参画社会の実現に向けたまちづくりについて、ご意見、ご要望、あなたが経験されたこと、感じていることなど、ご自由に記入してください。

アンケートは以上です。

ご協力いただき、誠にありがとうございました。
ご記入もれがないよう確認をしていただき、同封の返信用封筒に入れ
切手を貼らずに令和6年10月4日（金）までに投函してください。